

Title	東京歯科大学研究年報 : 平成16年度
Journal	東京歯科大学研究年報, (): -
URL	http://hdl.handle.net/10130/389
Right	

1. オーラルメディシン講座

プロフィール

1. 教職員と主研究テーマ

教授	山根 源之	早期舌癌の診断に関する実験的研究 (A00-0620-2)
助教授	外木 守雄	顎変形症患者の形態および機能異常の評価と治療法に関する研究 (A97-0620-1)
講師	森本 光明	歯科用金属アレルギー診断と治療に関する研究 (A94-0620-2)
	小澤 靖弘	上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的, 臨床的研究 (A96-0620-1)
助手	木津 康博	口腔乾燥症, シェーグレン症候群に関する基礎的ならびに臨床的研究 (A94-0620-1)
	蔵本 千夏	呼吸器管理下における感染部分のための口腔ケア方法 (A00-0620-1)
	渡邊 裕	口腔癌検診におけるスクリーニングのための検査法 (A98-0620-2)
	森崎 重規	自己免疫性口腔粘膜疾患(主として水疱形成疾患)の診断と治療(A01-0620-1)
	岡崎雄一郎	口腔上皮異形成の癌化能の診断に関する実験的研究 (A02-0620-1)
	高田 篤史	放射線照射治療に伴う口腔乾燥症に関する実験的研究 (A03-0620-1)
	佐藤 一道	早期舌癌の診断に関する実験的研究 (A00-0620-2)
病院助手	武田 宇央	放射線照射治療に伴う口腔乾燥症に関する実験的研究 (A03-0620-1)
	花上 伸明	放射線照射治療に伴う口腔乾燥症に関する実験的研究 (A03-0620-1)
	大塚 裕	早期舌癌の診断に関する実験的研究 (A00-0620-2)
	武安 嘉大	上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的, 臨床的研究 (A96-0620-1)
	加藤 順久	上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的, 臨床的研究 (A98-0620-1)
	潮田 高志	早期舌癌の診断に関する実験的研究 (A00-0620-2)
	上條 穂	骨の再生に関する研究 (A01-0620-2)
	多田 和弘	顎変形症患者の形態および機能異常の評価と治療法に関する研究 (A97-0620-1)
	内田 淳	口腔癌検診におけるスクリーニングのための検査法 (A98-0620-2)
	萩野 高司	早期舌癌の診断に関する実験的研究 (A00-0620-2)
	森下 仁史	自己免疫性口腔粘膜疾患(主として水疱形成疾患)の診断と治療(A01-0620-1)
	山崎 喜範	当科問診表の改定について
大学院生	宇治川清登	上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的, 臨床的研究 (A98-0620-0)
	浮地賢一郎	歯科用金属アレルギー診断と治療に関する研究 (A94-0620-2)
	吉野 正泰	上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的, 臨床的研究 (A98-0620-1)
	渡邊 伸也	早期舌癌の診断に関する実験的研究 (A00-0620-2)

	五十嵐崇恭	口腔粘膜上皮細胞に関する基礎的研究
	河合 毅師	摂食、嚥下機能に関する臨床的研究
	高木 幸子	放射線照射治療に伴う口腔乾燥症に関する実験的研究 (A03-0620-1)
	吉田 恭子	口腔上皮異形成の癌化能の診断に関する実験的研究 (A02-0620-1)
	高倉 克博	放射線照射治療に伴う口腔乾燥症に関する実験的研究 (A03-0620-1)
	藤本 勝	上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的, 臨床的研究 (A98-0620-1)
	宮本 郷	早期舌癌の診断に関する実験的研究 (A00-0620-2)
専修科生	中村 直史	上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的, 臨床的研究 (A98-0620-1)
	塚本 裕介	睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置について
	神谷咲希子	呼吸器管理下における感染部分のための口腔ケア方法 (A00-0620-1)
	高澤 美貴	上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的, 臨床的研究 (A98-0620-1)

2. 成果の概要

1) 口腔上皮異形成の癌化能の診断に関する実験的研究 (A02-0620-1)

今回我々は、臨床的に上皮性異形成、もしくは早期癌と診断された患者を対象とし、東京歯科大学倫理委員会の規定に基づき、遺伝子解析研究の内容を十分に説明し、同意を得た各検体から Laser micro dissection 法を用いて mRNA を抽出し、Affymetrix 428 Array Scanner (Affymetrix 社製) を用いて特異的な遺伝子を検出し、同時に免疫組織化学染色を行い、比較検討を行った。検索を行った結果、正常組織と比較した上皮性異形成、早期癌組織から発現強度が増強、減弱した遺伝子が数種類認められた。今後はこれらの遺伝子の多角的な検索を進めていく予定である。

2) 顎変形症患者の形態および機能異常の評価と治療法に関する研究 (A97-0620-1)

・睡眠時無呼吸症候群に対するアプローチ・

閉塞性睡眠時無呼吸症候群 (OSAHS) に対する治療法には体重減量指導や経鼻的持続陽圧呼吸 (Nasal-CPAP), 下顎前方移動固定装置などの口腔内装置を用いての保存的治療法があるが、終夜睡眠ポリグラフィ検査 (PSG) により中等度から重症と診断された場合、外科的に上部気道を拡大する軟口蓋形成術や上下顎の前方移動術などを適応する場合がある。今回我々は OSAHS を併発する Crouzon 症候群患者に対し顎外科手術と併せて創外固定骨延長器 Rigid External Distraction System (RED) を応用し、顔面形態と OSAHS の改善が得られたので報告する。

日顎変形会誌 14(2), 137 ~ 144, 2004

3) Cortical regulation during the early stage of initiation of voluntary swallowing in humans.

The aim of the present study was to reveal the spatiotemporal relations among cortical regions involved in the initiation of voluntary swallowing in humans using magnetoencephalography (MEG). As a control task, finger extension movement, which is purely voluntary, was also investigated using the same techniques. The swallowing-related activity was distributed widely for 2000 ms before the electromyogram onset of the right suprahyoid muscle; however, the finger-related activity occurred

in the late stage of the recording. The cingulate cortex, the insula, and the inferior frontal gyrus were the main loci active prior to swallowing. These cortical loci coincide with those suggested by previous human brain mapping studies that investigated the brain mechanism which controls swallowing. Activation in the cingulate cortex was registered in the early stage of swallowing and could be related to the cognitive process regarding the food being safe to swallow. The activation in the insula lasted for a long time before the initiation of swallowing. This suggests that the long-lasting activation in the insula prior to swallowing is essential for the initiation of swallowing.

Dysphagia 19(2), 100~108, 2004

日全身咬合会誌 10(2), 42~48, 2004

4) 歯科用金属アレルギー診断と治療に関する研究 (A94-0620-2)

歯科用金属アレルギーの診断は臨床で苦慮する機会が多い。通常その診断には皮膚貼布試験が用いられるが、皮膚貼布試験は負荷試験であり、症状を増悪させたり、別の金属を感作させる危険性がある。一次刺激とアレルギー反応の判定が困難な場合が多く、判定者による判定の相違がある。以上の欠点を改善する目的から、歯科用金属アレルギーの客観的診断に薬剤刺激リンパ球幼若化試験を診断に応用した。また、皮膚貼布試験の判定にメグザメーターを応用した。リンパ球幼若化試験の抗原の種類濃度により診断的価値が認められた。メグザメーターを使用することにより判定者による相違が軽減できた。これらの方法により歯科用金属アレルギーの診断における客観性が増し有用であることが明らかになった。このことから多施設を多くの症例において比較検討することが可能となった。これらの方法が診断や予後に明確な根拠を得るものと考えられた。

アレルギー科 18 (5), 449~459, 2004

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
外木 守雄	放射線治療における口腔粘膜障害 RBE (reaction of biological effect) の定量化とその修飾因子の研究	放射線医学総合研究所 重粒子センター	千葉市	溝江 純悦
渡邊 裕	嚥下障害解明に向けた基礎的研究：嚥下誘発における上位脳の役割	新潟大学医歯学総合研究科顎顔面機能学部門	新潟市	山田 好秋
木津 康博 宇治川清登	上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的、臨床的研究	COMPRU, Misericordia Community Hospital University of Alberta	Edmonton, CA	Johan Wolfaardt
山根 源之 外木 守雄 五十嵐崇恭	Flowcyto metryを用いたSP細胞抽出・解析	慶應義塾大学 生理学教室 Flow Labo	東京都	岡野 栄之 松崎 有未

4. 科研費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
山根 源之	口腔癌の早期診断のための検査法の確立に関する研究	科学研究費・基盤（C）
木津 康博	頭蓋顔面における Zygomaticus fixture の生体力学的検討	科学研究費・若手（B）
岡崎雄一郎	口腔上皮異形成の癌化過程における発癌遺伝子について	科学研究費・若手（B）
高田 篤史	DTH マウスモデルでの口腔粘膜局所のランゲルハンス細胞における共刺激分子の役割	科学研究費・若手（B）

5. 研究活動の特記すべき事項

受賞

受賞者名	年月日	賞名	テーマ	学会・団体名
小澤 靖弘	2004.10.23	優秀ポスター賞	Trend toward Surgery of Jaw deformity Giving due Consideration to Functionality of Maxillofacial Oral Cavity	第6回アジア口腔顎顔面外科学会・第49回日本口腔外科学会総会

学会・研究会主催

主催者名	年月日	学会・研究会名	会場	主催地
山根 源之	2004.07.09 ~10	第14回日本口腔粘膜学会総会・学術集会	文京シビックホール	東京
山根 源之	2004.12.05	第7回日本歯科人間ドック学会学術大会	東京歯科大学 TDC ビル	東京

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演題	学会名	開催地
山根 源之	2004.10.30	より安全な歯科医療を目指して歯科治療で本当にリスクの高い患者さんとは	第20回日本歯科医学会総会	横浜市

6. 教育講演等教育に関する業績，活動

教育講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
渡邊 裕	2004.11.27	形態、機能から咀嚼・嚥下障害を考える	第6回日本全身咬合学会 認定研修セミナー	東京

教育ワークショップ等

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地
高田 篤史	2004. 5.15 ~16	第11回東京歯科大学カリキュラム研修 ワークショップ	参加者	千葉市
小澤 靖弘	2004. 7.23	平成16年度教育ワークショップ 「訪問歯科診療」	委員	千葉市
渡邊 裕	2004. 7.23	平成16年度教育ワークショップ 「摂食と嚥下」	委員	千葉市
木津 康博	2004.11.25	東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ 第1回アドバンスコース	参加者	千葉市
渡邊 裕	2004.11.25	東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ 第1回アドバンスコース	参加者	千葉市
森崎 重規	2004.11.25	東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ 第1回アドバンスコース	参加者	千葉市
岡崎雄一郎	2004.12. 9	東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ 第2回アドバンスコース	参加者	千葉市
山根 源之	2005. 1.13	東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ 第3回アドバンスコース	参加者	千葉市

論 文

1. Takahashi,M.⁽¹⁾, Watanabe,Y., Haraguchi,T., Kawai,T., Yamane,G., Abe,S.⁽²⁾, Sakiyama,K.⁽²⁾, Hiraide,Y.⁽²⁾, Lee,W.H.⁽²⁾, Ide,Y.⁽²⁾, Ishikawa,T.⁽³⁾ : Neuromagnetic analysis of the late phase of the readiness field for precise hand movements using magnetoencephalography, Bull Tokyo Dent Coll **45** (1), 9 ~ 17, 2004. 原著 平成 15 年度分 脳科学研 (1)市病・整形外科,(2)解剖,(3)保存 III
2. Watanabe,Y., Abe,S.⁽¹⁾, Ishikawa,T.⁽²⁾, Yamada,Y.⁽³⁾, Yamane,G. : Cortical regulation during the early stage of initiation of voluntary swallowing in humans, Dysphagia **19**(2), 100 ~ 108, 2004. 原著 脳科学研 (1)解剖, (2)保存 III,(3)脳科学研究施設
3. Hayakawa,K.⁽¹⁾, Hayashi,E.⁽¹⁾, Aoyagi,T.⁽¹⁾, Hata,M.⁽¹⁾, Kuramoto,C., Tonogi,M., Yamane,G., Tanaka,Y.⁽²⁾ : Metastatic malignant ameloblastoma of the kidneys, Int J Urol **11**(6), 424 ~ 426, 2004. 症例 (1)市病・泌尿科, (2)市病・臨検
4. 高崎義人⁽¹⁾, 秋元善次⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 清水英孝⁽²⁾, 南 克浩⁽²⁾, 森 悦秀⁽²⁾, 野口信宏⁽³⁾, 檀上 敦⁽³⁾, 後藤昌昭⁽³⁾, 浜瀬真紀⁽⁴⁾, 高木多加志⁽⁴⁾, 野間弘康⁽⁴⁾, 渡邊 裕, 外木守雄, 山根源之 : 下顎枝矢状分割法術後のオトガイ神経知覚検査に関する臨床的研究 第二報 知覚障害程度の違いによる回復過程の差について, 日顎変形会誌 **14**(2), 101 ~ 110, 2004. 原著 (1)水病・口外科,(2)阪大・口外 2,(3)佐賀大・歯口外,(4)口外 I
5. 外木守雄, 山根源之, 渡邊 裕, 佐藤一道, 塚本裕介, 栗山智宏, 中島庸也⁽¹⁾, 松脇由典⁽¹⁾, 浅香大也⁽¹⁾, 菅 貞郎⁽²⁾, 渡辺洋一⁽³⁾ : 閉塞性睡眠時無呼吸を併発した Crouzon 症候群の治療経験, 日顎変形会誌 **14**(2), 137 ~ 144, 2004. 症例 (1)市病・耳鼻科,(2)市病・脳外科,(3)千葉県
6. Terashima,T.⁽¹⁾, Matsuzaki,T.⁽¹⁾, kawada,I.⁽¹⁾, Nishida,J.⁽²⁾, Tanaka,Y.⁽³⁾, Morishita,T.⁽¹⁾, Takeyasu,Y., Yamane,G., Uchiyama,T.⁽⁴⁾ : Tongue metastasis as an initial presentation of a lung cancer, Intern Med **43**(8), 727 ~ 730, 2004. 症例 (1)市病・内科,(2)市病・消化器科,(3)市病・臨検,(4)口外 II
7. 渡邊 裕, 岡崎雄一郎, 原口孝之, 小澤靖弘, 山根源之, 田中陽一⁽¹⁾ : 下顎に生じた cystic ameloblastoma の一部に desmoplastic ameloblastoma の像を呈した 1 例, 日口腔外会誌 **50**(8), 479 ~ 482, 2004. 症例 (1)市病・臨検
8. 渡邊 裕, 原口孝之, 阿部伸一⁽¹⁾, 山根源之, 高橋正憲⁽²⁾, 石川達也⁽³⁾ : 随意嚥下の中枢制御, 日全身咬合会誌 **10**(2), 42 ~ 48, 2004. 総説 脳科学研 (1)解剖,(2)市病・整形外科,(3)保存 III
9. Saida, T.⁽¹⁾, Kawachi, S.⁽¹⁾, Takata, M.⁽¹⁾, Kurita, H.⁽²⁾, Kurashina, K.⁽²⁾, Kageshita, T.⁽³⁾, Tonogi,M., Okazaki,Y., Yamane,G., Takubo, K.⁽⁴⁾, Ueyama, Y.⁽⁵⁾ : Histopathological characteristics of malignant melanoma affecting mucous membranes: a unifying concept of histogenesis, Pathology **36**(5), 404 ~ 413, 2004. 原著 (1)信州大・医・皮膚科,(2)信州大・医・歯口外,(3)熊本大・医・皮膚科,(4)老人学東京メトロポリタン研究所,(5)東海大・医・病理
10. 佐藤一道, 佐々木研一⁽¹⁾, 田村英俊⁽¹⁾, 綿引隆一郎⁽¹⁾, 小倉 基⁽¹⁾, 山崎香代子⁽¹⁾, 吉田恭子, 渡邊伸也, 岡崎雄一郎, 渡邊 裕, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之 : 千葉県における都市部と農村部の口腔扁平上皮癌症例の比較検討, 歯科学報 **104**(6), 573 ~ 577, 2004. 総説 (1)亀田総合病院・歯口外

11. Tonogi,M., Yamane,G., Ozawa,Y., Kuramoto,C., Watanabe,Y., Takada,A., Otuka,Y., Takeyasu,Y., Ushioda,T., Hotate,H.⁽¹⁾ : The factors which influence MRSA infection and the effects of oral health care on the dependent elderly, Dent Jpn **41**, 214 ~ 220, 2005. 原著 A-00 - 0620 - 1 (1)新成田病院・歯口外

解 説

1. 森本光明, 山根源之 : 診断力ですと 口内炎,口囲皮膚炎(解説/症例報告), デンタルダイヤモンド **29**(9), 21, 2004.
2. 井上 孝⁽¹⁾, 森本光明 : 口腔内金属アレルギーの臨床検査と診断・治療, アレルギー科 **18**(5), 449 ~ 459, 2004.
(1)臨検査
3. 山根源之 : 要介護高齢者の口腔ケアと QOL の向上 全身の健康と口腔ケアのかかわり, 歯界展望 **105**(2), 402 ~ 406, 2005.
4. 高橋慎一⁽¹⁾, 森本光明, 山根源之 : 歯性病巣感染と皮膚疾患(解説), 東京歯医師会誌 **52**(4), 213 ~ 220, 2005.
(1)市病・皮膚科

単行図書

1. 山崎雙次⁽¹⁾, 山本浩嗣⁽²⁾, 山根源之 : 共著 :歯科医のための皮膚科学 第2版 , 医歯薬出版, 東京, 2004. 脳科学研 (1)獨協医大・皮膚科,(2)日大・松戸歯・病理
2. 外木守雄: 単著 :若手歯科医のための臨床の技 50 , デンタルダイヤモンド社, 東京, 2004.

プロシーディングス

1. Abe,S.⁽¹⁾, Watanabe,Y., Shintani,M.⁽²⁾, Yamane,G., Ide,Y.⁽¹⁾, Shimono,M.⁽³⁾, Ishikawa,T.⁽⁴⁾ : Cortical Regulation during the Early Stage of Initiation of Voluntary Swallowing, Int Congr Ser **1270**, 105 ~ 110, 2004.(15th World Congress of the International Society for Brain Electromagnetic Topography, Urayasu) (1)解剖,(2)脳科学研究施設,(3)病理,(4)保存 III

その他

1. 合原 愛, 竹下陽子, 馬場里奈, 藤平弘子, 森崎重規, 森本光明, 山根源之 : 当院での歯性病巣の関与が疑われる皮膚疾患患者に対するチームアプローチ 掌蹠膿疱症患者治療における歯科衛生士の役割(会議録), 日歯周病会誌 **46**(春季特別), 220, 2004.
2. 上條 穂, 原口孝之, 外木守雄, 山根源之 : ラット培養骨髄細胞の分化における connexin43 の機能について (会議録), 歯科学報 **104**(3), 355, 2004.
3. 外木守雄 : 異常出血への対応 抜歯(観血的処置)の際に問題となる全身疾患の特徴とその対処法, デンタルダイヤモンド **29**(10), 85 ~ 91, 2004.
4. 山根源之 : より安全な歯科医療を目指して 歯科治療で本当にリスクの高い患者さんとは(会議録), 日歯医師会誌 **57**(4), 343, 2004.

5. 外木守雄, 佐藤一道, 高田篤史, 岡崎雄一郎, 渡邊 裕, 蔵本千夏, 森崎重規, 木津康博, 小澤靖弘, 森本光明, 山根源之 : 抗加齢医学における口腔の役割 口腔ケアの有用性について, 日歯医師会誌 57(4), 372, 2004.
6. 森本光明, 浮地賢一郎, 岡村泰斗, 高田篤史, 岡崎雄一郎, 渡邊 裕, 蔵本千夏, 森崎重規, 木津康博, 小澤靖弘, 福島大平, 外木守雄, 山根源之, 高橋慎一⁽¹⁾ : 血液検査による歯科金属アレルギーの診断リンパ球幼若化試験(会議録), 日歯医師会誌 57(4), 433, 2004. (1)市病・皮膚科
7. 小澤靖弘, 武田宇央, 佐藤一道, 高田篤史, 岡崎雄一郎, 渡邊 裕, 蔵本千夏, 森崎重規, 木津康博, 森本光明, 外木守雄, 山根源之 : 顎顔面口腔機能を考慮した顎変形症手術の流れ(会議録), 日歯医師会誌 57(4), 433, 2004.
8. 松久保 隆⁽¹⁾, 長坂 斉⁽¹⁾, 中村昭二⁽¹⁾, 小林義昌⁽¹⁾, 高江洲義矩⁽¹⁾, 佐藤 亨⁽²⁾, 星 詳子⁽³⁾, 渡邊 誠⁽⁴⁾, 中島庸也⁽⁵⁾, 山根源之, 石川達也⁽⁶⁾ : 周波数域別聴カレベルと咬合咀嚼機能, 日歯医師会誌 57(4), 374, 2004. (1)衛生,(2)補綴 II,(3)東京都精神医学総合研究所・脳機能解析,(4)東北大・大学院・加齢歯科,(5)市病・耳鼻科,(6)保存 III
9. 渡邊伸也, 吉田恭子, 佐藤一道, 岡崎雄一郎, 高田篤史, 原口孝之, 森崎重規, 蔵本千夏, 渡邊 裕, 木津康博, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之, 田中陽一⁽¹⁾ : 当科における悪性腫瘍症例の臨床統計学的検討(会議録), 日口腔腫瘍会誌 16(3), 105, 2005. (1)市病・臨検

学会抄録

1. Okazaki,Y., Satou,K., Yoshida,K., Watanabe,S., Morisaki,S., Watanabe,Y., Ozawa,Y., Morimoto,M., Tonogi,M., Tanaka,Y.⁽¹⁾, Yamane,G. : Clinicopathological study of treatment for oral epithelial dysplasia in early tongue carcinoma., Abstracts of the 58th Annual Meeting of American Academy of Oral Medicine, 2004.(58th Annual Meeting of American Academy of Oral Medicine, Florida,USA) (1)市病・臨検
2. Satou,K., Morisaki,S., Watanabe,Y., Ozawa,Y., Morimoto,M., Tonogi,M., Yamane,G., Hidetoshi,T.⁽¹⁾, Kenichi,S.⁽¹⁾ : A comparison of oral cancer progression between the congested and uncongested residential areas in Japan., Abstracts of the 58th Annual Meeting of American Academy of Oral Medicine, 2004.(58th Annual Meeting of American Academy of Oral Medicine, Florida,USA) (1)亀田総合病院・歯口外
3. 武安嘉大, 佐藤一道, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之 : 当科における救急外来受診小児患者の臨床統計的検討, 日口外傷誌 3(1), 39, 2004.(第 6 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会, 津市)
4. 岡田真人⁽¹⁾, 大川由一⁽²⁾, 山田善裕⁽³⁾, 新庄文明⁽⁴⁾, 山根源之, 宮武光吉⁽⁵⁾, 石井拓男⁽¹⁾ : 介護保険施設における口腔ケアに関する研究 第 1 報 各専門職の就業状況と口腔ケアの認識について, 日歯医療管理会誌 39(1), 61, 2004.(第 45 回日本歯科医療管理学会総会・学術大会, 新潟市) (1)社会歯,(2)千葉県立衛生短大・歯科衛生,(3)江東区保健所,(4)長崎大・健康予防科学,(5)鶴見大・歯
5. 伊多波怜子, 奥井沙織, 合原愛, 竹下陽子, 馬場里奈, 岩崎美和, 藤平弘子, 渡邊 裕, 蔵本千夏, 外木守雄, 山根源之, 鈴木福代⁽¹⁾, 園田満子⁽¹⁾, 安達富美子⁽¹⁾, 杉原直樹⁽²⁾, 松久保 隆⁽²⁾ : 入院患者の口腔ケアに対する取り組み 看護師へのアンケート調査をもとに, 歯科学報 104(3), 363, 2004.(第 277 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)市病・看護部,(2)衛生

6. 大川由一⁽¹⁾, 岡田真人⁽²⁾, 山田善裕⁽³⁾, 渡邊 裕, 蔵本千夏, 新庄文明⁽⁴⁾, 山根源之, 宮武光吉⁽⁵⁾, 石井拓男⁽²⁾ : 介護保険施設における口腔ケアに関する研究 口腔ケアの実施状況と歯科受療状況について, 口腔衛生学会雑誌 **54**(4), 331, 2004.(第 53 回日本口腔衛生学会・総会, 盛岡市) (1)千葉県立衛生短大・歯科衛生,(2)社会歯,(3)江東区保健所,(4)長崎大・健康予防科学,(5)鶴見大・歯
7. 岡崎雄一郎, 渡邊伸也, 吉田恭子, 佐藤一道, 高田篤史, 渡邊 裕, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之, 田中陽一⁽¹⁾ : 舌早期癌症例における上皮性異形成の評価および予後 SIN 分類による切除断端の評価(会議録), 日口腔腫瘍学会誌 **16**(3), 111, 2004.(第 22 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 金沢市) (1)市病・臨検
8. 木津康博, 宇治川清登, 加藤順久, 岡崎雄一郎, 高田篤史, 森本光明, 外木守雄, 山根源之 : Zygomatic Implant 補綴治療の臨床的、基礎的検討, 第 34 回日本口腔インプラント学会総会プログラム, 16, 2004.(第 34 回日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 大阪市)
9. 岡崎雄一郎, 宇治川清登, 加藤順久, 高田篤史, 木津康博, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之, 小宮山彌太郎⁽¹⁾ : 骨移植術を応用したインプラント症例の臨床統計的検討, 第 34 回日本口腔インプラント学会総会プログラム, 34, 2004.(第 34, 大阪市) (1)補綴
10. 稲森新一郎, 森崎重規, 浮地賢一郎, 渡邊 裕, 蔵本千夏, 木津康博, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之 : 舌の疼痛を主訴に来院した悪性貧血の 4 例, 日口腔診断会誌 **17**(2), 294~295, 2004. (第 17 回日本口腔診断学会総会, 大阪市)
11. 山崎喜範, 高田篤史, 原口孝之, 渡邊 裕, 蔵本千夏, 森崎重規, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之 : 当院問診票の改訂について 問診票の未記入について(第 3 報), 日口腔診断会誌 **17**(2), 299, 2004.(第 17 回日本口腔診断学会総会, 大阪市)
12. 塚本裕介, 河合毅師, 森下仁史, 佐藤一道, 渡邊 裕, 外木守雄, 山根源之, 大川登史⁽¹⁾, 長友真理子⁽¹⁾, 大櫛哲史⁽¹⁾, 葉山貴司⁽¹⁾, 中島庸也⁽¹⁾ : 当院における睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置を用いた治療の動向, 歯科学報 **104**(5), 536, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)市病・耳鼻科
13. 馬場里奈, 岩崎美和, 藤平弘子, 木津康博, 外木守雄, 山根源之 : 著明な歯槽堤萎縮症例におけるインプラント治療のメンテナンスについて, 第 8 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会抄録集, 37, 2004.(第 8 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会, 東京)
14. 高田篤史, 木津康博, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之 : エナメル上皮腫切除後の再建におけるインプラント治療, 第 8 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会抄録集, 41, 2004.(第 8 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会, 東京)
15. 吉野正泰, 加藤順久, 山根源之, 原 俊浩⁽¹⁾, 井出吉信⁽¹⁾ : マイクロCTによる日本人頬骨内部構造の三次元的有限要素解析, 第 8 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会抄録集, 47, 2004.(第 8 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会, 東京) 分析生研 (1)解剖
16. 渡邊 裕, 河合毅師, 阿部伸一⁽¹⁾, 井出吉信⁽¹⁾, 山田好秋⁽²⁾, 山根源之 : 飲みつらさとは 脳磁図計による検討, 日摂食嚥下リハ会誌 **8**(2), 267, 2004.(第 10 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会, 新潟市) (1)解剖,(2)脳科学研究施設

17. 佐竹良之⁽¹⁾, 島崎 潤⁽¹⁾, 外木守雄, 五十嵐崇恭, 榛村重人⁽¹⁾, 篠崎尚史⁽²⁾, 坪田一男⁽³⁾, 山根源之 : 新しい眼表面再建術 口腔粘膜培養上皮移植, 日口腔粘膜会誌 10(2), 61, 2004.(第 14 回日本口腔粘膜学会総会・学術集会, 東京) (1)市病・眼科,(2)市病・角膜センター,(3)慶大・医・眼
18. 河合毅師, 浮地賢一郎, 岡村泰斗, 森崎重規, 渡邊 裕, 岡崎雄一郎, 森本光明, 外木守雄, 山根源之, 高橋慎一⁽¹⁾, 福島大平⁽²⁾ : 亜鉛によるアレルギー性口内炎の診断におけるリンパ球幼若化試験の有用性について, 日口腔粘膜会誌 10(2), 79, 2004.(第 14 回 日本口腔粘膜学会総会, 東京) (1)市病・皮膚科,(2)同愛記念病院・歯科
19. 高木幸子, 内田 淳, 森崎重規, 渡邊 裕, 小澤靖弘, 外木守雄, 山根源之 : 当科における顎変形症患者の臨床統計的検討, 日顎変形会誌 14(3), 227, 2004.(第 14 回日本顎変形症学会総会, 福岡市)
20. 佐藤一道, 有坂岳大, 栗山智宏, 渡邊 裕, 小澤靖弘, 外木守雄, 山根源之 : 口腔筋機能療法を用いた顎変形症術後のリハビリテーションについて, 日顎変形会誌 14(3), 232, 2004.(第 14 回日本顎変形症学会総会, 福岡市)
21. 外木守雄, 渡邊伸也, 多田和弘, 森崎重規, 渡邊 裕, 小澤靖弘, 山根源之 : Adjustable sagittal split plate を用いた下顎枝矢状分割術について, 日顎変形会誌 14(3), 235 ~ 236, 2004.(第 14 回日本顎変形症学会総会, 福岡市)
22. 高崎義人⁽¹⁾, 秋元善次⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 浜瀬真紀⁽²⁾, 高木多加志⁽²⁾, 野間弘康⁽²⁾, 清水英孝⁽³⁾, 南 克浩⁽³⁾, 森 悦秀⁽³⁾, 野口信宏⁽⁴⁾, 檀上 敦⁽⁴⁾, 後藤昌昭⁽⁴⁾, 渡邊 裕, 外木守雄, 山根源之 : 下顎枝矢状分割術後の神経知覚障害に関する統計学的解析 四施設間の障害程度の差, 日顎変形会誌 14(3), 260 ~ 261, 2004.(第 14 回日本顎変形症学会総会, 福岡市) (1)水病・口外科,(2)口外 1,(3)阪大・口外 2,(4)佐賀大・歯口外
23. 森崎重規, 小澤靖弘, 外木守雄, 山根源之, 梅村直治⁽¹⁾, 小坂橋俊哉⁽¹⁾, 金子 譲⁽²⁾ : 下顎枝矢状分割法施行患者の術後痛対策 Patient controlled analgesia(PCA)の効果, 日顎変形会誌 14(3), 261 ~ 262, 2004.(第 14 回日本顎変形症学会総会, 福岡) (1)市病・麻酔科,(2)歯麻
24. 上條 穂, 原口孝之, 渡邊 裕, 外木守雄, 山根源之 : ラット培養骨髄細胞の分化における Connexin 43 の機能について 老齢動物モデルにおける検討, 老年歯医 19(3), 189 ~ 190, 2004.(第 15 回日本老年歯科医学会総会, 鹿児島市) 実動施設
25. 渡邊 裕, 蔵本千夏, 山根源之, 石井拓男⁽¹⁾, 岡田真人⁽¹⁾, 今村嘉宣⁽²⁾, 大川由一⁽³⁾, 山田善裕⁽⁴⁾, 新庄文明⁽⁵⁾, 宮武光吉⁽⁶⁾ : 介護保険施設における口腔ケアに関する研究 第 2 報 口腔ケアの現状と歯科医療との関係, 老年歯医 19(3), 231 ~ 232, 2004.(第 15 回日本老年歯科医学会大会, 鹿児島市) (1)社会歯,(2)補綴 III,(3)千葉県立衛生短大・歯衛,(4)江東区保健所,(5)長崎大・健康予防科学,(6)鶴見大・歯
26. 宇治川清登, 加藤順久, 木津康博, 外木守雄, 山根源之 : 顎顔面における Zygomatic fixture に関する生体力学的検討 三次元有限要素法による解析, 顎顔面補綴 27(2), 93 ~ 94, 2004.(第 21 回 日本顎顔面補綴学会総会, 北九州市)
27. 岩崎美和, 藤平弘子, 岡崎雄一郎, 高田篤史, 木津康博, 小澤靖弘, 外木守雄, 山根源之 : 下顎腫瘍切除後再建におけるインプラント治療のメンテナンスについて, 顎顔面補綴 27(2), 97 ~ 98, 2004.(第 21 回 日本顎顔面補綴学会総会, 北九州市)

28. 木津康博, 山根源之, ジョンウォルフアート⁽¹⁾: 放射線治療後の顔面骨におけるインプラント治療への高圧酸素療法の有効性 4年間の累積的臨床統計による分析, 顎顔面補綴 27(2), 98~99, 2004.(第21回 日本顎顔面補綴学会総会, 北九州市) (1)COMPRU, Canada
29. 木津康博, 佐藤一道, 岡崎雄一郎, 高田篤史, 蔵本千夏, 渡邊 裕, 森崎重規, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之: Zygomatic implant の臨床的検討 咬合負荷後 6~60 ヶ月間の検討, 日口腔外会誌 50(13), 868, 2004.(第6回 アジア口腔顎顔面外科学会総会 第49回 日本口腔外科学会総会, 東京)
30. 大塚 裕, 高田篤史, 岡崎雄一郎, 森崎重規, 木津康博, 外木守雄, 田中陽一⁽¹⁾, 山根源之: 口腔領域における悪性黒色腫の2症例, 日口腔外会誌 50(13), 873, 2004.(第6回 アジア口腔顎顔面外科学会 第49回 日本口腔外科学会, 東京) (1)市病・臨検
31. 岡崎雄一郎, 渡邊伸也, 吉田恭子, 佐藤一道, 高田篤史, 森崎重規, 渡邊 裕, 蔵本千夏, 木津康博, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 田中陽一⁽¹⁾, 山根源之: T1,T2 舌癌症例における切除断端の検索, 日口腔外会誌 50(13), 884, 2004.(第6回 アジア口腔顎顔面外科学会 第49回 日本口腔外科学会, 東京) (1)市病・臨検
32. 高崎義人⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 清水英孝⁽²⁾, 南 克浩⁽²⁾, 森 悦秀⁽²⁾, 野口信宏⁽³⁾, 壇上 敦⁽³⁾, 後藤昌昭⁽³⁾, 浜瀬真紀⁽⁴⁾, 高木多加志⁽⁴⁾, 野間弘康⁽⁴⁾, 渡邊 裕, 外木守雄, 山根源之: 下顎枝矢状分割術後のオトガイ神経知覚障害, 日口腔外会誌 50(13), 927~928, 2004.(第6回 アジア口腔顎顔面外科学会 第49回 日本口腔外科学会, 東京) (1)水病・口外科,(2)阪大・口外 2,(3)佐賀大・歯口外,(4)口外 I
33. 渡邊 裕, 佐藤一道, 岡崎雄一郎, 高田篤史, 森崎重規, 蔵本千夏, 木津康博, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之, 武田栄三⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾: 口腔内手術が随意嚥下の中枢制御に及ぼす影響について, 日口腔外会誌 50(13), 928, 2004.(第6回 アジア口腔顎顔面外科学会総会 第49回 日本口腔外科学会総会, 東京) (1)口外 I
34. 小澤靖弘, 吉田恭子, 渡邊伸也, 佐藤一道, 高田篤史, 岡崎雄一郎, 森崎重規, 渡邊 裕, 蔵本千夏, 木津康博, 森本光明, 外木守雄, 山根源之: 顎顔面口腔機能を考慮した顎変形症手術の流れ, 日口腔外会誌 50(13), 929, 2004.(第6回 アジア口腔顎顔面外科学会 第49回 日本口腔外科学会総会, 東京)
35. 内田 淳, 中村直史, 森崎重規, 外木守雄, 田中陽一⁽¹⁾, 山根源之: 木村氏病の1例, 日口腔外会誌 50(13), 932, 2004.(第6回 アジア口腔顎顔面外科学会 第49回 日本口腔外科学会総会, 東京) (1)市病・臨検
36. 外木守雄, 渡邊伸也, 多田和弘, 森崎重規, 渡邊 裕, 小澤靖弘, 山根源之: Adjustable sagittal split plate を用いた下顎枝矢状分割術法について, 日口腔外会誌 50(13), 934, 2004.(第6回 アジア口腔顎顔面外科学会 第49回 日本口腔外科学会総会, 東京)
37. 吉田恭子, 渡邊伸也, 佐藤一道, 岡崎雄一郎, 高田篤史, 森崎重規, 蔵本千夏, 渡邊 裕, 木津康博, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之: 口腔癌検診から考える歯科人間ドックについて, 第7回日本歯科人間ドック学会学術大会プログラム・抄録集, 6, 2004.(第7回日本歯科人間ドック学会学術大会, 東京)
38. 岡村泰斗, 岡村興一⁽¹⁾, 山根源之, 森本光明, 浮地賢一郎, 高橋慎一⁽²⁾: 歯科用金属アレルギーの診断におけるリンパ球幼若化試験, 第7回日本歯科人間ドック学会学術大会プログラム・抄録集, 6, 2004.(第7回日本歯科人間ドック学会学術大会, 東京) (1)東京都,(2)市病・皮膚科

39. Ukichi,K., Okamura,T., Morimoto,M., Yamane,G., Takahashi,S.⁽¹⁾ : An experimental model of delayed type hypersensitivity with HgCl₂, Abstracts of 52th Annual Meeting Japanese Association for Dental Research, 2004.(52th Annual Meeting Japanese Association for Dental Research , Tokyo) 実動施設 (1)市病・皮膚科
40. 森下仁史, 多田和弘, 外木守雄, 山根源之, 小田健一⁽¹⁾ : 統合失調症を有する顎変形症患者の術後精神状態とその管理, 日歯心身医会誌 19 (1-2), 104 ~ 105, 2004.(第 19 回 日本歯科心身医学会総会・学術大会, 東京) (1)市病・精神・神経科
41. 宮澤真紀⁽¹⁾, 仁藤和枝⁽¹⁾, 勝俣歩実⁽¹⁾, 武田宇央, 武安嘉大, 高田篤史, 山根源之 : POC による効果に対する検討, 第 12 回日本療養病床協会全国研究会抄録集, 409, 2004.(第 12 回日本療養病床協会全国研究会, 札幌市) (1)新富士病院
42. 中嶋 顕⁽¹⁾, 村岡 渡⁽¹⁾, 高森康次⁽¹⁾, 永井哲夫⁽¹⁾, 中川種昭⁽¹⁾, 古屋 善章⁽²⁾, 岡本真一郎⁽²⁾, 田中陽一⁽³⁾, 小澤靖弘, 山根源之 : 顎骨病変を伴った Erdheim-Chester disease の 1 例, 日口腔科会誌 54(1), 98, 2005. (第 58 回日本口腔科学会総会, 横浜市) (1)慶大・医・歯口外,(2)慶大・医・内科,(3)市病・臨検
43. 高橋慎一⁽¹⁾, 川島淳子⁽¹⁾, 森本光明, 岡村泰斗, 山根源之, 松尾隼朗⁽²⁾ : Pyostomatitis vegetans の 1 例, 日皮会誌 115(1), 21, 2005.(皮膚科学会, 京都市) (1)市病・皮膚科,(2)帝京大市原病院・皮膚科
44. 外木守雄, 宮本郷, 森下仁史, 塚本裕介, 多田和弘, 佐藤一道, 渡邊 裕, 山根源之, 大川登史⁽¹⁾, 長友真理子⁽¹⁾, 大櫛哲史⁽¹⁾, 葉山貴司⁽¹⁾, 中島庸也⁽¹⁾, 千葉伸太郎⁽²⁾ : 顎変形症例に対する外科的矯正手術前後における上気道の形態的变化の検討 第 1 報 睡眠(呼吸)への影響, 第 34 回睡眠呼吸障害研究会抄録集, 2005.(第 34 回睡眠呼吸障害研究会, 東京) (1)市病・耳鼻科,(2)太田総合病院・耳鼻科
45. Kizu,Y., Ujigawa,K., Katou,Y., Tonogi,M., Yamane,G. : The application of rapid prototyping and FEM technology for three dimensional analysis of zygomatic implants in craniofacial structures, Abstracts of 2nd Advanced Digital Technology, 2005.(2nd Advanced Digital Technology, Banff, Canada)
46. Ujigawa,K., Katou,Y., Kizu,Y., Tonogi,M., Yamane,G. : An integrated system for three dimensional data utilization in craniofacial applications:three dimensional scanning,solid modeling and finite element analysis, Abstracts of 2nd Advanced Digital Technology, 2005.(2nd Advanced Digital Technology, Banff, Canada)
47. 五十嵐崇恭, 山崎喜範, 内田 淳, 森崎重規, 佐藤一道, 岡崎雄一郎, 高田篤史, 渡邊 裕, 蔵本千夏, 木津康博, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之 : 舌の粘膜下血腫を主訴に来院した再生不良性貧血の 1 例, 日口腔科会誌 54(2), 297, 2005.(第 38 回日本口腔科学会関東地方部会, 東京)

2. 内 科 学 講 座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	森下 鉄夫	胃微小循環，茶カテキンの薬理作用
助 授	野川 茂	脳虚血における遺伝子発現制御，パーキンソン病の QOL の評価
講 師	笠谷 知宏	1 型糖尿病の発生機序に関する研究
	寺嶋 毅	気管支喘息の病態におけるロイコトリエンの関与
	荒川 幸喜	血管作動性物質と腎微小循環
	岡田 聡	cytolytic molecule
助 手	松崎 達	吸入微粒子の人体への影響

2. 成果の概要

1) 多発性筋炎の筋線維障害機序における granulysin の重要性について

多発性筋炎では perforin が筋線維障害に重要な役割を果たしていると考えられている。granulysin(GLN) は CTL 内で perforin と同じ granule に局在し細胞障害作用を有する。本研究では多発性筋炎の筋線維障害に GLN が関与しているか検討した。培養ラット筋細胞 (L6) に対する recombinant(r-) GLN の細胞障害性を MTT アッセイで測定した。50uM GLN は $32.8 \pm 2.7\%$ の細胞障害性を示した。しかし，tunnel アッセイでは DNA 断片化を呈した筋細胞はわずかであった。r-GLN を jurkat 細胞に投与すると細胞内に取り込まれることを既に報告した L6 でも同じ現象がみられるか免疫蛍光染色法で検討したが L6 内に GLN は認められなかった。GLN は筋細胞障害性を有するがアポトーシスが何らかの機序で抑制されていると考えられた。

3. 科研費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
岡田 聡	多発性筋炎の筋線維障害における granulysin の重要性について	科学研究費・基盤 (C)
岡田 聡	The Role of Granulysin in Muscle Injury of Idiopathic Inflammatory Myopathies	米国 The Myositis Association Research Grant

4. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演題	学会名	開催地
森下 鉄夫	2004.8.28	潰瘍性病変と H.p. : 特別発現	潰瘍病態研究会第 13 回 フォーラム	東京

5.教育講演等教育に関する業績，活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
森下 鉄夫	2004. 6.5	<i>Helicobacter pylori</i> 感染症 過去、 現在、未来	第 277 回東京歯科大学 学会例会	千葉市

論 文

1. 大原正志⁽¹⁾, 森下鉄夫 : 粘膜傷害発生の trigger としての CTL によるアポトーシスと潰瘍の多段階的発症機序, *Ulcer Research* **31**, 20 ~ 26, 2002. 原著 (1)千病・内科
2. Ohara,T.⁽¹⁾, Morishita,T., Suzuki,H.⁽²⁾, Masaoka,T.⁽²⁾, Ishii,H.⁽²⁾ : Usefulness of proton pump inhibitor(PPI) maintenance therapy for patients with *H.pylori* - negative recurrent peptic ulcer after eradication therapy for *H.pylori* : pathophysiological characteristics of *H.pylori* - negative recurrent ulcer scars and beyond acid suppression by PPI, *Hepatogastroenterology* **51**(56), 338 ~ 342, 2004. 原著 (1)千病・内科,(2)慶大・医・消化器内科
3. Ohara,T.⁽¹⁾, Suzuki,H.⁽²⁾, Kanoh,Y.⁽³⁾, Moriya,R.⁽³⁾, Okayasu,I.⁽³⁾, Morishita,T., Ishii,H.⁽²⁾ : Regular hemodialysis reverses gastric mucosal atrophy of patients with chronic renal failure, *Hepatogastroenterology* **51**(57), 679 ~ 683, 2004. 原著 (1)千病・内科,(2)慶大・医・消化器内科,(3)北里大・医・臨検
4. Terashima,T., Matsuzaki,T., kawada,I., Nishida,J.⁽¹⁾, Tanaka,Y.⁽²⁾, Morishita,T., Takeyasu,Y.⁽³⁾, Yamane,G.⁽³⁾, Uchiyama,T.⁽⁴⁾ : Tongue metastasis as an initial presentation of a lung cancer, *Intern Med* **43**(8), 727 ~ 730, 2004. 原著 (1)市病・消化器科,(2)市病・臨検,(3)市病・オーラルメディスン,(4)口外 II
5. Kishikawa,H.⁽¹⁾, Nishida,J.⁽¹⁾, Hirano,E.⁽¹⁾, Nakano,M.⁽¹⁾, Arakawa,K., Morishita,T., Kawashima,J.⁽²⁾, Tanaka,Y.⁽³⁾, Ishii,H.⁽⁴⁾ : Chronic ischemic proctitis: case report and review, *Gastrointest Endosc* **60**(2), 304 ~ 308, 2004. 総説 (1)市病・消化器科,(2)市病・皮膚科,(3)市病・臨検,(4)慶大・医・消化器内科
6. Ohara,T.⁽¹⁾, Morishita,T., Suzuki,H.⁽²⁾, Masaoka,T.⁽²⁾, Ishii,H.⁽²⁾, Hibi,T.⁽²⁾ : Antibiotics directly induce apoptosis in B cell lymphoma cells from BALB/c mice, *Anticancer Res* **24**(6), 3723 ~ 3730, 2004. 原著 (1)千病・内科,(2)慶大・医・消化器内科
7. Ohara,T.⁽¹⁾, Morishita,T., Suzuki,H.⁽²⁾, Masaoka,T.⁽²⁾, Iwasaki,E., Osada,T., Ishii,H.⁽²⁾ : Investigation of the pathophysiological role of human defensin in gastric mucosa, *Microcirculation annual* **20**, 27 ~ 28, 2004. 原著 (1)千病・内科,(2)慶大・医・消化器内科
8. Morishita,T., Nakayama,T.⁽¹⁾, Kamiya,T.⁽²⁾, Mori,S.⁽²⁾, Isobe,K.⁽²⁾, Furuta,Y.⁽²⁾ : Basic and clinical aspects of *Clostridium difficile* colitis, *Rev Gastroenterol Peru* **24**(3), 263 ~ 269, 2004. 総説 (1)静岡赤十字病院・外科,(2)慶大・医・消化器内科
9. Li,Q.⁽¹⁾, Katsumata,M.⁽²⁾, Okada,S., Krensky,A.⁽¹⁾ : Hemolysis of erythrocytes by granulysin-derived peptides but not by granulysin., *Antimicrob Agents Chemother* **49**(1), 388 ~ 397, 2005. 原著 (1)Stanford University,(2)日本医大・公衆衛生

解 説

1. 森下鉄夫, 大原正志⁽¹⁾, 岸川 浩⁽²⁾, 中野 雅⁽²⁾, 西田次郎⁽²⁾, 鈴木秀和⁽³⁾, 石井裕正⁽³⁾ : *Helicobacter pylori* 感染と自律神経・微小循環調節, *Helicobacter Res* **8**(2), 111 ~ 117, 2004. (1)千病・内科,(2)市病・消化器科,(3)慶大・医・消化器内科
2. 笠谷知宏 : 診療の秘訣 外来診療における糖尿病の食事療法, *Modern Physician* **24**(4), 538, 2004.

3. 森下鉄夫：各科の話題 内科 NASH(ナッシュ) 脂肪肝も油断できない，千葉県医師会雑誌 56(6)，340～341，2004.
4. 森下鉄夫：関連医学の進歩・現状 *Helicobacter pylori* 感染症，歯科学報 105(1)，22～31，2005.

学会抄録

1. 森下鉄夫：*Helicobacter pylori* 感染症 過去、現在、未来，歯科学報 104(3)，341，2004.(第277回東京歯科大学学会例会，千葉市) 特別講演
2. 中村健太郎⁽¹⁾，森下鉄夫，大原正志⁽²⁾，関塚永一⁽³⁾，宮崎耕司⁽⁴⁾，平野江里香⁽¹⁾，岸川 浩⁽¹⁾，中野 雅⁽¹⁾，西田次郎⁽¹⁾，永田博司⁽⁵⁾，石井裕正⁽⁵⁾：胆道内圧上昇にともなう門脈・肝類洞血流変化，静脈学 15(2)，157，2004.(第24回日本静脈学会総会，志摩市) (1)市病・消化器科，(2)千病・内科，(3)国立埼玉病院・消化器内科，(4)国立埼玉病院・臨床研究部，(5)慶大・医・消化器内科
3. 荒川幸喜，平田文乃⁽¹⁾，岸川 浩⁽¹⁾，中野 雅⁽¹⁾，早川邦弘⁽²⁾，西田次郎⁽¹⁾，森下鉄夫：維持血液透析患者に発症した急性膵炎の3症例，日透析医学会誌 37(Suppl)，1074，2004.(第49回日本透析医学会学術集会・総会，神戸市) (1)市病・消化器科，(2)市病・泌尿科
4. 岩崎栄典，岸川 浩⁽¹⁾，長田高志，中村健太郎⁽¹⁾，平野江里香⁽¹⁾，中野 雅⁽¹⁾，西田次郎⁽¹⁾，森下鉄夫：内視鏡的に止血し得た多発性十二指腸憩室出血の1例，Progr Dig Endosc 64(2)，92～93，2004.(第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会，東京) (1)市病・消化器科
5. 仁科牧子，岡田聡，森下鉄夫，豊田圭子⁽¹⁾：短期間に再発を繰り返した脳幹部梗塞と思われる一例，第4回東葛脳血管障害研究会プログラム，1，2004.(第4回東葛脳血管障害研究会，浦安市) (1)市病・放科
6. 小出希実，大原正志⁽¹⁾，宮内潤⁽²⁾，森下鉄夫：ポリープ状を呈した左結腸動静脈奇形，第282回日本消化器病学会関東支部例会プログラム，7，2004.(第282回日本消化器病学会関東支部例会，宇都宮市) 脳科学研 (1)千病・内科，(2)市病・臨検
7. 中村健太郎⁽¹⁾，中野 雅⁽¹⁾，岸川 浩⁽¹⁾，西田次郎⁽¹⁾，平田文乃⁽¹⁾，森下鉄夫，田中陽一⁽²⁾：急激な経過で肝不全に至った肺癌の転移性肝腫瘍の1例，第280回日本消化器病学会関東支部例会プログラム，12，2004.(第280回日本消化器病学会関東支部例会，東京) (1)市病・消化器科，(2)市病・臨検
8. 高山哲郎⁽¹⁾，岸川 浩⁽¹⁾，中野 雅⁽¹⁾，仁科牧子，西田次郎⁽¹⁾，森下鉄夫：CDDPおよび5-FUによる化学療法中に意識障害を伴う高アンモニア血症を認めた1例，第281回日本消化器病学会関東支部例会プログラム，13，2004.(第281回日本消化器病学会関東支部例会，東京) (1)市病・消化器科
9. 大原正志⁽¹⁾，森下鉄夫，橋本 洋⁽²⁾，秋本真寿美⁽²⁾，木村典夫⁽³⁾，鈴木秀和⁽⁴⁾，正岡建洋⁽⁴⁾，西澤俊宏⁽⁴⁾，日比紀文⁽⁴⁾：*H.pylori* 感染の胃粘膜への影響能 - 染色体構造異常についての解析，第32回日本実験潰瘍学会抄録集，37，2004.(第32回日本実験潰瘍学会，大津市) (1)千病・内科，(2)東京女子医大成人医学センター，(3)セコムディック病院消化器内科，(4)慶大・消化器内科

10. 鈴木秀和⁽¹⁾, 峰岸ゆり子⁽²⁾, 西本周平⁽¹⁾, 太田孝幸⁽³⁾, 正岡建洋⁽¹⁾, 西澤俊宏⁽¹⁾, 大原正志⁽⁴⁾, 森下鉄夫, 石井裕正⁽¹⁾, 日比紀文⁽¹⁾ : *Helicobacter pylori* 感染スナネズミ胃炎の進展と Sonic Hedgehog 発現の関連, 第 10 回日本ヘリコバクター学会プログラム抄録集, 53, 2004.(第 10 回日本ヘリコバクター学会, 東京) (1)慶大・消化器内科,(2)慶大・総合医科学研究センター,(3)国立病院東京医療センター皮膚科,(4)千病・内科
11. 高山哲郎⁽¹⁾, 岸川 浩⁽¹⁾, 西田次郎⁽¹⁾, 中野 雅⁽¹⁾, 田中陽一⁽²⁾, 森下鉄夫 : 慢性虚血性腸炎の 1 例, Progr Dig Endosc, 68, 2004.(第 79 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京) (1)市病・消化器科,(2)市病・臨検
12. 大原正志⁽¹⁾, 森下鉄夫, 鈴木秀和⁽²⁾, 正岡建洋⁽²⁾, 石井裕正⁽²⁾ : 染色体構造異常 から見た *H.pylori* の胃粘膜への影響能の検討, 第 90 回日本消化器病学会総会抄録集, 2004.(第 90 回日本消化器病学会総会, 仙台市) (1)千病・内科,(2)慶大・医・消化器内科
13. 森下鉄夫, 大原正志⁽¹⁾, 木村典夫⁽²⁾, 鈴木秀和⁽³⁾, 正岡建洋⁽³⁾, 高山哲郎⁽⁴⁾, 西田次郎⁽⁴⁾, 石井裕正⁽³⁾ : PPI の beyond acid suppression-*H.pylori* 除菌後易再発性潰瘍に対する PPI 間歇療法の効果, 第 13 回千葉 *Helicobacter pylori* 研究会抄録集, 2004.(第 13 回千葉 *Helicobacter pylori* 研究会, 千葉市) (1)千病・内科,(2)セコムディック病院・消化器内科,(3)慶大・医・消化器内科,(4)市病・消化器科
14. 小出希実, 森下鉄夫, 大原正志⁽¹⁾, 木村典夫⁽²⁾, 鈴木秀和⁽³⁾, 正岡建洋⁽³⁾, 高山哲郎⁽⁴⁾, 西田次郎⁽⁴⁾, 石井裕正⁽³⁾ : PPI の beyond acid suppression-*H.pylori* 除菌後易再発性潰瘍に対する PPI 間歇療法の効果, 第 13 回千葉 *Helicobacter pylori* 研究会抄録集, 2004.(第 13 回千葉 *Helicobacter pylori* 研究会, 千葉市) (1)千病・内科,(2)セコムディック病院・消化器内科,(3)慶大・医・消化器内科,(4)市病・消化器科
15. 森下鉄夫 : シンポジウム 「潰瘍性病変と *H.pylori*」, 潰瘍病態研究会第 13 回フォーラム抄録集, 2004.(潰瘍病態研究会第 13 回フォーラム, 東京)
16. 大原正志⁽¹⁾, 森下鉄夫, 鈴木秀和⁽²⁾ : 感染の胃粘膜への影響能 - 染色体構造異常についての解析 - , 潰瘍病態研究会第 13 回フォーラム抄録集, 2004.(潰瘍病態研究会第 13 回フォーラム, 東京) 脳科学研 (1)千病・内科,(2)慶大・消化器内科
17. 正岡建洋⁽¹⁾, 鈴木秀和⁽²⁾, 倉橋久美子⁽²⁾, 村岡宏江⁽³⁾, 小林寅哲⁽³⁾, 西澤俊宏⁽¹⁾, 大原正志⁽⁴⁾, 森下鉄夫, 石井裕正⁽¹⁾, 日比紀文⁽¹⁾ : *Helicobacter pylori* 一次除菌不成功例に対する遺伝子解析, 寒天平板希釈法併用による薬剤感受性試験, 第 10 回日本ヘリコバクター学会抄録集, 103, 2004.(第 10 回日本ヘリコバクター学会, 東京) (1)慶大・消化器内科,(2)慶大・総合医科学研究センター,(3)三菱化学 B C L,(4)千病・内科
18. 高山哲郎⁽¹⁾, 大原正志⁽²⁾, 森下鉄夫, 鈴木秀和⁽³⁾, 正岡建洋⁽³⁾, 石井裕正⁽³⁾ : 抗生物質の BALB/c マウス由来の B cell lymphoma cell に対する apoptosis 誘導能とその経路についての検討, 第 10 回日本ヘリコバクター学会抄録集, 189, 2004.(第 10 回日本ヘリコバクター学会, 東京) (1)市病・消化器科,(2)千病・内科,(3)慶大・医・消化器内科
19. 大原正志⁽¹⁾, 森下鉄夫, 鈴木秀和⁽²⁾, 正岡建洋⁽²⁾, 石井裕正⁽²⁾ : 染色体構造異常 から見た *H.pylori* の胃粘膜への影響能の検討, 日消誌 101(Suppl), A243, 2004.(第 90 回日本消化器病学会総会, 仙台市) (1)千病・内科,(2)慶大・医・消化器内科
20. 岸川 浩⁽¹⁾, 西田次郎⁽¹⁾, 中野 雅⁽¹⁾, 貝田将郷⁽¹⁾, 岡田聡, 仁科牧子, 森下鉄夫 : 潰瘍性大腸炎の急性増悪に一過性健忘を合併した 1 例, 千葉医師会誌 57(2), 109, 2005.(第 283 回日本消化器病学会関東支部例会, 柏市) (1)市病・消化器科

21. 長村愛作⁽¹⁾, 中野 雅⁽¹⁾, 岸川 浩⁽¹⁾, 貝田将郷⁽¹⁾, 西田次郎⁽¹⁾, 岡田聡, 仁科牧子, 森下鉄夫 : 潰瘍性大腸炎の急性増悪に一過性健忘を合併した 1 例, 第 283 回日本消化器病学会関東支部会プログラム, 9, 2005. (第 283 回日本消化器病学会関東支部会, 東京) (1)市病・消化器科
22. 山本裕輝⁽¹⁾, 大木貴博⁽²⁾, 佐伯陽子⁽¹⁾, 寺嶋 毅, 西田次郎⁽¹⁾, 森下鉄夫 : 拡張型心筋症の経過中に発症した大動脈解離の一例, 第 12 回市川医学会プログラム, 2005.(第 12 回市川医学会, 市川市) (1)市病・消化器科,(2)市病・循環器科
23. 小出希実, 松崎達, 寺嶋 毅, 中村健太郎⁽¹⁾, 岸川 浩⁽¹⁾, 中野 雅⁽¹⁾, 西田次郎⁽¹⁾, 森下鉄夫, 田中陽一⁽²⁾, 宮内潤⁽²⁾ : 急性の経過で肝不全に至った肺癌の転移性肝腫瘍の 2 例, 第 16 回千葉 Critical Care Medicine 研究会抄録集, 2005.(第 16 回千葉 Critical Care Medicine 研究会, 千葉市) (1)市病・消化器科,(2)市病・臨検
24. Takayama,T.⁽¹⁾, Morishita,T., Ohara,T.⁽²⁾, Miyazaki,K.⁽³⁾, Iwasaki,E., Kishikawa,H.⁽¹⁾, Nakano,M.⁽¹⁾, Suzuki,H.⁽⁴⁾, Nishida,J.⁽¹⁾, Sekizuka,E.⁽³⁾, Nagata,H.⁽⁴⁾, Hibi,T.⁽⁴⁾ : Effect of green tea catechins on the gastric microcirculation, The 30th Annual Meeting of Japanese Society for Microcirculation Program & Abstract, 151, 2005.(The 30th Annual Meeting of Japanese Society for Microcirculation, Tokyo) (1)市病・消化器科,(2)千病・内科,(3)国立埼玉病院・消化器内科,(4)慶大・医・消化器内科
25. 大原正志⁽¹⁾, 森下鉄夫, 鈴木秀和⁽²⁾, 橋本 洋⁽³⁾, 秋本真寿美⁽³⁾, 木村典夫⁽⁴⁾, 正岡建洋⁽²⁾, 西澤俊宏⁽²⁾, 日比紀文⁽²⁾ : 炎症性胃病変の難治化と Toll like receptors(TLRs)の変異に関する検討, 第 1 回日本消化管学会総会抄録集, 221, 2005.(第 1 回日本消化管学会総会, 名古屋市) (1)千病・内科,(2)慶大・医・消化器内科,(3)東京女子医大成人医学センター,(4)セコムメディック病院消化器内科

3. 外 科 学 講 座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	安藤 暢敏	食道がんの集学的治療の研究
助 教 授	正村 滋	乳がん治療における Sentinel Node Navigation Surgery の検討 とくに Sentinel Node 内の微小転移巢の検出法に関する検討
講 師	佐藤 道夫	TISSUE ENGINEERING 法を用いた代用食道の研究
助 手	小川 信二	胃癌の進展形式と間質 (A94-0650-6)
	原田 裕久	移植血管の慢性拒絶による内膜降下の抑制剤に関する基礎家的研究
	青木 成史	大腸癌発癌における PBR の機構解析
	小野 滋司	

2. 成果の概要

本邦ではこれまで外科的切除が食道がんに対する標準治療とされて来たが、その一方でごく早期の粘膜がんには内視鏡的粘膜切除術が、周囲臓器浸潤や遠隔リンパ節転移を伴った高度進行がんには化学放射線併用療法が積極的に行われるようになり、がんの進行度により治療選択の幅が拡大し、治療の個別化が進んで来た。

このような情勢の中で、厚生労働省がん研究助成金指定研究「消化器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究」班の JCOG 食道がんグループでは、1978 年のグループ発足以来継続して行ってきた手術補助療法の第 相ランダム化比較試験を中心に、Stage 食道がんや高度進行食道がんに対する化学放射線併用療法の第 相試験などを併行して行ってきた。安藤はグループ代表として以下の 3 試験を積極的に遂行、計画中である。

- 1) 臨床病期 期および 期胸部食道がんに対する 5FU + シスプラチン術前補助化学療法と術後補助化学療法のランダム化比較試験 (第 6 次研究 JCOG 9907)
- 2) 局所進行食道がんに対する Low dose CDDP / 5 FU・放射線同時併用療法と Standard dose CDDP / 5 FU・放射線同時併用療法とのランダム化第 / 相試験 (JCOG 0303)
- 3) Stage (T1N0M0) 食道がんに対する食道切除術と放射線化学療法同時併用療法 (CDDP + 5 - FU + RT) のランダム化比較試験 (JCOG 0502)

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
小川 信二	抗 TIMP 1 抗体を用いた胃癌の浸潤増殖抑制効果の検討	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	東京	窪地 淳

4. 科研費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
安藤 暢敏	食道がんの集学的治療の研究	厚労省がん研究助成金
安藤 暢敏	食道がんに対する術後標準的治療法の確立に関する研究	厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究)

5. 研究活動の特記すべき事項

学会・研究会主催

主催者名	年月日	学会・研究会名	会場	主催地
安藤 暢敏	2004.11.25	第1回市川医療連携フォーラム	市川市医師会館	市川市
安藤 暢敏	2005.4.21	第2回市川医療連携フォーラム	市川市医師会館	市川市

6. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
安藤 暢敏	2004.6.18	食道癌の治療が「1」&「2」標準治療は何か	第28回日本頭頸部腫瘍学会 スポンサーセミナー	福岡市
安藤 暢敏	2005.2.3	食道癌集学的治療の現況と展望	第3回沖縄消化器癌集学療法研究会 特別講演	那覇市

論 文

1. Hayashi,K.⁽¹⁾, Ando,N., Ozawa,S.⁽²⁾, Kitagawa,Y.⁽²⁾, Miki,H.⁽²⁾, Sato,M., Kitajima,M.⁽²⁾ : A Neo-Esophagus Reconstructed by Cultured Human Esophageal Epithelial Cell, Smooth Muscle Cells, Fibroblasts, and Collagen, ASAIO J **50**(3), 261 ~ 266, 2004. 原著 (1)(独)国立病院機構東埼玉病院,(2)慶大・医・外科
2. 山名秀明⁽¹⁾, 安藤暢敏 : 食道がんに対する術後補助化学療法の有効性, 血液・腫瘍科 **49**(3), 311 ~ 316, 2004. 臨床 (1)久留米大・集学治療センター
3. Ishida,K.⁽¹⁾, Ando,N. : Phase II Study of Cisplatin and 5-Fluorouracil with Concurrent Radiotherapy in Advance Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus: a Japan Esophageal Oncology Group (JCOG)/Japan Clinical Oncology Group Trial (JCOG9516), Jpn J Clin Oncol **34**(10), 615 ~ 619, 2004. 原著 (1)岩手医大・第1外科

解 説

1. 佐藤道夫, 安藤暢敏 : 進行食道癌に対する化学療法, 外科 **66**(11), 1254 ~ 1258, 2004.
2. 佐藤道夫, 安藤暢敏 : 食道癌と化学療法, 消内視鏡 **16**(12), 1784 ~ 1789, 2004.

単行図書

1. 安藤暢敏(a): 著分担 :消化器外科診療二頁の秘訣 (a)結腸,小腸を用いた食道再建のコツ 94 ~ 95 頁, 金原出版, 東京, 2004.
2. 佐藤道夫(a): 著分担 :ナースの外科学 (a)胸壁,胸膜疾患 192 ~ 205 頁, 中外医学社, 東京, 2005.

その他

1. 小野滋司, 佐藤道夫, 正村 滋, 小川信二, 原田裕久, 青木成史, 安藤暢敏 : 腹腔鏡補助下に摘出可能であった小腸内異物の一例, 千葉 Critical Care Medicine 研究会プログラム, 2, 2004.

学会抄録

1. 原田裕久, 半田寛, 小川信二, 佐藤道夫, 正村 滋, 安藤暢敏 : 直腸癌術後縫合不全に起因すると考えられた腹部大動脈仮性瘤の一治験例, 日血管外会誌 **13**(2), 267, 2004.(第 32 回日本血管外科学会, 市川市)
2. Ando,N. : Current role of the <<an bloc>> resection for esophageal carcinoma: two-field vs three-field lymph node dissection, Program International Society for Diseases of the Esophagus, 89, 2004. (IX World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus, Madrid, Spain)
3. 安藤暢敏 : 食道癌治療ガイドライン 標準治療は何か , 第 28 回日本頭頸部腫瘍学会プログラム・予稿集, 186, 2004.(第 28 回日本頭頸部腫瘍学会プログラム・予稿集, 福岡市)

4. 原田裕久, 小川信二, 佐藤道夫, 正村 滋, 安藤暢敏, 大内貴志⁽¹⁾, 印南靖志⁽¹⁾, 梅村直治⁽¹⁾, 小坂橋俊哉⁽¹⁾ : 周術期における静脈血栓塞栓症予防の取り組み 特に D-dimer 値によるスクリーニングに関する報告 , 脈管学 **45**(9), 472, 2004.(第 45 回脈管学会, 札幌市) (1)市病・麻酔科
5. 青木成史, 正村 滋, 佐藤道夫, 小川信二, 原田裕久, 安藤暢敏 : S 状結腸子宮内膜症に起因する腸閉塞の一例, 第 12 回市川医学会要旨, 4, 2004.(第 12 回市川医学会, 市川市)
6. 小野滋司, 青木成史, 正村 滋, 佐藤道夫, 小川信二, 原田裕久, 安藤暢敏 : 嚢胞状腺癌の形態を示すリンパ節転移を伴った進行胃癌の一例, 第 794 回外科集談会プログラム・抄録集, 18, 2004.(第 794 回外科集談会, 東京)
7. 安藤暢敏 : 食道癌外科治療の現状と展望, 平成 16 年度厚生労働省がん研究助成金によるシンポジウム抄録集, 14 ~ 15, 2005.(平成 16 年度厚生労働省がん研究助成金によるシンポジウム, 東京)
8. 青木成史, 正村 滋, 佐藤道夫, 小川信二, 原田裕久, 小野滋司, 安藤暢敏 : 大腸癌浸潤先進部の組織形態の臨床病理的意義について, 第 62 回大腸癌研究会プログラム・抄録集, 55, 2005.(第 62 回大腸癌研究会, 東京)
9. 小野滋司, 青木成史, 正村 滋, 佐藤道夫, 小川信二, 原田裕久, 安藤暢敏 : 腸腰筋膿瘍の 3 例, 第 47 回千葉県外科医会プログラム, 245, 2005.(第 47 回千葉県外科医会, 千葉市)
10. 青木成史, 正村 滋, 佐藤道夫, 小川信二, 原田裕久, 小野滋司, 安藤暢敏 : S 状結腸子宮内膜症に起因する腸閉塞の一例, 日腹救医会誌 **25**(2), 387, 2005.(第 41 回日本腹部救急医学会, 名古屋市)

4. 循環器科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

講 師	大木 貴博	急性心筋梗塞
助 手	田原 聡子	冠動脈インターベンション
	板橋 裕史	心不全

2. 成果の概要

第一に冠動脈疾患に対して経皮的冠動脈形成術を行うことによってその治療戦略について臨床研究を行っている。具体的にはバルーンのみによる方法、冠動脈内にステントを留置する方法、あるいはカッティングバルーンを用いた方法などの治療法のそれぞれにおける急性期再閉塞、慢性期心筋梗塞発生率、および再狭窄率などの予後の差異を検討している。第二に左室肥大や心不全を呈する心機能低下症例に関してその病態生理を明らかにすべく臨床的検討を行っている。

5. 消化器科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	西田 次郎	エンドトキシン処理機構における Kupffer 細胞と肝細胞の役割 (A-95-0775-1)
助手	岸川 浩	小腸における粘膜防御機構の解明 (A-05-0775-3)
	貝田 将郷	上部消化管疾患に対する内視鏡的治療

2. 成果の概要

1) 小腸における粘膜防御機構の解明 (A-05-0775-3)

小腸粘膜は様々な食餌抗原に常時、暴露されている器官であり、消化吸収に関与しているのみならず体内で最も活発な免疫応答が行われている臓器の1つでもある。この小腸において感染などの刺激により、いかなる免疫応答が関与しているか、特に炎症性サイトカインの放出がどのように変化しているかを、小腸上皮細胞やマクロファージの cell line を用いて検討することが本研究の目的である。我々は、特に細菌性腸炎における小腸の炎症性サイトカインの変化を検討している。我々が注目しているのは細菌性腸炎の起因菌として重要である腸炎ビブリオ、クロストリジウム、コレラなどの感染に伴うサイトカインの変化である。特に腸炎ビブリオに関しては、大阪大学微生物研究所との共同研究により、その主たる病原性と考えられている耐熱性溶血毒 (Thermostable Direct Hemolysin, TDH) の供与を受け、これを精製し、腸粘膜上皮細胞、マクロファージなどに投与し IL-8, IL-6, IL-1 β , TNF- α などの放出を検討し、さらにシグナル伝達などのメカニズムの解明も試みている。

3. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
西田 次郎	2004. 6. 5	敗血症と肝微小循環障害 ・生体顕微鏡的研究を中心に・	第277回東京歯科大学 学会例会	千葉市

論 文

1. Terashima, T.⁽¹⁾, Matsuzaki, T.⁽¹⁾, Kawada, I.⁽¹⁾, Nishida, J., Tanaka, Y.⁽²⁾, Morishita, T.⁽¹⁾, Yamane, G.⁽³⁾, Uchiyama, T.⁽⁴⁾ : Tongue metastasis as an initial presentation of a lung cancer, Intern Med **43**(8), 727 ~ 730, 2004. 症例 (1)市病・内科,(2)市病・臨検,(3)市病・オーラルメディスン,(4)口外 II
2. Ebinuma, H.⁽¹⁾, Saito, H.⁽¹⁾, Tada, S.⁽¹⁾, Masuda, T.⁽¹⁾, Kamiya, T.⁽¹⁾, Nishida, J., Yoshioka, M.⁽¹⁾, Ishii, H.⁽¹⁾ : Additive therapeutic effects of the liver extract preparation mixture adelavin-9 on interferon-beta treatment for chronic hepatitis C., Hepatogastroenterology **51**(58), 1109 ~ 1114, 2004. 原著 (1)慶大・医・内科
3. Kishikawa, H., Nishida, J., Hirano, E., Nakano, M., Arakawa, K.⁽¹⁾, Morishita, T.⁽¹⁾, Kawashima, J.⁽²⁾, Koide, O.⁽³⁾, Tanaka, Y.⁽³⁾, Ishii, H.⁽⁴⁾ : Chronic ischemic proctitis: case report and review, Gastrointest Endosc **60**(2), 304 ~ 308, 2004. 症例 (1)市病・内科,(2)市病・皮膚科,(3)市病・臨検,(4)慶大・医・内科

解 説

1. 西田次郎, 岸川 浩, 森下鉄夫⁽¹⁾ : 敗血症性ショックと肝微小循環障害, 医薬の門 **44**(3), 213 ~ 218, 2004. (1)市病・内科

学会抄録

1. 西田次郎 : 敗血症と肝微小循環障害-生体顕微鏡的研究を中心に-, 歯科学報 **104**(3), 340, 2004.(第 277 回東京歯科大学学会例会, 千葉市)
2. 中村健太郎, 中野 雅, 岸川 浩, 西田次郎, 平田文乃, 森下鉄夫⁽¹⁾, 田中陽一⁽²⁾ : 急激な経過で肝不全に至った肺癌の転移性肝腫瘍の 1 例, 第 280 回日本消化器病学会関東支部例会抄録集, 30, 2004.(第 280 回日本消化器病学会関東支部例会, 東京) (1)市病・内科,(2)市病・臨検
3. 山本裕輝, 大木貴博⁽¹⁾, 佐伯陽子, 寺嶋 毅⁽²⁾, 西田次郎, 森下鉄夫⁽²⁾ : 拡張型心筋症の経過中に発症した大動脈解離の 1 例, 第 12 回市川医学会要旨, 4, 2004.(第 12 回市川医学会, 市川市) (1)市病・循環器科,(2)市病・内科
4. 高山哲郎, 岸川 浩, 中野 雅, 仁科牧子⁽¹⁾, 西田次郎, 森下鉄夫⁽¹⁾ : CDDP および 5-FU による化学療法中に意識障害を伴う高アンモニア血症を認めた 1 例, 第 281 回日本消化器病学会関東支部例会抄録集, 36, 2004.(第 281 回日本消化器病学会関東支部例会, 東京) (1)市病・内科
5. 岩崎栄典⁽¹⁾, 岸川 浩, 長田高志⁽¹⁾, 中村健太郎, 平野江里香, 中野 雅, 西田次郎, 森下鉄夫⁽¹⁾ : 内視鏡的に止血し得た多発性十二指腸憩室出血の 1 例, Progr Dig Endosc **64**(2), 92 ~ 93, 2004.(第 79 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京) (1)市病・内科
6. 岸川 浩, 西田次郎, 中野 雅, 貝田将郷, 岡田聡⁽¹⁾, 仁科牧子⁽¹⁾, 森下鉄夫⁽¹⁾ : 潰瘍性大腸炎の急性増悪に一過性健忘を合併した 1 例, 千葉医師会誌 **57**(2), 41, 2005.(第 28 回東葛地区消化器疾患研究会, 柏市) (1)市病・内科

7. Takayama,T., Morishita,T.⁽¹⁾, Ohara,T.⁽²⁾, Miyazaki,K.⁽³⁾, Iwasaki,E.⁽¹⁾, Kishikawa,H., Nakano,M., Suzuki,H.⁽⁴⁾, Nishida,J., Sekizuka,E.⁽⁴⁾, Nagata,H.⁽⁴⁾, Hibi,T.⁽⁴⁾ : Effect of green tea catechins on the gastric microcirculation., Program & Abstracts for The 6th Asian Congress for Micirculation, 151, 2005.(The 6th Asian Congress for Micirculation, Tokyo) (1)市病・内科,(2)千病・内科,(3)慶大,(4)慶大・医・内科

6. 小児科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	田中 葉子	男性不妊をきたす遺伝的機序の解明 (A02-0640-4)
助教授	杉田記代子	新生児 GBS (B 群溶血連鎖球菌) 感染症に関する研究 (A00-0640-2)
講師	室谷 浩二	性分化異常症における包括的遺伝子診療システムの開発 (A02-0640-3)
講師	和田 雅樹	^{13}C 呼気テストの小児への応用 (肝機能, 薬剤代謝能, アミノ酸代謝能, 消化吸収能, 胃通過能の評価) (A03-0640-7)
助手	森 裕美	新生児未熟児医療一般
研修医	松井 秀司	小児科全般

2. 成果の概要

1) 男性不妊をきたす遺伝的機序の解明 (A02-0640-4)

リプロダクションセンターにおいて、小児科と泌尿器科の協力で「男性不妊をきたす遺伝的機序の解明」研究を継続している。多岐に亘る男性不妊症の原因のうち Y 染色体の異常はかなりの頻度を占める。Y 染色体は人種間でハプロタイプの違いがあり、現在日本人固有の Y 染色体データは存在しない。本研究における目標は、Y 染色体に関する日本人の基準データの作成、日本人不妊男性の Y 染色体微細欠失の同定である。

今年度は、1) コントロール男性において、各マーカーの多型パターンとその頻度の算出、2) リプロダクションセンターを受診した男性不妊症患者 15 症例における Y 染色体微細欠失の結果の集計を行った。さらに症例を集積し日本人における男性不妊の特徴を含めて検討する予定である。

2) 新生児 GBS (B 群溶血連鎖球菌) 感染症に関する研究 (A00-0640-2)

産科と小児科との協力下、1) 母体の GBS 感染検索と感染兆候によるリスク分類およびこのリスク分類による分娩時の抗菌剤予防プロトコール、2) 新生児の細菌培養検索・管理プロトコール、を作成した。これは、アメリカ産婦人科学会・アメリカ小児科学会の勧告を参考にした当院独自のプロトコールである。

現在、同プロトコールの長期的継続による GBS 感染予防効果を確認するために本研究を継続し、約 4 年が経過し、早発型 GBS 感染症および遅発型 GBS 感染症の発症症例はなく有効性が確認されつつある。さらに、出生後の新生児の細菌検査結果からは抗菌剤使用による菌交代現象などの影響も認めていない。今後さらに長期的継続によりデータの蓄積を行う。

3) 性分化異常症における包括的遺伝子診療システムの開発 (A02-0640-3)

性分化異常症の原因は多岐にわたるが、その遺伝的機序はほとんど解明されていない。われわれは、分子遺伝学的手法を用いて、性分化異常症の包括的診断システムを構築することを目指している。

本年度は (A) 男性外性器異常 (尿道下裂, 矮小陰茎, 停留精巣など) を有する患者におけるアンドロゲン受容体 (AR) 遺伝子変異および CAG リピート多型の関与、(B) 無精子症患者におけるエストロゲン受容体アルファ (ER) 遺伝子の一塩基置換多型の関与、の検討を行うための症例集積を継続中である。

4) ^{13}C 呼気テストの小児への応用(肝機能,薬剤代謝能,アミノ酸代謝能,消化吸収能,胃通過(A-03-0640-7)
安定同位元素 ^{13}C により標識された化合物による呼気テストは,放射線の被曝がなく,かつ,検体が呼気であるために非侵襲的な検査法である.我々は, ^{13}C 呼気テストにより,小児の肝代謝能,胃通過能,消化吸収能,アミノ酸代謝能,薬物代謝能の評価を行っている.平成16年度は ^{13}C phenylalanine 呼気テストを胆道閉鎖症術後の児へ応用し,肝線維化・胆汁うっ滞の程度と本検査結果との関連を検討した.また, ^{13}C erythromycin による薬剤代謝能の評価に関する基礎実験を継続して行った.

^{13}C 医学 14, 24~25, 2004

論 文

1. 和田雅樹 : NICU 最前線.考える看護実践.新生児仮死 - 低酸素性虚血性脳症、cystic PVL の予防, ネオネイタルケア **17**(1), 18 ~ 23, 2004. 総説
2. Wada,M. : Measurement of hepatic phenylalanine metabolism in children using ¹³C-phenylalanine breath test and gas chromatography mass spectrometry, J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci **806**(1), 5 ~ 10, 2004. 原著
3. 和田雅樹, 松永雅道⁽¹⁾, 佐藤 尚⁽²⁾ : 長期生存している超低出生体重児の先天性筋緊張性ジストロフィーの 1 例, 日周産期・新生児会誌 **40**(3), 581 ~ 584, 2004. 症例 (1)新潟県,(2)新潟大・大学院・小児科
4. 和田雅樹 : B 群レンサ球菌(GBS), 小児科 **45**(4), 787 ~ 792, 2004. 総説
5. Okano,Y.⁽¹⁾, Hase,Y.⁽²⁾, Kawajiri,M.⁽¹⁾, Nishi,Y.⁽¹⁾, Inui,K.⁽¹⁾, Sakai,N.⁽¹⁾, Tanaka,Y., Takatori,K.⁽³⁾, Kajiwara,M.⁽³⁾, Yamano,T.⁽¹⁾ : In vivo studies of phenylalanine hydroxylase by phenylalanine breath test: diagnosis of tetrahydrobiopterin-responsive phenylalanine hydroxylase deficiency, Pediatr Res **56**(5), 714 ~ 719, 2004. 原著 (1)大阪市大・医・小児科,(2)西成区保健福祉センター,(3)明治薬大・薬品化学
6. Yoshida,R.⁽¹⁾, Hasegawa,T.⁽¹⁾, Hasegawa,Y.⁽²⁾, Nagai,T.⁽³⁾, Kinoshita,E.⁽⁴⁾, Tanaka,Y., Kanegane,H.⁽⁵⁾, Ohyama,K.⁽⁶⁾, Ohnishi,T.⁽⁷⁾, Hanew,K.⁽⁸⁾, Okuyama,T.⁽⁹⁾, Horikawa,R.⁽¹⁰⁾, Tanaka,T.⁽¹¹⁾, Ogata, T.⁽¹¹⁾ : Protein-tyrosine phosphatase, nonreceptor type 11 mutation analysis and clinical assessment in 45 patients with Noonan syndrome, J Clin Endocrinol Metab **89**(7), 3359 ~ 3364, 2004. 原著 (1)慶大・医・小児科,(2)都立清瀬小児病院・内分泌代謝科,(3)獨協医大・小児科,(4)長崎大・医・小児科,(5)富山医科薬科大・医・小児科,(6)山梨医大・小児科,(7)東医歯大・医・小児科,(8)宮城県,(9)国立成育医療センター・分子医学,(10)国立成育医療センター・思春期青年医学,(11)国立成育医療センター・内分泌代謝科
7. 田中葉子 : 骨軟骨異形性症 XI 型コラーゲン異常症 - 概説, 小児内科 **36**(増刊号), 110 ~ 113, 2004. 総説
8. 田中葉子 : 小児科医が知っておきたい骨系統疾患 Kniest dysplasia/Kniest 骨異形性症, 小児内科 **36**(増刊号), 356 ~ 359, 2004. 総説
9. 田中葉子 : 小児科医が知っておきたい骨系統疾患 Stickler dysplasia/Stickler 骨異形性症, 小児内科 **36**(増刊号), 360 ~ 364, 2004. 総説
10. 和田雅樹, 梶原正宏⁽¹⁾, 高取和彦⁽¹⁾, 仁志田博司⁽²⁾, 内山 聖⁽³⁾ : 小児科領域への ¹³C-phenylalanine 呼気テストの応用, ¹³C 医学 **14**, 24 ~ 25, 2004. 原著 脳科学研 (1)明治薬大・薬品化学,(2)東京女子医大・母子総合医療センター,(3)新潟大・大学院・小児科
11. Nishimura,G.⁽¹⁾, Hasegawa, T.⁽²⁾, Kinoshita,E.⁽³⁾, Tanaka,Y., Kurokawa,K.⁽⁴⁾, Yoshimoto,M.⁽⁵⁾ : Newly recognized syndrome of metaphyseal undermodeling, spondylar dysplasia, and overgrowth: Report of two adolescents and a child, Am J Med Genet **128A**, 204 ~ 208, 2004. 原著 (1)東京都立清瀬小児病院・放射線科,(2)慶應大・医・小児科,(3)長崎大・医・小児科,(4)神奈川県立こども医療センター・小児科,(5)Children's Clinic Yoshimoto
12. 室谷浩二, 長谷川奉延⁽¹⁾ : 遺伝子レベルよりみた性差, 治療学 **39**, 235 ~ 239, 2005. 総説 (1)慶大・医・小児科

解 説

1. 田中葉子：生殖医療と遺伝医療 - 東京歯科大学市川総合病院リプロダクションセンターの診療 -, 慶応医学 81(2), 145 ~ 146, 2004.

単行図書

1. 和田雅樹：著分担：家庭医学大全科 (a)新生児けいれん 220 頁,(b)新生児嘔吐 220 ~ 221 頁,(c)先天性食道閉鎖症 221 ~ 222 頁,(d)先天性腸管閉鎖症 222 ~ 223 頁,(e)鎖肛 223 頁,(f)新生児壊死性腸炎 224 頁,(g)臍帯ヘルニア 224 ~ 225 頁,(h)未熟児網膜症 225 ~ 227 頁,(i)新生児循環不全 227 頁,(j)乳児突然死症候群(SIDS) 483 ~ 484 頁, 法研, 東京, 2004.
2. 和田雅樹：著分担：今日の治療指針 2004 (a)ビタミン K 欠乏性出血 964 頁, 医学書院, 東京, 2005.

その他

1. 室谷浩二：背が小さいのが心配, クリニック Q&A 冬号, 10 ~ 11, 2005.

学会抄録

1. 田中葉子：インスリングルルギンを用いた強化インスリン療法の経験, 第 10 回 千葉小児糖尿病研究会抄録集, 2001.(第 10 回 千葉小児糖尿病研究会, 千葉市)
2. 松井秀司, 室谷浩二, 杉田記代子, 田中葉子：インフルエンザ後に中毒性表皮壊死を呈した 1 例, 第 27 回東葛小児感染免疫研究会プログラム, 2004.(第 27 回東葛小児感染免疫研究会, 柏市)
3. 和田雅樹, 森裕美, 杉田記代子, 田中葉子, 室谷浩二, 碓氷樹理, 松井秀司：小脳低形成を合併した Aicardi 症候群の 1 例, 日小児会誌 108(2), 278, 2004.(第 107 回 日本小児科学会学術集会, 岡山市)
4. 田中葉子, 室谷浩二：持効型インスリン(インスリングルルギン)を用いた強化インスリン療法の経験, 第 10 回 小児・思春期糖尿病研究会抄録, 2004.(第 10 回 小児・思春期糖尿病研究会, 大阪市)
5. 和田雅樹：GC-MS を使用した ^{13}C -phenylalanine breath test による biliary atresia 術後の児の liver fibrosis の評価, 第 29 回日本医用マススペクトル学会抄録集, 2004.(第 29 回日本医用マススペクトル学会, 出雲市)
6. 望月貴博⁽¹⁾, 藤田敬之助⁽¹⁾, 鶴原昭史⁽²⁾, 中島良一⁽³⁾, 山田 浩⁽⁴⁾, 室谷浩二, 緒方勤⁽⁵⁾：インスリン依存性糖尿病を合併した GATA3 遺伝子変異陽性の HDR 症候群, 第 38 回日本小児内分泌学会抄録集, 2004.(第 38 回日本小児内分泌学会, 神戸市) (1)大阪私立小児保健医療センター小児内科,(2)大阪,(3)西宮市立市民病院小児科,(4)大阪市立北市民病院小児科,(5)国立成育医療センター研究所)
7. 和田雅樹, 和田有子：新潟県中越地震医療支援報告 震災時の乳幼児医療の問題点 , 第 2 回千葉県周産期・新生児研究会抄録集, 2004.(第 2 回千葉県周産期・新生児研究会, 千葉市)

8. 松井秀司, 杉田記代子, 室谷浩二, 田中葉子 : 最近の川崎病再発例について, 第 28 回 東葛小児感染免疫研究会プログラム, 2004.(第 28 回 東葛小児感染免疫研究会, 浦安市)
9. 田中葉子 : 小児 1 型糖尿病治療の進歩, 歯科学報 **104**(5), 503, 2004.(第 278 回 東京歯科大学学会総会, 千葉市)
10. 室谷浩二, 松井秀司, 杉田記代子, 田中葉子, 吉田菜穂子⁽¹⁾, 藤野元子⁽¹⁾, 中山哲夫⁽¹⁾ : 麻疹ワクチン接種後, 発熱の持続, 発疹, 肝機能障害, 高サイトカイン血症を呈した 1 例, 第 108 回日本小児科学会学術集会抄録集, 2005.(第 108 回日本小児科学会学術集会, 東京) 脳科学研 (1)北里生命科学研究所・ウイルス感染制御
11. 田中葉子, 室谷浩二 : インスリングルルギンを用いた強化インスリン療法 - 1 型糖尿病 3 症例における治療効果の検討 -, 第 38 回 日本小児内分泌学会抄録集, 137, 2005.(第 38 回 日本小児内分泌学会, 神戸市)

7. 脳神経外科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 教授 菅 貞郎 選択的脳分離循環による脳低温療法 (A02-0760-1)
都市における未破裂脳動脈瘤の保有率と治療成績 (A02-0760-2)
- 講師 島本 佳憲 より安全で確実な脳動脈瘤クリッピング術を施行するための取り組み (A00-0760-1)
経蝶形骨洞手術における endonasal approach 用スペキュラの開発 (A98-0760-1)
- 助手 大泉 太郎 光ファイバーと ADSL を活用した遠隔手術支援 (A04-0760-1)

2. 成果の概要

1) 光ファイバーと ADSL を活用した遠隔手術支援

手術用顕微鏡の画像を最新の双方向映像通信機器 (VP1000) に入力し, 光ファイバーや ADSL などインターネット網を経由し, 関連病院や慶應義塾大学に送信し, 回線別にタイムラグや画質, コマ数に関して, 手術支援が可能か調査中である。また, VP1000 は, テレビ電話による, 多地点との双方向通信が可能のため, 脳神経外科的に珍しい症例や手術が困難出会った症例など, 多地点遠隔医療カンファレンスを計画している。

3. 研究活動の特記すべき事項

学会・研究会主催

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
菅 貞郎	2004. 11. 24	両側性頸部頸動脈病変への対応	第 5 回東葛脳血管障害研究会	浦安市

4. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
菅 貞郎	2004. 5. 27	最近の脳卒中の外科治療 脳卒中治療ガイドライン 2004 を踏まえて	市川市医師会外科医会学術 講演会	市川市

ラジオ放送

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
菅 貞郎	2004. 5. 25	脳血管障害 (1) 総論	「ひるどき情報ちば」健康メモ	千葉県
菅 貞郎	2004. 6. 11	脳血管障害 (3) 脳神経外科領域	「ひるどき情報ちば」健康メモ	千葉県

論 文

1. 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 渡邊 裕⁽¹⁾, 佐藤一道⁽¹⁾, 塚本裕介⁽¹⁾, 栗山智宏⁽¹⁾, 中島庸也⁽²⁾, 松脇由典⁽²⁾, 浅香大也⁽²⁾, 菅 貞郎 : 閉塞性睡眠時無呼吸を併発した Crouzon 症候群の治療成績, 日顎変形会誌 14(2), 137 ~ 144, 2004. 原著 (1)市病・オーラルメディスン,(2)市病・耳鼻科

解 説

1. 菅 貞郎 : European Carotid Surgery Trial の最終結果の検討, Medical Briefs in Brain and Nerve 13(2), 1 ~ 2, 2004.

学会抄録

1. 菅 貞郎, 島本佳憲 : くも膜のう疱を合併した小児慢性硬膜下血腫の一例, Neurologia medico-chirurgica, 2004.(第 93 回日本脳神経外科学会関東地方会, 東京)
2. 菅 貞郎, 大泉太郎, 島本佳憲 : 島 ~ 内包部海綿状血管腫の 1 手術例, 第 19 回 TKNJ Conference 抄録集, 2004.(第 19 回 TKNJ Conference, 福島県白河郡西郷村)
3. 中川亨⁽¹⁾, 戸田正博⁽¹⁾, 菅 貞郎, 河瀬斌⁽¹⁾ : ラット一過性中大脳動脈閉塞モデルに対する GM-CSF の超急性期投与による脳保護効果の検討, 第 16 回日本脳循環代謝学会総会抄録集, 77, 2004.(第 16 回日本脳循環代謝学会総会, 大宮市) (1)慶大・医・脳外科
4. 島本佳憲 : 頭蓋頸椎移行部前半部硬膜内疾患への suboccipital transcondylar approach, 第 11 回日本脊椎脊髄神経手術手技学会, 2004.(第 11 回日本脊椎脊髄神経手術手技学会, さいたま市)
5. 赤路和則⁽¹⁾, 平賀健司⁽¹⁾, 小林正人⁽¹⁾, 谷崎義生⁽¹⁾, 菅 貞郎 : PercuSurge GuardWire を用いた頸動脈 stent 留置術 頸動脈内膜剥離術との比較 , 第 63 回日本脳神経外科学会総会抄録集, 2004.(第 63 回日本脳神経外科学会総会, 名古屋市) (1)美原記念病院・脳外科
6. 菅 貞郎, 大泉太郎, 島本佳憲 : Hypoglycemic motor aphasia の一例, 第 3 回脳血管障害慢性期治療研究会抄録集, 2004.(第 3 回脳血管障害慢性期治療研究会, 浦安市)
7. 島本佳憲 : 頭蓋頸椎移行部前半部及び斜台下部硬膜内疾患への suboccipital transcondylar approach, Yonsei-Keio joint conference, 2004.(The 2nd Yonsei-Keio joint conference, Fujinomiya)
8. Shimamoto,Y. : The suboccipital transcondylar approach to the lower clivus and anterior craniocervical junction, Yonsei-Keio joint conference, 2004.(The 2nd Yonsei-Keio joint conference, Fujinomiya)
9. 島本佳憲 : 頭蓋内疾患が疑われた胸髄馬尾神経腫瘍の症例, 湾岸脳神経疾患研究会, 2004.(第 4 回湾岸脳神経疾患研究会, 市川市)
10. 大泉太郎, 菅 貞郎, 島本佳憲, 大平貴之⁽¹⁾, 河瀬 斌⁽¹⁾ : 手術室からの院内・院外への手術動画ストリーミング配信とその活用, 第 14 回日本脳神経外科コンピュータ研究会抄録集, 2005.(第 14 回日本脳神経外科コンピュータ研究会, 東京) A04-0760-1 (1)慶大・医・脳外科

11. 島本佳憲：周期性嘔吐症を呈した頭蓋咽頭腫の女児例，湾岸脳神経疾患研究会，2005.(第 6 回湾岸脳神経疾患研究会，浦安市)

12. 大泉太郎，菅 貞郎，島本佳憲，堂本洋一⁽¹⁾，大平貴之⁽²⁾，河瀬 斌⁽²⁾：光ファイバーとADSLを活用した遠隔手術支援，第 63 回日本脳神経外科学会総会抄録集，2005.(第 63 回日本脳神経外科学会総会，名古屋市) A04-0760-1
(1)伊勢慶友病院・脳外科,(2)慶大・医・脳外科

8. 整形外科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	高橋 正憲	骨形成促進の実験的研究 (A97-0660-1)
	(リハビリテーション科)	手の外科の臨床的研究
助教授	小柳 貴裕	脊椎・脊髄外科の内視鏡的手術に関する研究
助手	南雲 剛史	骨軟部腫瘍
	穴澤 卯圭	骨軟部腫瘍
	棚木 弘和	手の外科
	雨宮 拓二	整形外科一般
研修医	高尾 英龍	整形外科一般
	古川 満	整形外科一般

2. 成果の概要

1) 骨形成促進の実験的研究 (A01-0660-1, A97-0660-2)

平成8年度よりHRCおよび科研費の助成を受けて、上記の課題で当院産婦人科との共同研究チームを編成し研究を継続してきた。昨年は、各種温度に設定した通常の冷凍庫を用いて骨および軟骨の Viability の可能性について、第274回東歯学会で、「凍結方法の違いによる骨端部軟骨の Viability プログラムフリーズ法とガラス化法の比較」を、第276回東歯学会では「汎用型冷凍庫を用い各種温度で凍結保存した幼若骨の Viability の検討」を、さらに、第18回日本整形外科学会基礎学術集会で、「各種温度に設定された汎用型冷凍庫内で凍結保存した幼若骨の Viability の検討」「幼若骨端部軟骨の各種温度に設定した汎用型冷凍庫内保存による Viability の検討」を発表した。今年も、現在まで鶏胚を用いて行って来た一連の研究を、哺乳類である家兎を用いて人体への応用を目指して実験を継続する予定である。

2) Navigation system を用いた人工膝関節手術

臨床的研究として computer assist surgery の一環として、navigation system を導入して人工膝関節置換術を行い、本邦で最初にその臨床成績を報告した。

3. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
高橋 正憲	組織の各種凍結保存法による Viability の検討	科学研究費・基盤 (C)

論 文

1. 高橋正憲, 福岡昌利, 小野宏之, 高尾努, 白田修二 : 自家考案皮下腱鞘切開刀によるばね指の手術手技, 日手の外科会誌 **20**(6), 707 ~ 711, 2003. 原著 平成 15 年度分
2. 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾, 穴澤卯圭, 渡部逸央⁽¹⁾ : 【骨転移の診断と最新治療】 外科的治療 四肢骨転移に対する局所根治手術と治療成績, 骨関節靭帯 **17**(4), 476 ~ 483, 2004. 原著 (1)慶大・医・整形
3. 中道憲明⁽¹⁾, 小川清久⁽¹⁾, 池上博泰⁽¹⁾, 穴澤卯圭 : 結核性肩関節炎の 2 例, 臨床整形 **39**(5), 743 ~ 749, 2004. 原著 (1)慶大・医・整形
4. 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾, 渡部逸央⁽¹⁾, 森井健司⁽¹⁾, 白神伸之⁽¹⁾ : 整形・災害外科, 整形・災害外科 **47**(6), 773 ~ 777, 2004. 原著 (1)慶大・医・整形
5. 渡部逸央⁽¹⁾, 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾ : 悪性末梢神経鞘腫の臨床成績, 東日本整災誌 **16**(2), 263 ~ 265, 2004. 原著 (1)慶大・医・整形
6. 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾, 南雲剛史, 鈴木禎寿⁽²⁾, 三浦圭子⁽³⁾ : 65 熱処理自家罹患骨を用いた骨軟部悪性腫瘍の治療成績, 臨整外 **39**(5), 743 ~ 749, 2004. 原著 (1)慶大・医・整形,(2)国立病院東京医療センター・整形,(3)東医歯大・医・病理
7. 加藤雅敬⁽¹⁾, 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾, 三浦圭子⁽¹⁾, 戸山芳昭⁽¹⁾, 白神伸之⁽¹⁾ : Cool-tip ラジオ波凝固システムを用いて治療した類骨骨腫の 1 例, 臨整外 **39**(10), 1359 ~ 1363, 2004. 原著 (1)慶大・医・整形
8. 菊田一貴⁽¹⁾, 穴澤卯圭, 森岡秀夫⁽¹⁾, 三浦圭子⁽¹⁾, 矢部啓夫⁽¹⁾, 戸山芳昭⁽¹⁾ : 第 1 中手骨に発生した骨巨細胞腫の 1 例, 臨整外 **39**(12), 1573 ~ 1577, 2004. 原著 (1)慶大・医・整形
9. Anazawa,U., Hanaoka,H.⁽¹⁾, Morioka,H.⁽²⁾, Morii,K.⁽²⁾, Toyama,Y.⁽²⁾ : Ultrastructural cytochemical and ultrastructural morphological differences between human multinucleated giant cells elicited by wear particles from hip prostheses and artificial ligaments at the knee, Ultrastruct Pathol **28**(5-6), 353 ~ 359, 2004. 原著 (1)Inoue Hosp.,(2)Keio Univ.
10. 高橋正憲, 浪花豊寿, 兼子 智⁽¹⁾ : プログラムフリーズ法およびガラス化法によって凍結保存された幼若骨端部軟骨の viability の検討, 低温医 **30**(1), 20 ~ 24, 2004. 原著 (1)市病・産婦人科
11. 高橋正憲, 浪花豊寿, 兼子 智⁽¹⁾ : 各種温度に設定された汎用型冷凍庫で凍結保存された幼若鶏胚骨端部軟骨の Viability の検討, 低温医 **30**(4), 103 ~ 107, 2004. 原著 (1)市病・産婦人科
12. 三笠貴彦, 高橋正憲, 福岡昌利, 二宮 研⁽¹⁾, 菊池謙太郎, 小柳貴裕 : 第 1、2 中手骨に発生した孤立性骨囊腫の 1 例, 関東整災外会誌 **35**(6), 374 ~ 377, 2004. 原著 (1)慶大・医・整形
13. Takahashi,M., Watanabe,Y.⁽¹⁾, Haraguchi,T.⁽¹⁾, Kawai,T.⁽¹⁾ : Neuromagnetic analysis of the late phase of the readiness field for precise hand movements using magnetoencephalography, Bull Tokyo Dental Coll **45**(1), 9 ~ 17, 2004. 原著 (1)市病・オーラルメディスン

14. Takahashi,M. : Percutaneous release of the trigger fingers by the newly designed knife and probe, 9th Congress of the International Federation of Societies for Surgery of the Hand, 313 ~ 316, 2004. 原著
15. Kosaki,N.⁽¹⁾, Yabe,H.⁽¹⁾, Anazawa,U., Morioka,H.⁽¹⁾, Mukai,M.⁽²⁾, Toyama,Y.⁽¹⁾ : Bilateral multiple malignant transformation of Ollier's disease, Skeltal Radiol **19**, 2005. 原著 (1)慶大・医・整形,(2)慶大・医・病理
16. 小林英介⁽¹⁾, 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾, 三浦圭子⁽¹⁾, 戸山芳昭⁽¹⁾ : 第3趾末節骨に発生した類骨骨腫の1例, 関東整災誌 **36**(1), 31 ~ 34, 2005. 原著 (1)慶大・医・整形
17. 福岡昌利, 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾, 三浦圭子⁽¹⁾, 戸山芳昭⁽¹⁾ : 坐骨神経部に発生した慢性増大性血腫の1例, 臨床整形 **40**(3), 333 ~ 337, 2005. 原著 (1)慶大・医・整形

単行図書

1. 小柳貴裕: 単著 :職業性腰痛症・今日の治療指針 2005, 医学書院, 東京, 2005.
2. 小柳貴裕: 単著 :脊椎のバイオメカニクス・整形外科学 外傷学, 文光堂, 東京, 2005.

プロシーディングス

1. Watanabe,Y.⁽¹⁾, Yamane,G.⁽¹⁾, Abe,S.⁽²⁾, Takahashi,M., Ishikawa,T.⁽³⁾ : Neuromagnetic analysis of the late phase of readiness field for hand precision movement using magnetoencephalography, Int Congr Ser **1270**, 192 ~ 196, 2004.(15th World Congress of the International Society for Brain Electromagnetic Topography, Urayasu) (1)市病・オーラルメデシン,(2)解剖,(3)保存 III
2. 古川満, 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾, 豊田 敬⁽¹⁾, 戸山芳昭⁽¹⁾ : 膝関節鏡視下手術を行った膝関節内発生した類骨骨腫の1例, 関東整災外会誌 **36**(Suppl), 90, 2005.(第45回関東整形災害外科学会, 東京) (1)慶大・医・整形

学会抄録

1. 森岡秀夫⁽¹⁾, 矢部啓夫⁽¹⁾, 南雲剛史, 穴澤卯圭, 鈴木禎寿⁽²⁾, 森井健司⁽¹⁾, 渡部逸央⁽¹⁾, 向井万起男⁽³⁾ : 低悪性度軟骨肉腫に対する外科的治療 切除縁縮小の可能性について, 日整会誌 **78**(4), S472, 2004.(第77回日本整形外科学会学術総会, 東京) (1)慶大・医・整形,(2)国立病院東京医療センター・整形,(3)慶大・医・
2. 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾, 南雲剛史, 鈴木禎寿⁽²⁾, 森井健司⁽¹⁾, 渡部逸央⁽¹⁾ : 大きさ10cm以上の軟部肉腫の治療成績, 日整会誌 **78**(4), S473, 2004.(第77回日本整形外科学会学術集会, 東京) (1)慶大・医・整形,(2)国立病院東京医療センター・整形
3. Anazawa,U., Nagumo,G. : Treatment of myxoid liposarcoma, Asia Pacific Musculoskeletal Tumour Society 5th Meeting Abstract, 2004.(Asia Pacific Musculo Skeretal Tumr Society 5th Meeting, Izmir, Turkey)
4. 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾, 南雲剛史, 鈴木禎寿⁽²⁾, 森井健司⁽¹⁾, 三浦圭子⁽³⁾, 渡部逸央⁽¹⁾ : 脱分化脂肪肉腫の治療成績, 日整会誌 **78**(6), S600, 2004.(第37回日本整形外科学会骨・軟部学術集会, 東京) (1)慶大・医・整形,(2)国立病院東京医療センター・整形,(3)東医歯大・医・病理

5. 鈴木禎寿⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽²⁾, 穴澤卯圭, 森井健司⁽²⁾, 三浦圭子⁽²⁾, 渡部逸央⁽²⁾, 竹内克仁⁽²⁾, 矢部啓夫⁽²⁾ : 骨肉腫病的骨折に対する患肢温存手術, 日整会誌 **78**(6), S625, 2004.(第37回日本整形外科学会骨・軟部学術集会, 東京) (1)国立病院東京医療センター・整形,(2)慶大・医・整形
6. 森岡秀夫⁽¹⁾, 矢部啓夫⁽¹⁾, 穴澤卯圭, 鈴木禎寿⁽²⁾, 森井健司⁽¹⁾, 三浦圭子⁽³⁾, 渡部逸央⁽¹⁾, 戸山芳昭⁽¹⁾ : 軟部肉腫に対するオーダーメイド化学療法 抗癌剤感受性試験からのアプローチ, 日整会誌 **78**(6), S634, 2004.(第37回日本整形外科学会骨・軟部学術集会, 東京) 脳科学研 (1)慶大・医・整形,(2)国立病院東京医療センター・整形,(3)東医歯大・医・病理
7. 渡部逸央⁽¹⁾, 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾ : 四肢長管骨転移性骨腫瘍手術症例の検討, 日整会誌 **78**(6), S635, 2004.(第37回日本整形外科学会骨・軟部学術集会, 東京) 脳科学研 (1)慶大・医・整形
8. 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾, 南雲剛史, 鈴木禎寿⁽²⁾, 三浦圭子⁽³⁾, 渡部逸央⁽¹⁾ : 粘液/円形細胞型脂肪肉腫の治療成績, 日整会誌 **78**(6), S640, 2004.(第37回日本整形外科学会骨・軟部学術集会, 東京) (1)慶大・医・整形,(2)国立病院東京医療センター・整形,(3)東医歯大・医・病理
9. 鈴木禎寿⁽¹⁾, 矢部啓夫⁽²⁾, 森岡秀夫⁽²⁾, 穴澤卯圭, 渡部逸央⁽²⁾, 西本和正⁽³⁾, 三浦圭子⁽⁴⁾ : 股関節に生じた腫瘍様肉芽腫性病変, 日整会誌 **78**(6), S661, 2004.(第37回日本整形外科学会骨・軟部学術集会, 東京) (1)国立病院東京医療センター・整形,(2)慶大・医・整形,(3)立川病院・整形,(4)東医歯大・医・病理
10. 矢部寛樹⁽¹⁾, 矢部啓夫⁽²⁾, 森岡秀夫⁽²⁾, 穴澤卯圭, 向井万起男⁽³⁾, 世富壮一⁽⁴⁾, 塚原智英⁽⁴⁾, 川口 哲⁽⁴⁾, 和田卓郎⁽⁴⁾, 佐藤昇志⁽⁵⁾ : Ewing 肉腫/PNET における Papillomavirus Binding Factor(PBF)の発現, 日整会誌 **78**(6), S665, 2004.(第37回日本整形外科学会骨・軟部学術集会, 東京) 脳科学研 (1)川崎市立川崎病院・整形,(2)慶大・医・整形,(3)慶大・医・病理診断,(4)札幌医大・整形,(5)札幌医大・第一病理
11. 森岡秀夫⁽¹⁾, 矢部啓夫⁽¹⁾, 穴澤卯圭, 鈴木禎寿⁽²⁾, 森井健司⁽¹⁾, 三浦圭子⁽³⁾, 渡部逸央⁽¹⁾, 戸山芳昭⁽¹⁾ : 軟部肉腫における抗癌剤感受性診断と腫瘍不均質性, 日整会誌 **78**(6), S678, 2004.(第37回日本整形外科学会骨・軟部学術集会, 東京) (1)慶大・医・整形,(2)国立病院東京医療センター・整形,(3)東医歯大・医・病理
12. 渡部逸央⁽¹⁾, 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾ : 関節鏡下切除を施行した膝血管腫の 2 例, 日整会誌 **78**(6), S708, 2004.(第37回日本整形外科学会骨・軟部学術集会, 東京) (1)慶大・医・整形
13. 西本和正⁽¹⁾, 矢部啓夫⁽²⁾, 森岡秀夫⁽²⁾, 穴澤卯圭, 渡部逸央⁽²⁾ : 脛骨アダマンチノーマの 4 例, 日整会誌 **78**(6), S716, 2004.(第37回日本整形外科学会骨・軟部学術集会, 東京) (1)立川病院・整形,(2)慶大・医・整形
14. 穴澤卯圭, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾, 南雲剛史, 鈴木禎寿⁽²⁾, 森井健司⁽¹⁾ : 体幹部腫瘍に対する集学的手術 骨性胸壁切除を行った胸壁腫瘍の治療成績, 東日整災外会誌 **16**(3), 457, 2004.(第53回東日本整形外科学会, 山形市) (1)慶大・医・整形,(2)国立病院東京医療センター・整形
15. 須佐美知郎⁽¹⁾, 穴澤卯圭, 森岡秀夫⁽¹⁾, 渡部逸央⁽¹⁾, 矢部啓夫⁽¹⁾ : 高 ALP 血症を呈した原発不明播種性骨髄癌症の 1 例, 関東整災外会誌 **35**, 306~307, 2004.(第37回日本整形外科学会骨・軟部学術集会, 東京) 脳科学研 (1)慶大・医・整形
16. 渡部逸央⁽¹⁾, 穴澤卯圭, 森岡秀夫⁽¹⁾, 矢部啓夫⁽¹⁾ : 転移性骨腫瘍における Huckstep nail の使用経験, 関東整災外会誌 **35**, 307, 2004.(第37回日本整形外科学会骨・軟部学術集会, 東京) 脳科学研 (1)慶大・医・整形

17. 森井健司⁽¹⁾, 矢部啓夫⁽¹⁾, 森岡秀夫⁽¹⁾, 穴澤卯圭, 渡部逸央⁽¹⁾, 戸山芳昭⁽¹⁾ : アレンドロネートはコレステロール代謝経路阻害を介して軟骨肉腫細胞の増殖を抑制する, 日整会誌 **78**(8), S806, 2004.(第 19 回日本整形外科学会基礎学術集会, 東京) (1)慶大・医・整形
18. 高橋正憲, 兼子 智⁽¹⁾, 浪花豊寿 : Cryopreservation of chick embryonic epiphyseal cartilage by the general use freezers at -10, -20, -40, -80d and liquid nitrogen(-196), Cryomedicine 2004, 2004.(第 31 回日本低温医学会総会 , 東京) (1)市病・産婦人科
19. 浪花豊寿, 高橋正憲, 兼子 智⁽¹⁾ : Examination of viability of immature bone that dose frozen preservation in general-purpose type freezer set at various temperatures, Cryomedicine 2004, 2004.(第 31 回日本低温医学会総会 , 東京) (1)市病・産婦人科

9.産婦人科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

講師	高松 潔	体外受精における細胞質内精子注入 (A98-0670-1)
	兼子 智	DNA 損傷ヒト精子の排除法確立 (A-03-0670-1)
助手	富永英一郎	体外受精における細胞質内精子注入 (A98-0670-1)
	中川 博之	体外受精・胚移植における排卵誘発 (A97-0670-1)
	北岡 芳久	体外受精における細胞質内精子注入 (A98-0670-1)
	岸 郁子	染色体構造異常を有しないヒト精子の選択的分離 (A-96-0670-1)
	上原 克彦	体外受精・胚移植における排卵誘発 (A97-0670-1)
	下川 理世	胚の染色体異常について (A-03-0670-1)

2. 成果の概要

1) 更年期外来受診患者における抑うつ傾向の検討

更年期外来を受診した日本人女性の抑うつ傾向の現況を検討した。更年期障害を主訴に受診した45歳から60歳までの日本人女性389名(年齢; 51.4 ± 3.8 (mean \pm SD))を対象とした。対象者が初診時に自記式にて回答した自己抑うつ評定法 (Self-rating Depression Scale; SDS) について解析し、抑うつ傾向を検討した。

全対象におけるSDS粗点は 42.4 ± 9.9 であった。中等度以上の抑うつ傾向と考えられたのは93例(23.9%)、軽度抑うつ傾向は132例(33.9%)、抑うつ傾向なしと考えられたのは164例(42.2%)であり、半数以上は抑うつ傾向ありと判定された。年齢、閉経/卵巣後期間と抑うつ傾向の相関は明らかではなかった。一方、閉経前、周閉経期、閉経後の群間の比較においては周閉経期群において抑うつ傾向ありと考えられる率が高かったが、有意差は認めなかった。各項目別の比較では、睡眠障害、将来への希望、不満足項目において自然閉経群が閉経前の群よりも有意に高値であった。また、自然閉経と両側卵巣摘出群での抑うつ状態の比較では軽度抑うつ傾向以上と考えられる率は自然閉経群が有意に高かった。

J Obstet Gynaecol Res **30**(1), 42~47, 2004.

2) 精神的要因を強く持つ更年期障害患者における心理社会的因子の検討

カウンセリングを必要とした精神的要因を強く持つ日本人更年期障害患者における心理社会的因子を解析した。更年期外来を受診し、不定愁訴の改善目的でカウンセリングを施行した日本人女性97名(年齢 61.3 ± 4.5 歳 (mean \pm SD))を対象とした。面接および心理テストにより対象者の持つ心理社会的因子を抽出・解析した。

一名につき1~6、平均 2.6 ± 1.2 の因子が抽出された。頻度の高いものから、健康問題53.6%、夫との問題50.5%、子供の問題46.8%とそれぞれ約半数に認められた。家族と親族に一つ以上問題を抱えているものは79.4%であった。就業者のうち、43.8%に同僚との関係を含めて職場での問題を持っていた。一方、空の巣と考えられたものは11.3%、喪失体験は8.2%と比較的低かった。閉経前後における比較では、閉経前群でリストラや生活苦への不安が、一方、閉経後群では老後への不安が有意に高かった。両側卵巣摘出後症例と自然閉経の比較では、前者において空の巣が、後者では老後への不安の頻度が有意に高値であった。

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
兼子 智	内分泌攪乱物質等の生活環境中の化学物質による健康影響・日本人正常男性の生殖機能に関する総合研究	聖マリアンナ医大・泌尿	川崎市	岩本 晃明
兼子 智	内分泌かく乱物質のヒト生殖機能への影響に関する総合的研究	聖マリアンナ医大・泌尿	川崎市	岩本 晃明
兼子 智	HIV陽性男性・HIV陰性女性夫婦に対する体外受精・胚移植の臨床応用に関する研究	新潟大学・医・産婦	新潟市	田中 憲一

4. 科研費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
兼子智	ヒト精子DNA傷害定量法開発とそれを指標としたDNA損傷精子排除法の確立	科学研究費・基盤(C)

5. 研究活動の特記すべき事項

学会招待講演

講演者	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
高松 潔	2004.4.13	更年期不定愁訴のみかた	第56回日本産科婦人科学会学術講演会 卒後研修プログラム	東京
高松 潔	2004.11.5	更年期障害に対する漢方療法・三大漢方婦人薬の効果とその特徴	第22回日本大学東洋医学研究会	東京

6. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
高松 潔	2004.7.3	更年期障害の治療・最新HRT治療の現状	日本家族計画協会 中高年女性健康づくり指導者セミナー	東京

高松 潔	2004.10.9	更年期障害に対する治療戦略・QOL 向上のためのロードマップ	第31回日本産婦人科医学会学 術集会・千葉大会 生涯研修 講演	千葉市
高松 潔	2004.10.24	女性医療における漢方治療の意義 とその効果	第19回日本更年期医学会学 術集会ランチョンセミナー	広島市
高松 潔	2004.12.5	更年期をいきいき過ごすために	平成16年度女性の健康支援 に関する講演会	市川市

論 文

1. 兼子 智 : 精子回収法と調製法, 産婦治療 **88**(Suppl), 259 ~ 262, 2004. 総説
2. 兼子 智, 田邊清男 : ヒト精子の評価と選別, 産婦の世界 **56**(Suppl), 99 ~ 103, 2004. 総説
3. 田邊清男, 高松 潔, 中川博之, 北岡芳久, 岸郁子, 富永英一郎, 上原克彦 : 妊娠診断薬, 周産期医 **34**(5), 577 ~ 581, 2004. 総説
4. 高松 潔, 田邊清男 : 子宮・卵巣の腫瘍, 産婦治療 **88**(6), 1287 ~ 1295, 2004. 総説
5. 兼子 智 : 先端医療と未病, 日未病システム会誌 **10**, 33 ~ 35, 2004. 総説
6. 高松 潔, 牧田和也⁽¹⁾, 田邊清男, 野澤志朗⁽¹⁾ : HRTと漢方, 臨床検査 **48**(8), 877 ~ 884, 2004. 総説 (1)慶大・医・産婦
7. 高松 潔 : 更年期不定愁訴のみかた, 日産婦会誌 **56**(9), N651 ~ N659, 2004. 総説
8. Irie, M.⁽¹⁾, Matumiya, K.⁽²⁾, Iwamoto, T.⁽³⁾, Kaneko, S., Ishijima, S.⁽⁴⁾ : Morphological abnormalities in the spermatozoa of fertile and infertile men., Mol Reprod Dev **70**, 70 ~ 81, 2004. 原著 (1)CREST(JST), (2)阪大・医・泌, (3)聖マリ医大・泌, (4)東工大・理・生命科学
9. 岸郁子, 浅田弘法⁽¹⁾, 田中雄大⁽¹⁾, 丸山哲夫⁽¹⁾, 久慈直昭⁽¹⁾, 末岡 浩⁽¹⁾, 田邊清男, 吉村泰典⁽¹⁾ : 良性卵巣腫瘍腹腔鏡下腫瘍切除術の適応と限界, 産婦の実際 **53**(11), 1625 ~ 1634, 2004. 総説 (1)慶大・医・産婦
10. 高松 潔, 田邊清男 : 更年期障害と漢方, 産婦治療 **89**(4), 408 ~ 415, 2004. 総説
11. 高松 潔, 田邊清男, 北川道弘⁽¹⁾ : 病気の心配<女の子編>, チャイルドヘルス **7**(11), 838 ~ 846, 2004. 総説 (1)国立生育医療センター・産
12. Kaneko, S. : Human sperm processing in assisted reproduction technology, Journal of Mammalian Ova Research **22**(1), 24 ~ 28, 2005. 総説

単行図書

1. 兼子 智(a): 著分担 : 生殖医療のコツと落とし穴, 吉村泰典編 (a)ART における精子調整のポイント 86 ~ 87 頁, 中山書店, 東京, 2004.
2. 兼子 智(a),(b), 岡崎雅子(a), 田邊清男(a), 小埜 清⁽¹⁾(b): 著分担 : 今日の不妊診療 鈴木秋悦編 (a)機能性不妊 62 ~ 68 頁, (b)配偶者間人工授精(AIH) 184 ~ 189 頁, 医歯薬出版, 東京, 2004. (1)茨城県
3. 兼子 智(a), 田邊清男(a): 著分担 : ART 必須ラボマニュアル 荒木康久, 佐藤和文編 (a)精子処理 2 ~ 6 頁, 医歯薬出版, 東京, 2005.

4. 久慈直昭^{(1)(a)}, 田中雄大^{(1)(a)}, 兼子 智^{(a),(b)}, 田邊清男^(b), 吉村泰典^{(1)(a)}: 著分担 : 生命の誕生に向けて 生殖補助医療(ART)胚培養の理論と実際、哺乳動物卵子学会編 (a)精子の凍結保存 107 ~ 112 頁, (b)生殖補助医療におけるヒト精子機能解析 95 ~ 100 頁, 近代出版, 東京, 2005. (1)慶大・医・産婦

学会抄録

1. 高松 潔, 牧田和也⁽¹⁾, 堀口 文⁽²⁾, 田邊清男, 野澤志朗⁽¹⁾: 更年期の精神的症状に対するホルモン補充療法と漢方療法の効果の差異に関する検討, 女性心身医学 9(1), 64, 2004.(第 33 回日本女性心身医学会学術集会, 宇都宮市) (1)慶大・医・産婦, (2)東京都
2. 岸郁子, 佐藤道夫⁽¹⁾, 下川理世, 上原克彦, 富永英一郎, 北岡芳久, 中川博之, 高松 潔, 田邊清男: 腹腔鏡下卵巣成熟奇形腫切除後, granulomatous chemical peritonitis を起こした一症例, 日産婦内視鏡会誌 20(1), 123, 2004.(第 44 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 東京) (1)市病・外科
3. 兼子 智, 岸郁子, 北岡芳久, 高松 潔, 岡崎雅子, 田邊清男, 郡山純子⁽¹⁾: Single cell pulse field electrophoresis (SCPFE) によるヒト精子核 DNA2 重鎖切断の定量的観察, 日不妊会誌 49(3), 193, 2004.(第 49 回日本不妊学会学術講演会, 旭川市) (1)栃木県
4. 宮地系典⁽¹⁾, 石川博通⁽¹⁾, 早川邦弘⁽¹⁾, 畠 亮⁽¹⁾, 岡崎雅子, 兼子 智: 妊娠に成功した男性不妊症例の治療解析, 日不妊会誌 49(3), 217, 2004.(第 49 回日本不妊学会学術講演会, 旭川市) (1)市病・泌尿科
5. 高松 潔: 更年期障害に対する治療戦略 QOL 向上のためのロードマップ, 日本産婦人科医会報, 7, 2004.(第 31 回日本産婦人科医会学術集会・千葉大会 生涯研修講演, 千葉市)
6. 兼子 智, 中川博之, 富永英一郎, 岸郁子, 北岡芳久, 高松 潔, 上原克彦, 岡崎雅子, 田邊清男: 精子マイクロ取り扱い技術 重度精液所見不良例からの運動精子回収, 第 22 回日本受精着床学会学術講演会プログラム, 171, 2004.(第 22 回日本受精着床学会学術講演会, 旭川市)
7. 高松 潔: 女性医療における漢方治療の意義とその効果, 日更年期医会誌 12(Suppl), 27, 2004.(第 19 回日本更年期医学会学術集会ランチョンセミナー, 広島市)
8. 高松 潔, 斎藤英和⁽¹⁾, 村島温子⁽¹⁾, 笠原麻里⁽¹⁾, 田邊清男: 女性総合外来と更年期外来における受診患者の比較検討, 日更年期医会誌 12(Suppl), 93, 2004.(第 19 回日本更年期医学会学術集会, 広島市) (1)国立生育医療センター
9. 高松 潔: 更年期障害に対する心身医学的アプローチ, 千葉心身医学研究会プログラム, 2004.(第 17 回千葉心身医学研究会シンポジウム「女性心身医学」, 千葉市)
10. 兼子 智, 中川博之, 上原克彦, 富永英一郎, 岸郁子, 北岡芳久, 高松 潔, 下川理世, 宮地系典⁽¹⁾, 岡崎雅子, 石見大輔⁽²⁾, 遠山裕一⁽³⁾, 石川博通⁽¹⁾, 田邊清男: ICSI の安全性向上をめざして: 精子核 DNA 断片化 特に 2 重鎖切断の定量的観察, 第 5 回千葉リプロダクション研究会 プログラム, 2004.(第 5 回千葉リプロダクション研究会, 千葉市) (1)市病・泌尿科, (2)埼玉県, (3)千葉県

11. 中川博之, 兼子 智, 上原克彦, 富永英一郎, 岸郁子, 北岡芳久, 高松 潔, 下川理世, 宮地系典⁽¹⁾, 岡崎雅子, 石見大輔⁽²⁾, 遠山裕一⁽³⁾, 石川博通⁽¹⁾, 田邊清男 : ICSI の安全性向上をめざして:精子核 DNA 断片化精子の排除法の開発, 5 回千葉リプロダクション研究会 プログラム, 2004.(第 5 回千葉リプロダクション研究会, 千葉市) (1)市病・泌尿科,(2)埼玉県,(3)千葉県
12. 富永英一郎, 兼子 智, 中川博之, 上原克彦, 岸郁子, 北岡芳久, 高松 潔, 下川理世, 宮地系典⁽¹⁾, 岡崎雅子, 石見大輔⁽²⁾, 遠山裕一⁽³⁾, 石川博通⁽¹⁾, 田邊清男 : ICSI の安全性向上をめざして:精子微少取り扱い技術による極少量の運動精子選別, 第 5 回千葉リプロダクション研究会 プログラム, 2004.(第 5 回千葉リプロダクション研究会, 千葉市) (1)市病・泌尿科,(2)埼玉県,(3)千葉県
13. Tominaga,E., Aoki,D.⁽¹⁾, Suzuki,N.⁽¹⁾, Susumu,N.⁽¹⁾, Hasegawa,Y.⁽¹⁾, Nozawa,S.⁽¹⁾ : Elucidation of the mechanism of elevated expression of fucosylated carbohydrates in endometrial carcinoma-wiht emphasis on the role of 1,2-alpha-L-fucosyltransferase, Abstracts of 7th China-Japan Joint Seminar on Histochemistry and Cytochemistry, 2004.(7th China-Japan Joint Seminar on Histochemistry and Cytochemistry, Bukan, China) (1)慶大・医・産婦
14. 富永英一郎, 下川理世, 上原克彦, 岸郁子, 北岡芳久, 中川博之, 高松 潔 : 当院における子宮内細胞診疑陽性例の検討, 婦人科臨床研究会 プログラム, 2004.(第 6 回婦人科臨床研究会, 柏市)

10. 眼 科 学 研 究 室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

助 教 授	島崎 潤	眼表面疾患の治療, 角膜移植, ドライアイ, 再生角膜
講 師	榛村 重人	眼表面疾患の治療, 角膜移植, 人工角膜
助 手	松本 幸裕	ドライアイ, 角膜移植
	高野 洋之	眼アレルギー疾患 (重症アレルギーにおける好中球の役割)
	田 聖花	ドライアイ, 角膜移植
	佐竹 良之	眼アレルギー疾患, 眼表面再建
	川島 素子	角膜移植, ドライアイ
病院助手	御宮知達也	角膜手術
	大本 雅弘	角膜手術, ドライアイ
	鈴木慎太郎	眼アレルギー疾患, ドライアイ
	富田真智子	角膜手術, ドライアイ (アカントアメーバ角膜炎と涙腺炎の合併)
	角 環	角結膜疾患, 角膜手術
	内野 裕一	角結膜疾患, 人工角膜 (角膜移植, 再生医療 角膜実質)

2. 成果の概要

1) ドライアイの病因検索とその治療法

シェーグレン症候群における涙腺, 唾液腺障害の原因を解明するために, これら腺におけるアクアポリン5 (以下AQP5) に関する研究を行った. AQP5は選択的水チャネルタンパクであり, 涙液産生 (特に刺激性分泌) に関わる細胞膜タンパク質の1つと考えられている. 刺激性分泌はその産生の始まりと終わりが厳密に制御されている. AQP5による水透過に関するオン/オフ制御機構を解明するため, AQP5C末端領域に結合するタンパク質に注目し, 解析を行った. その結果AQP5のC末端領域に結合し, 水透過を制御すると推測されるodorant-binding protein-1a (OBP-1a) 蛋白を新規に見出した. さらにOBP-1aとAQP5の結合は, OBP-1aがcAMP依存的にリン酸化されることで解離することが実験的に示された. 以上より, 涙腺におけるAQP5の水透過が結合タンパクであるOBP-1aのリン酸化修飾により制御されていることが推測された.

2) 再生角膜の基礎および臨床応

羊膜上培養上皮移植のマルチセンタースタディー

H15年度に行ったマルチセンタースタディー (多施設共同研究) における輸送条件の検討により 運搬法を確立した. これらの結果を受けて, 2004年1月より多施設共同研究をスタートさせた. これまで8眼が多施設共同研究にプロトコールに従って培養輪部上皮移植を施行した. いずれも術後の角膜上皮化が得られており, その手術成績は, 従来の培養上皮移植のそれと同じであり, 培養上皮シートが安全にかつ効果を損なうことなく輸送できることが示された.

羊膜上培養口腔粘膜上皮の移植への応用

H15年度に羊膜上培養口腔粘膜上皮シートの作成に成功したのを受けて, 16年度は培養シートの性

質の解析と並行して、臨床応用を開始した。東京歯科大眼科においては12例13眼の培養口腔粘膜上皮移植が施行され、高率で培養上皮に生着が認められた。組織学的に培養口腔粘膜上皮は角膜上皮に似た形態を持ち、ケラチン3を発現するとともに、口腔粘膜上皮様の性質も保持していた。

再生上皮に関する基礎的研究

H15年度において角結膜上皮のHLA-G mRNAの発現が羊膜上に培養すると増加していたのを受けて、角膜由来のHLA-Gの機能について検討した。角膜由来のHLA-Gをベクターを用いK562へ遺伝子導入し、NK細胞の細胞障害性への影響を検討したところ、HLA-Gの発現により細胞障害性が減少傾向をした。この減少によって、羊膜の持つ抗炎症作用への関与が強く示唆された。

上皮幹細胞の分離・培養とその応用

Hechst色素の排出能が高いside population (SP)細胞を、ウサギおよびヒト角膜より分離した。このSP細胞の多くは輪部上皮基底細胞でコロニー形成能を有する細胞が認められ、一方で実質細胞やメラノサイトも含まれていた。SP細胞をSHEM培地で培養することで角膜上皮様に分化した。また、角膜実質細胞よりsphere細胞を分離することに成功し、分化角膜上皮のマーカーであるケラチン12は発現せず、ABCG2などの未分化マーカーを発現していた。これらが未分化で神経細胞などへの多分化能を持つ角膜実質由来の細胞であることも示された。

ポリマーと羊膜との組み合わせによる移植片の応用

合成ポリマーであるPVAの上に羊膜を重合させ、その上に上皮細胞を培養したハイブリッド表層人工角膜を作成した。動物実験を行った結果、移植後に本人工角膜上に上皮の再生が見られ、組織学的にも再生上皮と人工角膜との良好な接着が観察された。

3) アレルギー性結膜炎の病因

これまで他大学と共同でアレルギー性結膜炎の分類を行うのみならず、アレルギー性結膜炎の病態について形態学的または免疫学的な検討を行ってきた。特に、重症アレルギー性結膜炎における角膜上皮障害の発生機序における好酸球の重要性が示唆されている。眼表面から採取した細胞を培養し、アレルギー炎症を提供する微小環境の役割を、細胞遊走化因子や脂質メディエーターの産生を指標にして現在検討を行っている。

3. 科研費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
石川 達也	再生角膜の作成及び移植に関する研究	文部科学省バイオベンチャー研究開発拠点整備事業
坪田 一男	羊膜を用いた再生上皮シートによる角膜再生の基礎的・臨床的研究	厚生科学研究費補助金
島崎 潤	眼表面への羊膜移植における羊膜HLA-Gの効果	科学研究費・基盤(C)

4. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演題	学会名	開催地
島崎 潤	2004.4.16	角膜再生と人工角膜の開発	第108回日本眼科学会総会	東京
島崎 潤	2004.6.18	New surgical techniques for ocular surface reconstruction using cultivated corneal and oral mucosal epithelial sheet	XIII.Afro-Asian Congress of Ophthalmology	Istanbul, Turkey
島崎 潤	2004.7.1	皮膚、眼、歯周：角膜再生と人工膜の現状	第7回日本組織工学会	東京
島崎 潤	2004.11.26	癒痕性角結膜症上皮疾患への応用 -羊膜移植の現状と未来-	第70回日本中部眼科学会	大阪市
島崎 潤	2005.2.26	ドライアイの診断のポイント	第6回川崎眼科フォーラム	川崎市
榛村 重人	2004.5.16	手術療法	第37回日本眼科講演会ミニシンポジウム	東京
榛村 重人	2004.6.18	Deep lamellar keratoplasty	XIII.Afro-Asian Congress of Ophthalmology,	Isutanbui, Turkey
榛村 重人	2004.6.26	角膜疾患	第19回日本眼内レンズ屈折手術学会シンポジウム	福岡市
榛村 重人	2004.11.15	人工角膜 scaffold の開発	日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2004	つくば市
榛村 重人	2005.1.28	結膜侵入への対処法	第29回日本眼科手術会	大阪市
榛村 重人	2005.1.29	What 's new in cataract surgery	第29回日本眼科手術会	大阪市
榛村 重人	2005.2.19	ハイブリッド型人工角膜	第29回角膜カンファレンス	徳島市
田 聖花	2004.6.18	Association between meibomian gland changes and aging, gender, or tear function.	XIII.Afro-Asian Congress of Ophthalmology	Istanbul, Turkey
御宮知達也	2004.11.11	重症輪部型アレルギー性角結膜炎に対するサイクロスポリン点眼による治療の検討	第25回日本臨床眼科学会	東京

学会招待講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
榛村 重人	2005.1.29	角膜内皮移植	第29回日本眼科手術学会	大阪市

5.教育講演等教育に関する業績，活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
島崎 潤	2004.4.7	オキュラーサーフェスの 診かた、治しかた	第169回高知大学眼科研究会 高知大学	南国市
島崎 潤	2004.4.25	眼表面疾患と角膜手術 -術前・後眼表面の観察法を中心 にして-	日本眼科医会第47回生涯教育 講座	名古屋市
島崎 潤	2004.5.8	角膜移植アップデート	第3回北海道角膜セミナー	札幌市
島崎 潤	2004.7.11	オキュラーサーフェスの 診かた・考え方	第19回三重県眼科セミナー	津市
島崎 潤	2004.8.7	オキュラーサーフェス -診療のポイント-	亀田クリニック	鴨川市
島崎 潤	2004.8.23	ドライアイ診断と治療	興和株式会社第6回眼科領域 研究会	東京
島崎 潤	2004.8.29	日常診療に役立つオキュラーサ ーフェスの知識	岡山県眼科医会第6回前眼部 疾患研究プログラム	岡山市
島崎 潤	2004.10.14	翼状片と結膜弛緩症に対する手 術の実際	東京歯科大学眼科イブニング セミナー	市川市
島崎 潤	2004.11.27	マイボーム腺機能不全とドライ アイ	第70回日本中部眼科学会 ランチョンセミナー3	大阪市
島崎 潤	2004.12.3	PTKより悪化した角膜混濁の一例	第21回COST	東京
榛村 重人	2004.6.5	重症眼表面疾患における羊膜移 植の抗炎症作用	第227回東京歯科大学学会例会	千葉市
榛村 重人	2004.6.26	眼科手術諸問題 -角膜編	第19回日本眼内レンズ屈折手 術学会シンポジウム ランチョンセミナー	福岡市
榛村 重人	2004.11.13	角膜の再構築	専門医制度第41回講習会	東京
榛村 重人	2004.12.19	角膜手術の今後	ジャムコンセミナー2004	福岡市
松本 幸裕	2004.9.12	難治性真菌性角膜潰瘍にミカフ ァギン点眼が有効であった3例	第244回千葉眼科集談会	千葉市
佐竹 良之	2005.3.13	新しい眼表面再建術： 口腔粘膜培養上皮移植	第245回千葉眼科集談会	千葉市
内野 裕一	2005.3.13	アレルギー性結膜炎と診断され たヘルペス性眼瞼結膜炎	第245回千葉眼科集談会	千葉市

論 文

1. Kato,N., Toda,I., Fukumoto,T.⁽¹⁾, Asasi,H.⁽²⁾, Tsubota,K. : Detection of neutrophils in late-onset interface inflammation associated with flap injury after laser in situ keratomileusis, *Cornea* **23**(3), 306 ~ 310, 2004. 原著
(1)東京都,(2)石川県
2. Tanaka,M., Takano,Y., Murat,D., Fukagawa,K., Kato,N., Tsubota,K., Fujishima,H. : A comparative evaluation of the efficacy of intraoperative mitomycin C use after the excision of cobblestone-like papillae in severe atopic and vernal keratoconjunctivitis, *Cornea* **23**(4), 326 ~ 329, 2004. 原著
3. Shimmura,S., Ando,M.⁽¹⁾, Ishioka,M., Shimazaki,J., Tsubota,K. : Same-size donor corneas for myopic keratoconus, *Cornea* **23**(4), 345 ~ 349, 2004. 原著 (1)東京都
4. 大本雅弘, 榛村重人, ムラトドール, 島崎 潤, 坪田一男 : 角膜移植ハイリスク症例に対するシクロスポリン全身投与の効果と安全性, *臨眼* **58**(5), 773 ~ 776, 2004. 原著 脳科学研
5. Matsumoto,Y., Murat,D., Goto,E., Ohashi,Y., Kojima,T.⁽¹⁾, Ishida,R.⁽²⁾, Tsubota,K. : Autologous serum application in the treatment of neurotrophic keratopathy, *Ophthalmology* **111**(6), 1115 ~ 1120, 2004. 原著 (1)社会保険中京病院,(2)静岡県
6. Tanaka,M., Murat,D., Takano,Y., Kashima,M., Kato,N., Fukagawa,K., Fujishima,H., Tsubota,K. : The relation of conjunctival and corneal findings in severe ocular allergies, *Cornea* **23**(5), 464 ~ 467, 2004. 原著
7. Matsumoto,Y., Murat,D., Goto,E., Endo,K.⁽¹⁾, Tsubota,K. : Increased tear evaporation in a patient with ectrodactyly-ectodermal dysplasia-clefting syndrome, *Jpn J Ophthalmol* **48**(4), 372 ~ 375, 2004. 原著 脳科学研
(1)花王(株)・構造解析研究所
8. Shimazaki,J., Shinozaki,N., Shimmura,S., Holland,E.J.⁽¹⁾, Tsubota,K. : Efficacy and safety of international donor sharing: a single-center, case-controlled study on corneal transplantation, *Transplantation* **78**(2), 216 ~ 220, 2004. 原著 (1)Cincinnati Eye Institute
9. 石岡みさき, 島崎 潤, 八木幸子, 坪田一男 : ブロッカ一点眼と防腐剤が涙液・眼表面に及ぼす影響, *臨眼* **58**(8), 1437 ~ 1440, 2004. 原著
10. Takano,Y., Fukagawa,K., Kashima,M., Tanaka,M., Kato,N., Murat,D., Tsubota,K., Fujishima,H. : Dramatic healing of an allergic corneal ulcer persistent for 6 months by amniotic membrane patching in a patient with atopic keratoconjunctivitis: a case report, *Cornea* **23**(7), 723 ~ 725, 2004. 原著
11. Onguchi,T., Takano,Y., Murat,D., Ono,M.⁽¹⁾, Tsubota,K. : Lidocaine tape (Penles) reduces the pain of botulinum toxin injection for Meige syndrome, *Am J Ophthalmol* **138**(4), 654 ~ 655, 2004. 原著 脳科学研 (1)東海大・医・眼
12. Tanaka,M., Takano,Y., Murat,D., Toda,I., Kato,N., Komai,H.⁽¹⁾, Tsubota,K. : Effect of preoperative tear function on early functional visual acuity after laser in situ keratomileusis, *J Cataract Refract Surg* **30**(11), 2311 ~ 2315, 2004. 原著 (1)東京都

13. Kashima,M., Takano,Y., Tanaka,M., Satake,Y., Kawakita,T.⁽¹⁾, Murat,D., Kato,N., Fukagawa,K., Fujishima,H. : Comparison of 0.1% bromfenac sodium and 0.1% pemirolast potassium for the treatment of allergic conjunctivitis, Jpn J Ophthalmol **48**(6), 587 ~ 590, 2004. 原著 (1)Research&Education Foundation
14. Takano,Y., Fukagawa,K., Murat,D., Kato,N., Tsubota,K., Fujishima,H. : Inflammatory cells in brush cytology samples correlate with the severity of corneal lesions in atopic keratoconjunctivitis, Br J Ophthalmol **88**(12), 1504 ~ 1505, 2004. 原著

解 説

1. 田 聖花 : 角膜上皮接着障害, あたらしい眼科 **21**(5), 617 ~ 618, 2004.
2. 榛村重人 : 角膜, バイオマテリアル **22**(3), 205 ~ 208, 2004.
3. 榛村重人 : 角膜の再生医療, 分子リウマチ **1**(2), 137 ~ 140, 2004.
4. 島崎 潤 : 輪部移植, 日本角膜移植学会誌 **5**, 13 ~ 17, 2004.
5. 藤島 浩 : -カラーアトラス-重症アレルギー性結膜炎のマネージメント, 歯科学報 **104**(3), 281 ~ 283, 2004.
6. 榛村重人 : 水疱性角膜症に対する羊膜移植, あたらしい眼科 **21**(7), 915 ~ 916, 2004.
7. 榛村重人 : (英語表題の直訳)深層角膜内皮移植, あたらしい眼科 **21**(9), 1211 ~ 1212, 2004.
8. 島崎 潤 : 角膜移植術者の立場から-白内障術者へのリクエスト-, 臨眼 **58**(11), 89, 2004.
9. 榛村重人 : -カラーアトラス-あたらしい角膜移植, 歯科学報 **104**(5), 485 ~ 487, 2004.
10. 榛村重人 : 角膜の再生医療, 小児外科 **36**(11), 1435 ~ 1438, 2004.
11. 御宮知達也 : -カラーアトラス-培養口腔粘膜移植術, 歯科学報 **104**(6), 567 ~ 569, 2004.
12. 島崎 潤 : 角膜パーツ移植, 医のあゆみ **211**(10), 989 ~ 993, 2004.
13. 川島素子 : 急増 MGD!, 医のあゆみ **211**(10), 1010 ~ 1014, 2004.
14. 島崎 潤 : チモロールゲル点眼直後の涙液干渉像の観察, あたらしい眼科 **22**(2), 217 ~ 219, 2005.

単行図書

1. 松本幸裕(a): 著分担 :眼科薬物治療ガイド (a) Sjogren 症候群 188 ~ 190 頁, 文光堂, 東京, 2004.

その他

1. 松本幸裕 : -カラーアトラス-Graft-versus-host disease (GVHD)の眼の治療, 歯科学報 **104**(2), 121 ~ 123, 2004.

学会抄録

1. Shimazaki,J., Aiba,M., Shimmura,S., Tsubota,K.⁽¹⁾ : Transplantation of cultivated limbal and conjunctival epithelium for various ocular surface disorders, The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2004, Fort Lauderdale, U.S.A.) 脳科学研 (1)慶大・医・眼
2. Fujishima,H., Tanaka,M., Fukagawa,K., Okamoto,S.⁽¹⁾, Miyazaki,D.⁽²⁾, Yamada,J.⁽³⁾, Fukushima,A.⁽⁴⁾, Uchio,E.⁽⁵⁾, Nakagawa,Y.⁽⁶⁾ : Comparison of NSAID (bromfenac sodium) and steroid (fluorometholone) eye drops in the treatment of allergic conjunctivitis, The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2004. (The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2004, Fort Lauderdale, U.S.A.) 脳科学研 (1)愛媛大・医,(2)鳥取大・医,(3)明治鍼灸大・医,(4)高知大・医,(5)横浜市大・医,(6)大阪大・医
3. Shimmura,S., Miyashita,H., Konomi,K., Taguchi,T.⁽¹⁾, Kobayashi,H.⁽¹⁾, Tanaka,J.⁽¹⁾, Shimazaki,J., Tsubota,K. : Transplantation of Descemet's membrane with endothelium by continuous curvilinear descemetorhexis (CCD), The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2004, Fort Lauderdale, U.S.A.) (1)独立行政法人,物質・材料研究機構
4. Matsumoto,Y., Murat,D., Goto,E., Fujishima,H., Tsubota,K. : The efficacy of topical application of a new antifungal micafungin in the treatment of severe fungal corneal ulcer after keratoplasty, The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Annual Meeting 2004, Fort Lauderdale, U.S.A.)
5. Murat,D., Okada,N., Tanaka,M., Kato,N., Igarashi,A., Takano,Y., Fukagawa,K., Shimmura,S., Tsubota,K., Fujishima,H. : Ocular surface alterations in atopic patients with shield ulcers, The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2004, Fort Lauderdale, U.S.A.)
6. Takano,Y., Igarashi,A., Okada,N., Tanaka,M., Murat,D., Kato,N., Fukagawa,K., Tsubota,K., Fujishima,H. : PGE2 production from conjunctival and corneal cells in allergic conditions and the measurement of PGE2 concentrations in tears of patients with severe ocular allergies, The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2004, Fort Lauderdale, U.S.A.)
7. Tanaka,M., Murat,D., Takano,Y., Kato,N., Fukagawa,K., Tsubota,K., Fujishima,H. : The evaluation of the effect of mitomycin-C aided and simple papillary resection by brush cytology in severe allergic keratoconjunctivitis, The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2004, Fort Lauderdale, U.S.A.)
8. Satake,Y., Akagawa,E., Igarashi,A., Okada,N., Takano,Y., Fukagawa,K., Tsubota,K., Fujishima,H. : Prostaglandin J2 in tears of patients with severe allergic conjunctival diseases, The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2004, Fort Lauderdale, U.S.A.)

9. Onguchi,T., Murat,D., Okada,N., Kato,N., Tanaka,M., Igarashi,A., Takano,Y., Fukagawa,K., Fujishima,H., Tsubota,K. : Comparison of tear functions and ocular surface findings between children and adults with atopic dermatitis, The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2004, Fort Lauderdale, U.S.A.)
10. Sumi,T., Murat,D., Ishioka,M., Shimmura,S., Shimazaki,J., Tsubota,K. : The comparison of visual and refractive changes following continuous suture removal in penetrating keratoplasty patients with disparate and same graft size, The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2004, Fort Lauderdale, U.S.A.)
11. Kato,N., Okada,N., Igarashi,A., Fukagawa,K., Murat,D., Satake,Y., Tanaka,M., Takano,Y., Tsubota,K., Fujishima,H. : Inflammation is a more important factor than fibrous processes in tissue remodeling in severe allergic conjunctivitis, The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2004, Fort Lauderdale, U.S.A.)
12. Goto,E., Murat,D., Kojima,T.⁽¹⁾, Suzuki,S., Ishida,R.⁽²⁾, Honda,R., Tsubota,K. : Color mapping of tear lipid layer thickness distribution from the image analysis in DR-1 tear lipid layer interference images, The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting 2004, Fort Lauderdale, U.S.A.) (1)社会保険中京病院・眼,(2)アイクリニック静岡
13. 富田真智子, 榛村重人, 坪田一男, 島崎 潤 : アカントアメーバ角膜炎と涙腺炎の合併, 第 58 回日本臨床眼科学会抄録, 116, 2004.(第 58 回日本臨床眼科学会, 東京) 脳科学研
14. 田中まり, ムラトドル, 高野洋之, 加藤直子, 深川和己, 佐竹良之, 坪田一男, 藤島 浩 : 重症アレルギー性角結膜炎に対する結膜乳頭切除術後 3 年以上の長期経過報告, 第 58 回日本臨床眼科学会抄録, 177, 2004. (第 58 回日本臨床眼科学会, 東京)
15. 御宮知達也, ムラトドル, 田中まり, 高野洋之, 加藤直子, 深川和己, 佐竹良之, 坪田一男, 藤島 浩 : 重症輪部型アレルギー性角結膜炎に対するサイクロスポリン点眼による治療の検討, 第 58 回日本臨床眼科学会抄録, 177, 2004.(第 58 回日本臨床眼科学会, 東京)
16. 榛村重人 : (臨床)特徴的な臨床所見・拒絶反応等, 第 58 回日本臨床眼科学会抄録, 261, 2004.(第 58 回日本臨床眼科学会, 東京)
17. 松本幸裕 : BUT 短縮型ドライアイの病態と治療, 第 58 回日本臨床眼科学会抄録, 262, 2004.(第 58 回日本臨床眼科学会, 東京)
18. 鈴木慎太郎, 後藤英樹⁽¹⁾, ムラトドル, 小島隆司⁽²⁾, 松本幸裕, 坪田一男⁽¹⁾ : アレルギー性結膜炎の涙液動態の治療前後による評価, 第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会プログラム・抄録集, 50, 2005.(第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会, 大阪市) 脳科学研 (1)慶大・医・眼,(2)社会保険中京病院・眼
19. 内野裕一, 榛村重人, 大本雅弘, 田聖花, 坪田一男⁽¹⁾, 島崎 潤 : 重症眼表面疾患に合併した白内障に対する microkeratome-assisted PEA, 第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会プログラム・抄録集, 56, 2005.(第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会, 大阪市) 脳科学研 (1)慶大・医・眼

20. 川島素子, 田聖花, 御宮知達也, 大本雅弘, 榛村重人, 島崎 潤 : 角膜変性症に対する深層表層角膜移植術の成績, 第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会プログラム・抄録集, 63, 2005.(第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会, 大阪市)
21. 島崎 潤, 榛村重人, 篠崎尚史, 坪田一男⁽¹⁾ : 角膜移植原因の推移について, 第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会プログラム・抄録集, 66, 2005.(第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会, 大阪市)
(1)東京都・慶大・医・眼
22. 比嘉一成, 榛村重人, 宮下英之, 島崎 潤, 坪田一男⁽¹⁾ : 角膜輪部上皮におけるメラノサイトの分布, 第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会プログラム・抄録集, 73, 2005.(第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会, 大阪市) (1)慶大・医・眼
23. 佐竹良之, 相庭昌代, ムラトドール, 比嘉一成, 榛村重人, 坪田一男⁽¹⁾, 島崎 潤 : 口腔粘膜培養上皮移植後のバリアー機能の評価, 第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会プログラム・抄録集, 73, 2005.(第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会, 大阪市) (1)慶大・医・眼
24. 宮下英之, 榛村重人, 松崎有未⁽¹⁾, 比嘉一成, 岡野栄之⁽¹⁾, 坪田一男⁽²⁾ : 人角膜輪部 sid population 細胞の characterization, 第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会プログラム・抄録集, 73, 2005.(第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会, 大阪市) (1)慶大・医・生理学,(2)慶大・医・眼
25. 伊藤志奈, ムラトドール, 島崎 潤 : 上皮内癌におけるオキュラーサーフェスの治療, 第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会プログラム・抄録集, 89, 2005.(第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会, 大阪市)
26. 富田真智子, 榛村重人, 佐竹良之, 坪田一男, 島崎 潤 : アトピー性皮膚炎合併患者における角膜移植, 第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会プログラム・抄録集, 93, 2005.(第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会, 大阪市)
27. 大本雅弘, 榛村重人, 坪田一男, 島崎 潤 : 角膜内皮移植術(Endothelial Lamellar Keratoplasty)の成績, 第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会プログラム・抄録集, 96, 2005.(第 29 回角膜カンファレンス 第 21 回日本角膜移植学会, 大阪市) 脳科学研
28. 榛村重人, 宮下英之, 比嘉一成, 島崎 潤, 坪田一男⁽¹⁾ : 角膜輪部線維芽細胞による液性因子の分泌, 日眼会誌 109(臨増), 130, 2005.(第 109 回日本眼科学会, 東京) (1)慶大・医・眼

11.耳鼻咽喉科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

助 教 授	中島 庸也	慢性副鼻腔炎の病態と治療について (A98-0690-1)
助 手	葉山 貴司	慢性副鼻腔炎の病態と治療について (A98-0690-1) 睡眠時無呼吸症候群の病態と治療について (A99-0690-1)
	大櫛 哲史	慢性副鼻腔炎の病態と治療について (A98-0690-1) 睡眠時無呼吸症候群の病態と治療について (A99-0690-1)

2. 成果の概要

1) 慢性副鼻腔炎の病態と治療について (A98-0690-1)

真菌による慢性副鼻腔炎(副鼻腔真菌症)が近年増加傾向にある。副鼻腔真菌症はその感染型や進展速度により1)急性浸潤型副鼻腔真菌症,2)亜急性浸潤型副鼻腔真菌症,3)慢性副鼻腔真菌症,4)アレルギー性副鼻腔真菌症(Allergic Fungal Sinusitis,以下AFSと略す)に分類できる。このうちAFSは1983年にKatzensteinらにより新しいタイプの真菌症として報告されて以来,欧米を中心に近年注目を浴びている。AFSは従来の感染型の副鼻腔炎とは異なり,真菌に対する型アレルギーを病態とするといわれている。一般的に難治性の慢性副鼻腔炎であり,手術後も再発例は多く,ステロイド依存性に鼻ポリープは縮小する傾向にある。Codyらによれば,手術に至った慢性副鼻腔炎患者の内,6~7%がAFSであったとの報告もある。欧米でのAFSの有病率は,手術に至った慢性副鼻腔炎症例の4~7%程度であると報告されているが,現在までのところ日本においては我々の報告した症例も含め7例報告されているのみであり,現時点では非常にまれな疾患であると言える。我々が以前prospective studyにて検討した結果,手術に至った慢性副鼻腔炎症例102例中AFSと考えられた症例は4例(3.9%)であった。その検討の結果と典型的な症例を提示し,AFSという病態を紹介した。

2) 睡眠時無呼吸症候群の病態と治療について (A99-0690-1)

睡眠時無呼吸症候群に対し,終夜ポリソムノグラフィーを施行し,その病態(中枢性,閉塞性,混合性)とその重症度別に分別した。これらに対しOral Appliance(OA),手術療法,nasal CPAP治療を施行し,効果判定を行った。AHIが30以下の症例においてはOA単独での治療が可能であるが,閉塞部位診断が重要であり,適応を間違えると増悪することがある。当院で行っている治療法をOAの適応も含め報告した。

3) 聴覚に対するMEGおよびEEG応答 (A00-0690-1)

聴覚刺激に対する聴皮質の機能評価のためにmagnetoencephalography(MEG)による検討を行った。サル的一次聴覚野には純音刺激に対する音階局在性が確認されている。ヒトの聴覚野における純音の周波数処理については,音刺激の提示条件やその検査法によって統一的な結果が得られず,サルの単一神経活動記録で確認される結果とヒトの脳機能画像所見の間には依然大きな隔たりが存在する。この研究の目的はMEGを用い,ヒト一次聴覚野における音階局在性を観察した。P50,N100の等価電流双極子は横側頭回に局在し,刺激耳と反側側の大脳半球の反応が大きく,潜時も短かった。双極子源の位置として,P50はN100よりわずかに前上方の横側頭回に求められ,各潜時の音階局在性はそれぞれが渦状を呈し,P50とN100とではその空間的配列は

逆転された形で観測された．サルの単一神経活動記録で確認される結果に近似していると考えられた．

論 文

1. 春名眞一⁽¹⁾, 大櫛哲史, 森山 寛⁽¹⁾ : 慢性副鼻腔炎再手術例における解剖学的指標の変化について, 日鼻科会誌 **43**(1), 26 ~ 30, 2004. 原著 (1)慈恵医大・耳鼻科
2. 浅香大也, 葉山貴司, 中島庸也, 千葉伸太郎⁽¹⁾ : 睡眠時無呼吸症候群に対する UPPP の効果, 耳鼻展望 **47**(3), 153 ~ 157, 2004. 原著 脳科学研 (1)太田総合病院・耳鼻科
3. 浅香大也⁽¹⁾, 中島庸也, 森山 寛⁽¹⁾ : Allergic fungal sinusitis の 2 症例, 日鼻科会誌 **43**(2), 188 ~ 193, 2004. 症例 脳科学研 (1)慈恵医大・耳鼻科
4. Nakajima,T., Nagatomo,M., Okushi,T., Hayama,T., Chiba,S.⁽¹⁾ : Approach to obstructive sleep apnea syndrome at Tokyo Dental College, Ichikawa General Hospital, Bull Tokyo Dent Coll **45**(3), 181 ~ 187, 2004. 原著 脳科学研 (1)太田総合病院・耳鼻科
5. Matsuwaki,Y., Nakajima,T., Okushi,T., Iimura,J.⁽¹⁾, Kunou,K., Nakagawa,M.⁽²⁾, Shintani,M.⁽³⁾, Moriyama,H.⁽¹⁾, Ishikawa,T.⁽⁴⁾ : Evaluation of missing fundamental phenomenon in the human auditory cortex, Auris Nasus Larynx **13**(3), 208 ~ 211, 2004. 原著 HRC3B02 脳科学研 (1)慈恵医大・耳鼻科,(2)順天堂大・医・耳鼻科,(3)脳科学研究施設,(4)保存 III
6. 中島庸也, 葉山貴司, 浅香大也⁽¹⁾, 杉田記代子⁽²⁾ : 耳性髄液漏を疑わせた乳児反復性髄膜炎の 1 症例 乳児 IgG3 欠損症の 1 症例, 日耳鼻感染症研会誌 **22**(1), 124 ~ 129, 2004. 症例 脳科学研 (1)慈恵医大・耳鼻科,(2)市病・小児科
7. 佐野眞一⁽¹⁾, 千葉伸太郎⁽²⁾, 大櫛哲史 : 耳鼻咽喉科診療所における簡易睡眠検査の精度と使用に関する検討, 慈大呼吸疾研会誌 **16**(3), 37 ~ 42, 2004. 原著 (1)協愛医院,(2)太田総合病院・耳鼻科
8. 佐野典子⁽¹⁾, 千葉伸太郎⁽²⁾, 大櫛哲史 : OSAS 患者における CPAP コンプライアンス CPAP 使用履歴からの検討, 慈大呼吸疾研会誌 **16**(3), 43 ~ 48, 2004. 原著 (1)協愛医院,(2)太田総合病院・耳鼻科
9. 遠藤 誠⁽¹⁾, 千葉伸太郎⁽¹⁾, 大櫛哲史, 中島庸也, 森山 寛⁽²⁾ : 終夜睡眠ポリグラフ検査と簡易検査の比較検討, 耳鼻展望 **47**(6), 424 ~ 431, 2004. 症例 (1)太田総合病院・耳鼻科,(2)慈恵医大・耳鼻科
10. 葉山貴司, 長友真理子, 大櫛哲史, 中島庸也, 浅香大也⁽¹⁾, 千葉伸太郎⁽²⁾, 太田史一⁽¹⁾, 遠藤 誠⁽²⁾ : 多点咽頭・食道内圧測定により診断した睡眠呼吸障害を伴った多系統萎縮症の一例, 歯科学報 **104**(6), 578 ~ 582, 2004. 症例 (1)慈恵医大・耳鼻科,(2)太田総合病院・耳鼻科
11. 葉山貴司, 長友真理子, 大櫛哲史, 中島庸也, 浅香大也⁽¹⁾, 千葉伸太郎⁽²⁾ : 多点咽頭・食道内圧測定により診断した睡眠呼吸障害を伴った多系統萎縮症の一例, 歯科学報 **104**(6), 578 ~ 582, 2004. 症例 (1)慈恵医大・耳鼻科,(2)太田総合病院・耳鼻科
12. 大櫛哲史, 葉山貴司, 長友真理子, 中島庸也, 浅香大也⁽¹⁾, 千葉伸太郎⁽²⁾ : 高度肥満を合併した小児睡眠時無呼吸症例に対し nasal-CPAP を用いて改善し得た症例, 歯科学報 **104**(6), 583 ~ 591, 2004. 症例 (1)慈恵医大・耳鼻科,(2)太田総合病院・耳鼻科

13. 太田史一⁽¹⁾, 遠藤 誠⁽²⁾, 千葉伸太郎⁽²⁾, 大櫛哲史, 中島庸也, 森山 寛⁽¹⁾: 披裂軟骨切除術を要した両側声帯外転障害を有する睡眠時無呼吸症の 1 例, 耳鼻展望 48(1), 33 ~ 40, 2005. 症例 (1)慈恵医大・耳鼻科,(2)太田総合病院・耳鼻科

解 説

1. 中島庸也 : 急性中耳炎と中耳ドレナージ, 医事新報(4179), 19 ~ 26, 2004.
2. 葉山貴司, 中島庸也 : , デンタルダイヤモンド 29(10), 154 ~ 157, 2004.
3. 長友真理子, 中島庸也 : 症状からみた感染症の診断と治療 顎下部痛・腫脹(解説/特集) , JOHNS 21(2), 225 ~ 228, 2005.

プロシーディングス

1. Okushi,T., Matsuwaki,Y., Nakajima,T., Iimura,J.⁽¹⁾, Nakagawa,M.⁽²⁾, Shintani,M.⁽³⁾, Moriyama,H.⁽¹⁾, Ishikawa,T.⁽⁴⁾ : Evaluation of missing fundamental phenomenon with auditory selective attention in the human auditory cortex, Int Congr Ser 1270, 370 ~ 373, 2004.(15th World Congress of the International Society for Brain Electromagnetic Topography, Urayasu) HRC3B02 脳科学研 (1)慈恵医大・耳鼻科,(2)順天大・医・耳鼻科,(3)脳科学研究施設,(4)保存 III

12.皮膚科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 教授 高橋 慎一 金属アレルギーの in-vitro test の開発 リンパ球幼若化試験 (A96-0710-2)
- 助手 川島 淳子 非水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症表皮における transglutaminase 活性と cornified envelope の形成 (A00-0710-2)
- 正常ヒト表皮における *in situ* Transglutaminase 活性分析法の検討
- イオンスチーマーによるアンチエイジング効果の客観的評価、判定

2. 成果の概要

1) 金属アレルギーの in-vitro test の開発 リンパ球幼若化試験 (A96-0710-2)

昨年までの金属アレルギー患者と正常人ボランティアにおけるニッケル,パラジウム,金,コバルトの市販のパッチテスト試薬を用いたリンパ球幼若化試験(LTT)とパッチテストの比較検討により,これらのLTTは感度と特異度が比較的高いことを報告してきた.そこで,これまで各金属で5段階希釈でLTTを施行していたが,患者からの採取血液の節約の観点から,金属アレルギーの頻度の高いニッケル,パラジウム,金,コバルトと水銀の5種の金属のLTTを至適濃度の2段階のみを設定することにより,一度に検査するスクリーニングを確立した.水銀においては未だ診断上問題があるが,他の金属においてはパッチテストと併用することでこのスクリーニングが補助的検査法として有用であることが明かとなった.さらに,亜鉛によるアレルギー性口内炎の症例を経験したことをきっかけに,亜鉛のLTTを健常者6名とこのアレルギー患者で比較した所,患者で極めて高値であった.パッチテストにおいて亜鉛が偽陽性を呈しやすいことが知られており,補助的診断法として有用である可能性が示唆された.

日歯医師会誌 57(4), 433, 2004.

日口腔粘膜会誌 10(2), 79, 2004.

2) 非水疱型魚鱗癬様紅皮症表皮における transglutaminase 活性と cornified cell envelope の形成 (A00-710-2)

常染色体劣性魚鱗癬は葉状魚鱗癬と非水疱型魚鱗癬様紅皮症(NBCIE)に大別される.葉状魚鱗癬は全例ではないがTransglutaminase(TGase)1の活性の異常と遺伝子変異が原因として報告されているが,NBCIEではその原因は不明である.5例のNBCIEについて,病変部表皮内のTGase1の発現とin situ TGase活性を調べた.全例でTGase1の発現とin situ TGase活性は正常.さらにloricrin, involucrinの分布を検討した.1例でloricrinの染色性の低下が見られた以外,loricrin, involucrinの分布にも明らかな異常は見出せなかった.今回の結果からは,TGase1の異常は,病因として否定された.

Clin Exp Dermatol 30, 429~431, 2005.

3) Transglutaminase に 1, 2, 3 の subtype があり, in situ TGase 活性はこの全てを反映するため, PH を調整し Calpain 処理することにより TGase 1, TGase 1 と 3 の酵素活性をわけて, 表皮内の局在を検討. TGase 1 の活性を反映するのは pH 7.4, Calpain 処理 1 時間の条件であった. より迅速な疾患の同定に応用可能.

4) イオンスチーマーによるアンチエイジング効果の客観的評価, 判定

人肌に最適な湿度は50～70%とされる。冬に進行する肌の老化に対し, 入浴, スチーマなどでの加湿が有効であることは, 経験的には明らかであったが, まだ実証されていなかった。動物実験ではイオンスチーマでの加湿により, コラーゲン産生能, 角質水分量の上昇が確認されているが, 人での客観的な効果判定は今のところなされていない。健常人女性12人のハーフフェイステストにより, 角質水分量, 表皮脂質量, 皮膚弾性, 顔皮膚画像解析, 表皮形態の観察などの指標によりその客観的評価, 判定を行い, アンチエイジングに有効であることを立証する。現在, 実験進行中。

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
川島 淳子 高橋 慎一	非水泡型先天性魚鱗癬様紅皮症表皮における transglutaminase 活性と cornified cell envelope の形成	帝京大学医学部附属 市原病院	市原市	松尾 隼朗

4. 科研費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
高橋 慎一	歯科用金属パッチテストの紅斑指数と角質水分量による客観的評価	科学研究費・基盤(C)

論 文

1. 高橋慎一, 森本光明⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾ : 歯性病巣感染と皮膚疾患, 東京歯医師会誌 **52**(4), 213 ~ 220, 2004. 総説 A-96-07101 (1)市病・オーラルメディシン
2. Kawakita,T.⁽¹⁾, Takano,Y.⁽¹⁾, Kato,N.⁽¹⁾, Tanaka,M.⁽¹⁾, Goto,E.⁽¹⁾, Tsubota,K.⁽¹⁾, Takahashi,S., Fukagawa,K.⁽¹⁾, Fujishima,H.⁽¹⁾ : Quantitative evaluation of eyelid elasticity using the cutometer SEM575 and its clinical application in assessing the efficacy of tacrolimus ointment treatment in eyelid atopic dermatitis, Cornea **23**(5), 468 ~ 471, 2004. 原著 (1)市病・眼科
3. 藤本篤嗣⁽¹⁾, 安西秀美⁽¹⁾, 石河 晃⁽¹⁾, 谷川瑛子⁽¹⁾, 西川武二⁽¹⁾, 川島淳子, 木花 光⁽²⁾ : 皮膚骨腫の1例 長期経過観察により偽性偽性副甲状腺機能低下症(Albright 骨異栄養症)と診断し得た 1 例, 臨皮 **58**(8), 611 ~ 614, 2004. 症例 (1)慶大・医・皮膚科,(2)済生会横浜市南部病院・皮膚科
4. Kishikawa,H.⁽¹⁾, Nishida,J.⁽¹⁾, Hirano,E.⁽¹⁾, Nakano,M.⁽¹⁾, Arakawa,K.⁽²⁾, Morishita,T.⁽²⁾, Kawashima,J., Koide,O.⁽³⁾, Tanaka,Y.⁽³⁾, Ishii,H.⁽⁴⁾ : Chronic ischemic proctitis:case report and review, Gastrointest Endosc **60**(2), 304 ~ 308, 2004. 原著 (1)市病・消化器科,(2)市病・内科,(3)市病・臨検,(4)慶大・医・皮膚科
5. 高橋慎一, 川島淳子 : 壊疽性膿皮症, 皮膚診療 **27**(1), 39 ~ 42, 2005. 症例

学会抄録

1. 川島淳子, 高橋慎一 : 再発性多発性軟骨炎の1例, 日臨皮医会誌 **80**, 131, 2004.(第20回日本臨床皮膚科医学会・臨床学術大会, 東京)
2. 森本光明⁽¹⁾, 浮地賢一郎⁽¹⁾, 岡村泰斗⁽¹⁾, 高田篤史⁽¹⁾, 岡崎雄一郎⁽¹⁾, 渡邊 裕⁽¹⁾, 蔵本千夏⁽¹⁾, 森崎重規⁽¹⁾, 木津康博⁽¹⁾, 小澤靖弘⁽¹⁾, 福島大平⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 高橋慎一 : 血液検査による歯科金属アレルギーの診断 リンパ球幼若化試験, 日歯医師会誌 **57**(4), 433, 2004.(第20回日本歯科医師会学会総会, 横浜市) A-96-0710-2 (1)市病・オーラルメディシン
3. 高橋慎一 : 皮膚科における扁平苔癬の診断と治療, 日口粘膜会誌 **10**(2), 58, 2004.(第14回日本口腔粘膜学会総会・学術大会, 東京) A99-0710-1
4. 河合毅師⁽¹⁾, 浮地賢一郎⁽¹⁾, 岡村泰斗⁽¹⁾, 森崎重規⁽¹⁾, 渡邊 裕⁽¹⁾, 岡崎雄一郎⁽¹⁾, 森本光明⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 高橋慎一, 福島大平⁽¹⁾ : 亜鉛によるアレルギー性口内炎の診断におけるリンパ球幼若化試験の有用性について, 日口粘膜会誌 **10**(2), 79, 2004.(第14回日本口腔粘膜学会総会・学術大会, 東京) A96-0710-2 (1)市病・オーラルメディシン
5. 高橋慎一, 川島淳子, 森本光明⁽¹⁾, 岡村泰斗⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 松尾聿朗⁽²⁾ : pyostomatitis vegetans の1例, 日皮会誌 **115**(1), 49, 2005.(第67回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京) (1)市病・オーラルメディシン,(2)帝京大・市原・皮膚科

6. 佐々木栄利子⁽¹⁾, 多田明美⁽¹⁾, 吉田夕佳⁽¹⁾, 堀江絵美⁽¹⁾, 鈴木福代⁽¹⁾, 高橋慎一, 安達富美子⁽¹⁾: アルツハイマ - 患者に生じた難治性褥瘡の治療・ケア, 褥瘡会誌 7(2), 275, 2005.(第 2 回日本褥瘡学会関東甲信越地方会, 前橋市) (1)市病・看護部

13. 泌尿器学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 教授 畠 亮 ラット腎同種移植における免疫寛容導入とアポトーシスの関与 (A94-0730-1)
- 助教授 石川 博通 男性不妊における凍結保存精液の応用 (A94-0730-2)
- 講師 早川 邦弘 内シャント困難症例に対する内視鏡外科を応用した低侵襲手術の確立 (A94-0730-4)
- 助手 宮地 系典 精子中のCPK活性とCPKアイソザイム (A99-0730-1)

2. 成果の概要

1) ラット腎同種移植における免疫寛容導入とアポトーシスの関与 (A94-0730-1)

マイクロサージャリー下に WKAH ラットからルイスラットへ同時腎移植を行い、FK506により生着の延長が見られたことは既に報告した。ドナー特異的クローンの増殖のために、ドナーの全血液を移植前にレシピエントに輸注し、いわゆる DST を行うことで FK506 の使用量を減らすことができるかを検討したところ、移植7日前に DST を行うことで生着率の増加をみた。DST 施行群ではアポトーシスは緩徐ながら持続し、間質への細胞浸潤も増強せず軽度にとどまる傾向を示した。

2) 男性不妊における凍結保存精液の応用 (A94-0730-2)

配偶者間人工授精の目的で精子凍結保存を行った29例を分析してその有用性を検討した。その結果、不妊症例では凍結不適例が多く、また融解後の精液所見が良好であった症例においても IVF, IUI を数周期行った症例では妊娠が成立しなかったことから、凍結精子を用いる授精の実施方法などに関しても十分考慮する必要があると考えられた。また癌化学療法例における精子凍結保存は児を得るための唯一の方法であり極めて有用性は高いが、実施にあたって原疾患の主治医及び患者と関係を緊密にすることが重要と考えられた。

3) 内シャント困難症例に対する内視鏡外科を応用した低侵襲手術の確立 (A94-0730-4)

前腕での内シャント作成が困難な患者において、上腕での自家静脈を用いた穿刺領域の静脈表在化を伴う内シャント作成は有用な方法である。しかし従来は表在化に伴う長距離の皮膚の縦切開を必要とし、疼痛、創の引き連れ、軽度の上腕可動制限や美容的な問題などが存在していた。本研究は内視鏡手術の手法を応用し、侵襲性、美容上の点からすぐれた方法を開発した。本法は内視鏡下に血管を剥離するため創部の浮腫も軽度であり、術後早期から内シャントの使用を可能にして入院期間短縮にも寄与している。

4) ラットのカドミウムによる腎障害におけるアポトーシスの関与 (A97-0730-1)

昨年まで我々はラットにカドミウムの連日皮下投与を行い、亜急性毒性による腎機能障害とアポトーシスの発現状況について組織学的、分子生物学的手法を用いて解析してきた。前回の実験結果から腎機能障害は腎組織内に一定以上(ほぼ150 µg/gwet tissue)のカドミウムの蓄積が起こってから出現し、障害の形態は巣状に尿管の壊死性変性が起こることが主体であること、また TUNEL 法で障害が起こる初期に多くアポトーシスが確認され、障害発生とアポトーシスの関連が示された。今回カドミウム投与3週目と

腎内カドミウム濃度が障害閾値であり、アポトーシスが多く見られた150 µg/gwet tissue を超える5週目で投与を中止し、その後の組織所見、腎及び尿中カドミウム量の変化等を検討した結果、投与中止後も腎内カドミウム濃度が上昇したこと、尿中カドミウム排せは組織障害が明らかな間によく見られたこと、投与中止後の6週目まで腎内カドミウム濃度の上昇が見られたが、組織学的な障害は5週目のほうが明らかであったことなどが示された。カドミウムは肝にも蓄積され、3週投与の1群では肝、腎ともに蓄積可能な許容量にあつて血中濃度も低く、腎障害も起きてこないが、第2群においては、4週を過ぎる頃から許容量を超えることで腎組織の障害が出現し始め、尿中への排出が行われると肝などに蓄積されたカドミウムも血液を介して腎に運ばれ、投与終了後の6週目も腎組織濃度が上昇したと思われる。6週目は腎組織カドミウム濃度が上昇しているにも関わらず組織障害所見が5週目よりも少ないのは、障害が単純に濃度依存性に出現しているのではない可能性を示している。

論 文

1. 石川博通：男性不妊と漢方，伝統医 7(2)，54～53，2004. 症例
2. 大橋正和，石川博通：顕微鏡下リンパ管温存内精静脈高位結紮術，日生殖外会誌(17)，30～33，2004. 臨床
3. 石川博通：ARTにおける泌尿器科手術，臨泌 59(1)，19～25，2005. 臨床

14.放射線科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- | | | |
|----|-------|--|
| 教授 | 青柳 裕 | 高線量率小線源治療の臨床研究 (A99-0700-1)
Microwave 組織内加温の基礎的研究および臨床応用 (A00-0700-1) |
| 講師 | 豊田 圭子 | 頭頸部領域における MRI の撮像法の最適化 (A03-0700-1)
中枢神経系疾患における高 b 値拡散強調画像の有用性 (A03-0700-2) |
| 助手 | 清水 桜 | 頭頸部領域における MRI の撮像法の最適化 (A03-0700-1) |

2. 成果の概要

1) 高線量率小線源治療の臨床研究 (A99-0700-1)

現在まで、頭頸部腫瘍 23 例、食道癌 11 例、婦人科腫瘍 31 例、乳癌 1 例、転移性腫瘍 1 例、のべ 206 回の治療を行った。低線量率との線量率の違いによる生物学的効果を考慮して、至適 1 回線量、分割方法、至適総線量、外部照射との線量配分、線量評価点を検討する。

2) Microwave 組織内加温の基礎的研究および臨床応用 (A00-0700-1)

千葉大学工学部において Microwave 組織内加温装置の SAR、温度分布、加温アンテナの至適刺入間隔、必要な出力等についてコンピューターによる simulation とファントムを用いた測温による共同実験を行っている。この基礎実験により、組織内加温システムがある程度形づくられた。昨年度は 3 例の臨床例を経験した。1 例は他部位の再発のため死亡したが、他の 2 例は無病生存と良好な結果を得ている。今後、症例を蓄積しつつ最終的システムを構築する予定である。

3) 頭頸部領域における MRI の撮像法の最適化 (A03-0700-1)

頭頸部は小さな領域内に微細な組織及び血流をもち複雑な構造を呈するので、画像診断においては高い空間分解能が要求される。この領域における画像診断は MRI と CT が主たるものであるが、それぞれの方法で頭頸部に特有なアーチファクトを生じやすく、良好な画像をえるには難しい領域である。濃度分解能は MRI の方が優れているが、腫瘍性病変においては良悪の鑑別が MRI でも困難である例がある。この研究の目的は当科に設置されている MRI にて、空間分解能向上の検討、脂肪抑制法の検討、腫瘍性病変における良悪の鑑別を検討し、臨床的撮像法の工夫をすることである。現在は拡散強調画像などを用い良悪の鑑別を検討予定である。

臨放 49(12), 1679 ~ 1686, 2004.

4) 中枢神経系における高 b 値拡散強調画像の有用性 (A03-0700-2)

中枢神経系領域の MRI においては、拡散強調傾斜磁場 (b 値) $b=1000s/mm^2$ 程度が印加され拡散強調画像が撮像されている。しかし、より拡散を強調させ他因子の影響を除くためには、さらに高い b 値が必要となる。急性期脳梗塞の際に高 b 値拡散強調画像が有用ではあると報告はあるが、臨床装置における詳細な検討での報告は少ない。この研究の目的は中枢神経系疾患における高 b 値拡散強調画像の有用性につき検討することである。

昨年度から急性期脳梗塞を対象に臨床応用した，各症例にb値を可変（ $b=0, 500, 1000, 2000, 3000$ ）させ各拡散強調画像を作成した．得られた拡散強調画像から，各領域（病変部および正常部）のADC（みかけの拡散係数）値を測定し，高b値拡散強調画像と比較，検討した．結果は平成17年2月の神経放射線学会にて発表し，現在論文作成中である．

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
青柳 裕	Microwave 組織内加温の研究	千葉大学工学部	千葉市	伊藤 公一
豊田 圭子 清水 桜	中枢神経における高 b 値拡散強調画像の有用性	慈恵医大放射線科	東京	福田 国彦

論 文

1. Saito,K.⁽¹⁾, Yoshimura,H.⁽²⁾, Itou,K.⁽¹⁾, Aoyagi,Y., Horita,H. : Clinical Trials of Interstitial Microwave Hyperthermia by Use of Coaxial-Slot Antenna With Two Slots, IEEE Transactions on Microwave Theory and Technique **52**(8), 1987 ~ 1991, 2004. 原著 A00-0700-1 (1)千葉大・フロンティアメディカル工学研究開発センター,(2)千葉大・工
2. 豊田圭子, 田中章文, 山田敏之, 清水 桜, 青柳 裕 : Balanced-FFE 用いた喉頭シネ MRI の試み, 臨放 **49**(12), 1679 ~ 1686, 2004. 原著 A03-0700-1

解 説

1. 豊田圭子 : 頭頸部画像診断に必要な不可欠な臨床・画像解剖(1) 鼻腔・副鼻腔の正常解剖, 画像診断 **24** (11), 1311 ~ 1322, 2004. A03-0700-1
2. 豊田圭子, 青柳 裕, 兼平千裕⁽¹⁾ : 頭頸部領域における MD CT の有用性, 頭頸部癌学会誌 **30**(3), 496 ~ 502, 2005. (1)慈恵医大・放

単行図書

1. 豊田圭子(a): 著分担 :眼窩・耳鼻咽喉・口腔領域の MRI (a)4-頭蓋底・上咽頭 102 ~ 125 頁, メジカルビュー社, 東京, 2004.
2. 豊田圭子((a),(b),(c)): 著分担 :新版 よくわかる脳 MRI (a)全身性エリテマトーデス 402 ~ 403 頁,(b)神経ベーチェット病 404 ~ 405 頁,(c)トルエン中毒 406 ~ 407 頁, 秀潤社, 東京, 2004.
3. 兼平千裕⁽¹⁾編集, 青柳 裕執筆協力: 著分担 :よくわかる癌放射線治療の基本と実際 , 真興交易(株)医書出版部, 東京, 2005. (1)慈恵医大・放

プロシーディングス

1. Itou,K.⁽¹⁾, Saito,K.⁽¹⁾, Yoshimura,H.⁽²⁾, Aoyagi,Y., Horita,H. : Coaxial-Slot Antenna for Interstitial Microwave Thermal Therapy and Application to Clinical Trial, Proceedings of the 26th Annual International Conference of the IEEE EMBS, 2526 ~ 2529, 2004.(26th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society 2004, San Francisco, USA) A00-0700-1 (1)千葉大・フロンティアメディカル工学研究開発センター,(2)千葉大・工
2. Yoshimura,H.⁽¹⁾, Miyata,K.⁽²⁾, Itou,K.⁽³⁾, Aoyagi,Y., Horita,H. : Coaxial-Slot Antennas for Interstitial Microwave Hyperthermia: Heating Performance and Clinical Trials , Proceedings of Indonesia-Japan Joint Scientific Symposium 2004, 199 ~ 202, 2004.(Indonesia-Japan Joint Scientific Symposium 2004, Chiba) A00-0700-1 (1)千葉大・工,(2)千葉大・工・大学院,(3)千葉大・フロンティアメディカル工学研究開発センター
3. Toyoda,K., Simizu,S., Aoyagi,Y. : Assessment of coronal reconstruction on multislice computed tomography for lesion extent in the head and neck, AJNR, 412, 2005.(American Society of Neuroradiology, Toronto, Canada)

学会抄録

1. 宮本亘⁽¹⁾, 斉藤一幸⁽²⁾, 吉村博幸⁽³⁾, 伊藤公一⁽²⁾, 青柳 裕, 堀田洋稔 : 同軸スロットアンテナを用いたがんの温熱療法施行時における患部の血流量および温度分布の解析, 信学技報 103(706), 1~6, 2004.(電子情報通信学会 2004 年 3 月例会, 東京) A00-0700-1 平成 15 年度分 (1)千葉大・大学院, 自然科学研究科,(2)千葉大・フロンティアメディカル工学研究開発センター,(3)千葉大・工
2. Saito,K.⁽¹⁾, Itou,K.⁽¹⁾, Aoyagi,Y., Horita,H. : Heatig performance for array applicator for interstitial microwave hyperthrmia: numerical simulation and clinical trial, 2004 URSI International Symposium on Electrpmagnetic Theory, 2004.(2004 URSI International Symposium on Electrpmagnetic Theory, Pisa, Italy) A00-0700-1 脳科学研 (1)千葉大・フロンティアメディカル工学研究開発センター
3. Saito,K.⁽¹⁾, Miyata,K.⁽²⁾, Yoshimura,H.⁽³⁾, Itou,K.⁽¹⁾, Aoyagi,Y., Horita,H. : Treatment System of Interstitial Microwave Hyperthermia: Clinical trials for Neck Tumor and Improvement of Antenna Elements, URSI 2004 Digest, 105, 2004.(2004 USNC/URSI National Radio Science Meeting, Monterey, USA) A00-0700-1 (1)千葉大・フロンティアメディカル工学研究開発センター,(2)千葉大・工・大学院,(3)千葉大・工
4. 斉藤一幸⁽¹⁾, 宮田圭子⁽²⁾, 伊藤公一⁽¹⁾, 青柳 裕, 堀田洋稔 : 同軸スロットアンテナを用いた頸部腫瘍の温熱治療, 2004 年電気学会 基礎・材料・共通部門大会講演論文集, 413, 2004.(2004 年電気学会 基礎・材料・共通部門大会, 仙台市) A00-0700-1 (1)千葉大・フロンティアメディカル工学研究開発センター,(2)千葉大・工・大学院
5. 豊田圭子 : 教育講演 副鼻腔の画像診断, 日本医放会誌 64(6), S400 ~ S401, 2004.(第 40 回日本医学放射線学会 秋季大会, 東京)
6. 豊田圭子, 清水 桜, 北井里実⁽¹⁾, 福田国彦⁽¹⁾ : 急性期脳梗塞における高 b 値拡散強調画像, 第 34 回日本神経放射線学会抄録集, 111, 2005.(第 34 回日本神経放射線学会, 名古屋市) A03-0700-2 (1)慈恵医大・放
7. 菊地悟⁽¹⁾, 宮田圭子⁽²⁾, 斉藤一幸⁽³⁾, 伊藤公一⁽³⁾, 青柳 裕, 堀田洋稔 : 一本の同軸スロットアンテナによって十分な加温が可能であった頸部腫瘍組織内加温の一例, Japanese Journal of Hyperthermic Oncology 21(1), 53, 2005.(第 9 回 関東ハイパーサーミア研究会, 前橋市) A00-0700-1 (1)千葉大・工,(2)千葉大・工学部大学院,(3)千葉大・フロンティアメディカル工学研究開発センター

15. 麻 醉 科 学 研 究 室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

助 教 授	小坂橋俊哉	電気けいれん療法後の記憶力の回復と bispectral index の変化 ロピバカイン硬膜外腔投与後の運動神経遮断効果
助 手	梅村 直治	ブトルファノール併用, 低用量ロピバカイン硬膜外腔持続注入による術後鎮痛 (A02-0740-2) 硬膜外腔に注入された局所麻酔薬のくも膜下腔移行の研究
	大内 貴志	プロポフォールと軽度低体温が脳代謝・循環に及ぼす影響
	印南 靖志	出血性ショック後遷延性臓器血流異常障害に対する蛋白分解酵素阻害薬メシル酸ガベキサートの効果

2. 成果の概要

1) 硬膜外腔に注入された局所麻酔薬のくも膜下腔移行の研究

硬膜外腔に注入された局所麻酔薬がくも膜下腔に拡散することは古くから知られた事実である。しかしその局麻薬の硬膜外腔への拡散が、加齢によりどのような影響をうけるのかは知られていないため、その解明をしていきたい。

2) ブトルファノール併用, 低用量ロピバカイン硬膜外腔持続注入による術後鎮痛 (A02-0740-2)

新しい長時間作用型の局所麻酔薬であるロピバカインは、従来用いられて来たピバカインと比較して中枢毒性や心毒性が低いことが特徴である。ロピバカインを術後鎮痛目的で硬膜外腔へ持続注入する場合には、0.2%溶液を6ml/hr の速度で使用することが推奨されているが、大容量の持続注入器を必要とすることが欠点として挙げられる。そこで当研究では、拮抗性鎮痛薬であるブトルファノールをロピバカインに併用することによって、持続注入速度を減少させることが可能か否か術後痛の程度から検討する。さらに、年齢による鎮痛効果の差があるかを調べ、年齢に応じた硬膜外腔注入薬の内容について考察する。

3) プロポフォールと軽度低体温が脳代謝・循環に及ぼす影響

プロポフォールと軽度低体温が、アカゲザルの脳局所の代謝・循環に及ぼす影響を Positron Emission Tomography scanner を用いて調べた。鎮静量から麻酔量へのプロポフォール投与量の増加と、常温からの体温の軽度低下は、共に脳局所での代謝を有意に低下させ、脳局所での代謝を低下させる傾向にある。また、脳局所での代謝・循環の連関現象を維持されていることが解った。

4) 出血性ショック後遷延性臓器血流異常障害に対する蛋白分解酵素阻害薬メシル酸ガベキサートの効果

In Vitro では蛋白分解酵素阻害薬メシル酸ガベキサートは、凝固系活性化抑制作用により血管内微小血栓形成を防止する。メシル酸ガベキサートが出血性ショックに伴う微小循環障害に起因する凝固系ならびに白血球活性化を抑え、蘇生後の遷延性臓器血流異常を修復する作用があると仮説を立てた。家兔出血性ショックモデルを用いて検討を行った結果、In Vitro & 単細胞レベルで効果の認められているメシル酸ガベキサートの投与は、出血性ショック蘇生後の遷延性臓器血流下を抑えることはできなかった。

論 文

1. 梅村直治, 小坂橋俊哉 : 上腹部手術後の持続硬膜外鎮痛法として、ブトルファンール併用がロピバカイン硬膜外腔持続注入量に与える影響, 臨麻 28(4), 713 ~ 718, 2004. 原著
2. 鈴木麻衣子, 小坂橋俊哉, 梅村直治, 大木貴博⁽¹⁾, 高橋正憲⁽²⁾, 滝野善夫 : 肺血栓塞栓症によって死亡した大腿骨骨折の一例, 臨麻 28(4), 729 ~ 731, 2004. 症例 (1)市病・循環器科,(2)市病・整形外科
3. Koitabashi,T. : Integration of suppression ratio in the bispectral index, J Anesth 18(2), 141 ~ 143, 2004. 原著
4. 小坂橋俊哉, 渡辺陽子, 梅村直治 : 婦人科手術後に褥瘡を生じた9症例の検討, 臨麻 28(5), 873 ~ 876, 2004. 症例
5. 小坂橋俊哉, 大内貴志, 梅村直治 : プロポフォールの中枢抑制作用に及ぼす亜酸化窒素の影響, 麻酔 53(6), 650 ~ 653, 2004. 原著
6. 大内貴志, 小坂橋俊哉 : Complex regional pain syndrome, Medicina 41(8), 1349 ~ 1351, 2004. 臨床
7. 小坂橋俊哉, 印南靖志, 大内貴志, 梅村直治 : プロポフォールによる注入時血管痛の発現頻度および強度に与える年齢の影響, 臨麻 28(10), 1657 ~ 1661, 2004. 原著
8. 小坂橋俊哉, 大内貴志, 印南靖志, 梅村直治 : プロポフォール注入時の血管痛記憶を減少させるために必要なミダゾラム前投薬の用量, 臨麻 28(10), 1791 ~ 1795, 2004. 原著
9. 逢坂佳宗, 小坂橋俊哉 : 自発呼吸下の呼吸系パラメーターとプロポフォール予測効果部位濃度との関係, 麻酔 53(10), 1130 ~ 1135, 2004. 原著

単行図書

1. 小坂橋俊哉(a): 著分担 :計る・観る・読むモニタリングガイド-安心・安全な歯科治療のために- (a)モニタリングの基礎知識:何をモニタリングするのか? 104 ~ 125 頁, 医歯薬出版, 東京, 2004.
2. 大内貴志(a): 著分担 :疑問に答える深部静脈血栓症予防ハンドブック (a)東京歯科大学市川総合病院の取り組み 177 ~ 178 頁, 医歯薬出版, 東京, 2004.

学会抄録

1. 大内貴志, 小坂橋俊哉, 印南靖志, 梅村直治 : BSS-9800BIS モジュールの使用経験, 臨床モニター 15(Suppl), 73, 2004.(第15回日本臨床モニター学会総会, 東京)
2. 小坂橋俊哉, 梅村直治, 印南靖志, 大内貴志 : プロポフォール注入時痛の記憶に及ぼすミダゾラムの影響, J Anesth 18(Suppl), 140(P1N08) ~ 140, 2004.(日本麻酔科学会第51回学術集会, 名古屋市)

3. 森崎重規⁽¹⁾, 小澤靖弘⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 梅村直治, 小坂橋俊哉, 金子 讓⁽²⁾ : 下顎枝矢状分割法施行患者の術後痛対策-Patient controlled analgesia (PCA) の効果-, 第 14 回日本顎変形症学会総会抄録集, 140, 2004.(第 14 回日本顎変形症学会総会, 福岡市) (1)市病・オーラルメディスン,(2)歯麻
4. Innami,Y., Oouchi,T., Umemura,N., Koitabashi,T. : Target controlled infusion of propofol requires less frequent infusion rate adjustments than does manually controlled infusion, 13th World Congress of Anaesthesiologists, 299(PO980) ~ 299, 2004.(13th World Congress of Anaesthesiologists, Paris, France)
5. Koitabashi,T. : Nitrous oxide elicits different bispectral index responses dependent on basal propofol concentration, 13th World Congress of Anaesthesiologists (CD-ROM), 99(PO272) ~ 99, 2004.(13th World Congress of Anaesthesiologists, Paris, France)
6. 小坂橋俊哉, 印南靖志, 大内貴志, 梅村直治 : 下腹部手術時の硬膜外腔穿刺部位の違いがロピバカインの運動神経遮断作用に及ぼす影響, J Anesth **18**(Suppl), 144, 2004.(日本麻酔科学会第 51 回学術集会, 名古屋市)
7. 梅村直治, 小坂橋俊哉, 印南靖志, 大内貴志 : プロポフォール注入時痛の発現頻度と年齢の関係, J Anesth **18**(Suppl), 140(P1O01) ~ 140, 2004.((社)日本麻酔科学会第 51 回学術集会, 名古屋市)
8. 森崎重規⁽¹⁾, 小澤靖弘⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 小坂橋俊哉, 金子 讓⁽²⁾ : 顎変形症術後痛に対する PCA の効果, J Anesth **18**(Suppl), 159(P1Y11) ~ 159, 2004. (日本麻酔科学会第 51 回学術集会, 名古屋市) (1)市病・オーラルメディスン,(2)歯麻
9. 梅村直治, 小坂橋俊哉, 大内貴志, 印南靖志 : フェンタニル併用・低用量ロピバカインを硬膜外腔持続注入した場合の術後鎮痛効果;年齢による影響, J Anesth **18**(Suppl), 162(P1AB11) ~ 162, 2004.(日本麻酔科学会第 51 回学術集会, 名古屋市)
10. 小坂橋俊哉, 大内貴志, 印南靖志, 梅村直治 : 電気けいれん療法後の記憶障害の検討, 日麻学会東京支部抄録 **44**, 121, 2004.(日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部 第 44 回合同学術集会, つくば市)
11. 古川肇栄, 印南靖志, 大内貴志, 梅村直治, 小坂橋俊哉 : 挿管困難症を伴わなかった Hallermann-Streiff 症候群の麻酔経験, 日本麻酔科学会東京支部抄録集, 139, 2004.(日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部 第 44 回合同学術集会, つくば市)
12. 小坂橋俊哉 : BIS モニターと筋弛緩モニター“今、何が新しい?”, 日臨麻会誌 **24**(8), S54, 2004.(日本臨床麻酔学会 第 24 回大会, 大阪市)
13. 小坂橋俊哉 : BIS モニターによる恩恵 - 研修医教育から指導医による麻酔まで -, 日臨麻会誌 **24**(8), S54, 2004.(日本臨床麻酔学会 第 24 回大会, 大阪市)
14. Koitabashi,T. : Differences of BIS monitoring condition between the US and Japan, Anesthesiology **101**, S, 2004.(the American Society of Anesthesiologists 2004 Annual Meeting, Las Vegas, USA)
15. Koitabashi,T., Oouchi,T., Innami,Y., Umemura,N. : The Integration of Suppression Ratio in BIS-XP Algorithm, Anesthesiology **101**, A529, 2004.(American Society of Anesthesiologists 2004 Annual Meeting, Las Vegas, USA)

16. Koitabashi,T., Umemura,N., Oouchi,T., Innami,Y. : The Effect between Bolus Administration of 1% Ropivacaine and Continuous Infusion of Lower Concentrations of Ropivacaine on Pain Relief and Duration of Motor Impairment Following Lower Abdominal Surgery, *Anesthesiology* **101**, A937, 2004.(the American Society of Anesthesiologists 2004 Annual Meeting, Las Vegas, USA)
17. 大内貴志, 印南靖志, 梅村直治, 小坂橋俊哉 : 平成 15 年に経験した周術期肺血栓栓症と肺血栓栓症・深部静脈血栓症予防ガイドライン, *歯科学報* **104**(5), 535, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市)
18. 原田裕久⁽¹⁾, 小川信二⁽¹⁾, 佐藤道夫⁽¹⁾, 正村 滋⁽¹⁾, 安藤暢敏⁽¹⁾, 大内貴志, 印南靖志, 梅村直治, 小坂橋俊哉 : 当院における周術期肺血栓栓症予防ガイドライン, *静脈学* **15**, 81, 2004.(第 24 回日本静脈学会総会, 三重市) (1)市病・外科
19. Innami,Y., Oouchi,T., Umemura,N., Koitabashi,T. : Life threatening hemothorax resulting from right brachiocephalic vein perforation during internal jugular vein catheterization., *Anesth Analg* **100**, S86, 2005.(International Anesthesia Research Society 79th Clinical and Scientific Congress, Honolulu, USA)
20. Koitabashi,T., Innami,Y., Oouchi,T., Umemura,N. : Age difference as related to the incidence and severity of propofol injection pain, *Anesth Analg* **100**, S304, 2005.(International Anesthesia Research Society 79th Clinical and Scientific Congress, Honolulu, USA)
21. 印南靖志, 大内貴志, 梅村直治, 小坂橋俊哉 : プロポフォール注入時痛の記憶に及ぼす少量ミダゾラムの影響, *日麻薬誌* **17**(1), 40 ~ 42, 2005.(日本麻酔・薬理学会第 26 回学術大会, 東京)
22. 大内貴志, 印南靖志, 梅村直治, 小坂橋俊哉 : 自発呼吸回数によってフェンタニルの投与量を調節した, 空気酸素 セボフルラン麻酔, *日本麻酔・薬理学会誌* **17**(1), 53 ~ 54, 2005.(日本麻酔・薬理学会第 26 回学術大会, 東京)

16. 精神・神経科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

講師	吉野 文浩	アルツハイマー型認知症と選択的意味記憶障害例における意味記憶障害構造の分析と比較 (A02-0750-1)
	小田 健一	気分障害者の喫煙行動に関する研究
病院助手	森 秀和	(臨床精神医学)

2. 成果の概要

1) アルツハイマー型認知症と選択的意味記憶障害例における意味記憶障害構造の分析と比較 (A02-0750-1)

健常群 20 例 (平均年齢 72.9 ± 5.7 歳) を対照として, アルツハイマー型認知症群 25 例 (平均年齢 76.2 ± 6.1 歳) の呼称障害を検討した結果, アルツハイマー型認知症の呼称障害は対象物と語彙目録との離断に関連した症状であり, 意味記憶障害を反映した症状ではないことが示唆された. なお, 本成果は第 28 回日本高次脳機能障害学会総会で発表した.

高次脳機能研究 25 (1), 86, 2005.

論 文

1. 春原則子⁽¹⁾, 宇野 彰⁽²⁾, 金子真人⁽³⁾, 加藤元一郎⁽⁴⁾, 吉野文浩 : 英語学習の困難さを主訴とした中学生・高校生の認知機能, 神心理 20(4), 264 ~ 271, 2004. 原著 RI 研 (1)東京都済生会中央病院リハビリテーション科,(2)筑波大・大学院・人間総合科学研究科,(3)都立大塚病院・リハビリテーション科,(4)慶大・医・精神神経科

解 説

1. 吉野文浩, 加藤元一郎⁽¹⁾, 鹿島晴雄⁽¹⁾ : 痴呆の心理テストと評価スケール, 治療 86(5), 65 ~ 72, 2004. (1)慶大・医・精神神経科
2. 吉野文浩, 鹿島晴雄⁽¹⁾ : 統合失調症の認知機能評価第 1 回「Wisconsin Card Sorting Test」, Schizophrenia Front 6(1), 58 ~ 61, 2005. (1)慶大・医・精神神経科

学会抄録

1. Nakachi,R., Akiyama,T.⁽¹⁾, Kato,M.⁽²⁾, Saitou,F.⁽²⁾, Yoshino,F., Muramatsu,T.⁽²⁾, Kashima,H.⁽²⁾ : Inability to recognize stimuli within categories in progressive prosopagnosia, Cognitive Neuroscience Society Annual Meeting Program 2004, 152, 2004.(11th Cognitive neuroscience society annual meeting 2004 , San Francisco, USA) (1)駒木野病院,(2)慶大・医・精神神経科
2. 藤永直美⁽¹⁾, 加藤元一郎⁽²⁾, 村松太郎⁽²⁾, 吉野文浩, 三村将⁽³⁾, 鹿島晴雄⁽²⁾ : 生物カテゴリーに特異的な視覚失認例における視覚的特徴(知識)の想起障害について, 神心理 20(4), 275, 2004.(第 28 回日本神経心理学学会総会, 広島市) (1)のぞみ病院リハビリテーション科,(2)慶大・医・精神神経科,(3)昭和大・医・精神科
3. 吉野文浩, 斎藤文恵⁽¹⁾, 加藤元一郎⁽¹⁾ : アルツハイマー型痴呆の呼称障害, 高次脳機能研 25(1), 86, 2005. (第 28 回日本高次脳機能障害学会総会, 浦安市) (1)慶大・医・精神神経科

17. 臨床検査科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 教授 宮内 潤 白血病・小児がんの発症機序と増殖・分化調節機構の解明
- 助教授 田中 陽一 舌早期癌の病理学的研究 免疫組織化学およびパノラマ連続写真を用いた上皮内伸展癌について (A97-0780-1)
- 口腔癌の病理組織学的研究 特に病理学的検索と予後との関係について (A97 0780 2)

2. 成果の概要

1) 小児がんには自然治癒をきたすなど特異な細胞生物学的性格を有する腫瘍がみられ、これらの腫瘍発生機序の解明は、将来の新しいがん治療法の開発に貢献する可能性が期待される。本年度は我が国の小児固形がんでもっとも頻度の高い神経芽腫について、クローナリティの解析を行った。女性の2本のX染色体上に存在する human androgen receptor (HUMARA) 遺伝子の多形性部位を PCR 法にて増幅し、父母由来の遺伝子を識別することで、腫瘍におけるクローナリティを判定した。その結果、検索した乳児神経芽腫症例はすべて多クローン性パターンを示した。腫瘍は通常単一クローンの細胞からなると考えられているが、ポリクローナルな腫瘍も存在することが知られており、また同一腫瘍内の異なる部位から異なるクローン性が証明される場合もあることが最近報告されるなど、腫瘍のクローナリティに関する新しい研究の展開もみられている。今回の結果は神経芽腫の特殊な生物学的性格と関連する可能性も考えられる。今後、自然治癒のみられない予後不良な年長児の神経芽腫についても解析を行い、生物学的特徴との関連について乳児例と比較検討を行う予定である。

Int J Oncol 26(5), 1329-1335, 2005

2) 舌早期癌および口腔癌の病理学的研究

舌早期癌 File を含め、口腔癌の Bread loaf step sectioning (BLSS) による詳細な検索は平成 16 年度に新たに追加された症例を含めて 250 例を越えた。組織学的な評価の項目を見直し、日本口腔腫瘍学会口腔癌 Working group において、臨床的な項目を含めた取り扱い規約的な評価法を検討した。今後はこの Working group でのデータを中心に研究を進めることとなる。標準化への大きな前進で、手術材料の sampling 法に関しては、全容を歯科学報 (Vol.101(N011)1008-10162001 標準化に向けた口腔癌の病理組織学的検索——特に舌癌切除材料の Breadloaf step sectioning (BLSS) 法——) に掲載している。Working group においても sampling 法は BSL 法を基本にすることが申し合わされている。また口腔癌の病理組織学的研究 (A97 0780 2) で行ってきた臨床視診などの臨床データとの対比は Group の基本データとなった。舌癌取り扱い指針 (第 1 版) において、今後画像情報を含む臨床所見、手術所見、病理所見を共通の基準で正確に記載するための基本データとなった。具体的な作業は現在も進行中である。

日口腔腫瘍会誌 17 (1), 13~85

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
宮内 潤	神経芽腫の N-myc 遺伝子発現に対する siRNA の作用解析	国立成育医療センター	東京都世田谷区	宮下 俊之
田中 陽一	歯原性腫瘍の免疫染色の特徴	明海大学	坂戸市	田島 義文
田中 陽一	早期食道癌の臨床・病理組織学的検討	国立療養所久里浜病院	横須賀市	横山 顕

4. 科研費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
宮内 潤	神経芽腫進展の分子機構に基づく診断・治療法の確立	厚生労働省がん研究助成金
秦 順一	固形腫瘍の生物学的特異性の解明と新たな病理組織分類アトラスの作成	がんの子供を守る会治療研究助成金
横山 顕	早期食道癌の臨床・病理組織学的検討	班研究費

論 文

1. Kishikawa,H.⁽¹⁾, Nishida,J.⁽²⁾, Nakano,M.⁽²⁾, Arakawa,K.⁽¹⁾, Morishita,T.⁽¹⁾, Kawashima,J.⁽³⁾, Koide,O.⁽¹⁾, Tanaka,Y., Ishii,H.⁽¹⁾ : Chronic ischemic proctitis: case report and review, *Gastrointest Endosc* **60**(2), 304 ~ 308, 2004. 症例 (1)市病・内科,(2)市病・消化器科,(3)市病・皮膚科
2. Miyauchi,J., Kiyotani,C.⁽¹⁾, Shioda,Y.⁽¹⁾, Kumagai,M.⁽¹⁾, Honna,T.⁽¹⁾, Matsuoka,K.⁽¹⁾, Masaki,H.⁽¹⁾, Aiba,M.⁽²⁾, Hata,J.⁽¹⁾, Tsunematsu,Y.⁽¹⁾ : Unusual chromaffin cell differentiation of a neuroblastoma after chemotherapy and radiotherapy: Report of an autopsy case with immunohistochemical evaluations, *Am J Surg Pathol* **28**(4), 548 ~ 553, 2004. 症例 (1)国立成育医療センター,(2)東女医大・第二病院
3. Hayakawa,K.⁽¹⁾, Hayashi,E.⁽¹⁾, Aoyagi,T.⁽¹⁾, Hata,M.⁽¹⁾, Kuramoto,C.⁽²⁾, Tonogi,M.⁽²⁾, Yamane,G.⁽²⁾, Tanaka,Y. : Metastatic malignant ameloblastoma of the kidneys, *Int J Urol* **11**(6), 424 ~ 426, 2004. 症例 (1)市病・泌尿科,(2)市病・オーラルメディスン
4. Odell,E.⁽¹⁾, Aldred,M.⁽²⁾, Carlos,R.⁽³⁾, Curran, A.⁽⁴⁾, Heikinheimo,K.⁽⁵⁾, Hile,J.⁽⁶⁾, Ho,K.⁽⁷⁾, Kratochvil,F.⁽⁸⁾, Lau,S.⁽⁹⁾, Murrah,V.⁽¹⁰⁾, Reichart,P.⁽¹¹⁾, Stood,A.⁽¹²⁾, Tanaka,Y., Tilakaratne,W.⁽¹³⁾, Yih,W.⁽¹⁴⁾ : Clinico-pathological conference 2002, *Ann Acad Med Singapore* **33**(4Suppl), 53 ~ 58, 2004. 症例 (1)GKT Dental Institute, Gay's hospital,(2)Mayne Health Dorevitch pathology, Meibourne,(3)Servico de Diagnostico Clinico y Pathologico Guatemala City, Guatemala,(4)Univ. of Mississippi, School of Dentistry,(5)Univ. of Yurku, Finland,(6)University of Cape Town, Cape Town,(7)National University of Singapore, Singapore,(8)School of Dentistry, Oregon Health & Science University,(9)Institute for Medical Reserch, Kuala Lumpur,(10)Univ. of North Caolina School of Dentistry, Chapel Hill,(11)Charite, Universitaetsmedizin Berlin,(12)GTK Dental Institute, Gay's Hospital London,(13)Univ. of Peadeniya, Sri Lanca,(14)School of Dentistry Oregon Health & Science Univ., Portland
5. Terashima,T.⁽¹⁾, Matsuzaki,T.⁽¹⁾, kawada,I.⁽¹⁾, Nishida,J.⁽²⁾, Tanaka,Y., Morishita,T.⁽¹⁾, Takeyasu,Y.⁽³⁾, Yamane,G.⁽³⁾, Uchiyama,T.⁽⁴⁾ : Tongue metastasis as an initial presentation of a lung cancer, *Intern Med* **43**(8), 727 ~ 730, 2004. 症例 (1)市病・内科,(2)市病・消化器科,(3)市病・オーラルメディスン,(4)口外 II
6. 渡邊 裕⁽¹⁾, 岡崎雄一郎⁽¹⁾, 原口孝之⁽¹⁾, 小澤靖弘⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 田中陽一 : 下顎に生じた cystic ameloblastoma の一部に desmoplastic ameloblastoma の像を呈した 1 例, *日口腔外会誌* **50**(8), 479 ~ 482, 2004. 症例 (1)市病・オーラルメディスン
7. U,M.⁽¹⁾, Shen,L.⁽¹⁾, Oshida,T.⁽²⁾, Miyauchi,J., Yamada,M.⁽¹⁾, Miyashita,T.⁽¹⁾ : Identification of novel direct transcriptional targets of glucocorticoid receptor, *Leukemia* **18**(11), 1850 ~ 1856, 2004. 原著 (1)国立成育医療センター,(2)田辺製薬
8. Nishina,S.⁽¹⁾, Azuma,N.⁽¹⁾, Miyauchi,J., Kaneko,T.⁽¹⁾ : Surgical treatment of recurrent juvenile xanthogranuloma of the eyelid, *Jpn J Ophthalmol* **48**(6), 598 ~ 599, 2004. 原著 (1)国立成育医療センター
9. 谷郷 香⁽¹⁾, 田中陽一, 木津英樹⁽¹⁾, 大塚友乃⁽¹⁾, 川名裕正⁽¹⁾, 岡田 豊⁽¹⁾, 大泰司正嗣⁽¹⁾,朝波 惣一郎⁽¹⁾ : 顎骨骨肉腫 5 症例に対する MTX 大量療法の治療経験, *日口腔外会誌* **54**(2), 237 ~ 246, 2005. 臨床 (1)慶大・医・歯口外

10. 出雲俊之⁽¹⁾, 桐田忠昭⁽²⁾, 草間幹夫⁽³⁾, 佐藤 徹⁽⁴⁾, 田中陽一, 新谷 悟⁽⁵⁾, 篠原正徳⁽⁶⁾, 林 孝文⁽⁷⁾, 宮崎晃巨⁽⁸⁾, 山根正之⁽⁹⁾ : 舌癌取扱い指針ワーキング・グループ案(第 1 版), 日口腔腫瘍会誌 **17**(1), 13 ~ 85, 2005. 原著 (1)埼玉がんセンター・病理,(2)奈良医大・口外,(3)自治医大・歯口外,(4)鶴見大・歯・第 2 口外,(5)愛媛大・歯・歯口外,(6)熊本大・歯・歯口外,(7)新潟大・大学院・顎顔面放射線,(8)札幌医大・医・口外,(9)東医歯大・大学院・顎顔面外科
11. Shen,L.⁽¹⁾, Wu,Z.⁽²⁾, Kuroda,T.⁽¹⁾, Honna,T.⁽¹⁾, Tanaka,Y.⁽³⁾, Miyauchi,J. : Clonality analysis of childhood neuroblastoma by polymerase chain reaction for the human androgen receptor gene, Int J Oncol **26**(5), 1329 ~ 1335, 2005. 原著 (1)国立成育医療センター,(2)Shanghai Children's Medical Center,(3)神奈川県立こども医療センター
12. Kitano,Y.⁽¹⁾, Honna,T.⁽¹⁾, Nihei,K.⁽¹⁾, Miyauchi,J., Matsuoka,K.⁽¹⁾, Kuroda,T.⁽¹⁾, Tanaka, .⁽¹⁾, Morikawa,N.⁽¹⁾, Fuchimoto,Y.⁽¹⁾ : Renal angiomyolipoma in Japanese tuberous sclerosis patients, J Pediatr Surg **39**, 1784 ~ 1786, 2005. 原著 (1)国立成育医療センター

学会抄録

1. Okazaki,Y.⁽¹⁾, Satou,K.⁽¹⁾, Yoshida,K.⁽¹⁾, Watanabe,S.⁽¹⁾, Morisaki,S.⁽¹⁾, Watanabe,Y.⁽¹⁾, Ozawa,Y.⁽¹⁾, Morimoto,M.⁽¹⁾, Tonogi,M.⁽¹⁾, Tanaka,Y., Yamane,G.⁽¹⁾ : Clinicopathological study of treatment for oral epithelial dysplasia in early tongue carcinoma., Abstracts of the 58th Annual Meeting of American Academy of Oral Medicine, 2004. (58th Annual Meeting of American Academy of Oral Medicine, Florida,USA) (1)市病・オーラルメディスン
2. 田中陽一 : ワークショップ口腔上皮異形成の病理 形態解析から遺伝子解析 口腔上皮異形成の病理 形態解析の立場から, 日病理会誌 **93**(1), 169, 2004.(第 93 回日本病理学会総会, 札幌市)
3. 岡崎雄一郎⁽¹⁾, 渡邊伸也⁽¹⁾, 吉田恭子⁽¹⁾, 佐藤一道⁽¹⁾, 高田篤史⁽¹⁾, 渡邊 裕⁽¹⁾, 小澤靖弘⁽¹⁾, 森本光明⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 田中陽一 : 舌早期癌症例における上皮性異形成の評価および予後 SIN 分類による切除断端の評価(会議録), 日口腔腫瘍会誌 **16**(3), 111, 2004.(第 22 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 金沢市) (1)市病・オーラルメディスン
4. 鈴木康央⁽¹⁾, 田中陽一, 米良隆志⁽¹⁾, 山宮幸二⁽¹⁾, 入 久巳⁽¹⁾ : 乳腺穿刺吸引細胞診において判定が困難であった悪性リンパ腫の 1 例, 日臨細胞会誌 **43**(Suppl.2), 437, 2004.(第 43 回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京) (1)公立福生病院臨床検査科病理
5. 米良隆志⁽¹⁾, 田中陽一, 鈴木康央⁽¹⁾, 山宮幸二⁽¹⁾, 入 久巳⁽¹⁾ : 多核巨細胞を伴った乳頭腺管癌の 1 例 細胞学のおよび免疫学的検討, 日臨細胞会誌 **43**(Suppl.2), 439, 2004.(第 43 回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京) (1)公立福生病院臨床検査科病理
6. 田中陽一, 福田雅美, 宜保一夫, 長谷川日出子, 宮内潤, 荒井義雄 : ワークショップ消化器領域における画像診断と細胞診 1.口腔領域の画像と細胞診, 日臨細胞会誌 **43**(Suppl.2), 386, 2004.(第 43 回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京)
7. 大塚 裕⁽¹⁾, 高田篤史⁽¹⁾, 岡崎雄一郎⁽¹⁾, 森崎重規⁽¹⁾, 木津康博⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 田中陽一, 山根源之⁽¹⁾ : 口腔領域における悪性黒色腫の 2 症例, 日口腔外会誌 **50**(13), 873, 2004.(第 6 回 アジア口腔顎顔面外科学会第 49 回 日本口腔外科学会 , 東京) (1)市病・オーラルメディスン

8. 岡崎雄一郎⁽¹⁾, 渡邊伸也⁽¹⁾, 吉田恭子⁽¹⁾, 佐藤一道⁽¹⁾, 高田篤史⁽¹⁾, 森崎重規⁽¹⁾, 渡邊 裕⁽¹⁾, 蔵本千夏⁽¹⁾, 木津康博⁽¹⁾, 小澤靖弘⁽¹⁾, 森本光明⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 田中陽一, 山根源之⁽¹⁾: T1,T2 舌癌症例における切除断端の検索, 日口腔外会誌 **50**(13), 884, 2004.(第6回 アジア口腔顎顔面外科学会 第49回 日本口腔外科学会,東京)
(1)市病・オーラルメディスン
9. 内田 淳⁽¹⁾, 中村直史⁽¹⁾, 森崎重規⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 田中陽一, 山根源之⁽¹⁾: 木村氏病の 1 例, 日口腔外会誌 **50**(13), 932, 2004.(第6回 アジア口腔顎顔面外科学会 第49回 日本口腔外科学会総会, 東京) (1)市病・オーラルメディスン
10. 塩田曜子⁽¹⁾, 熊谷昌明⁽¹⁾, 岡田就将⁽¹⁾, 崎山美知代⁽¹⁾, 清谷千賀子⁽¹⁾, 松岡健太郎⁽¹⁾, 宮内潤, 恒松由記子⁽¹⁾: 全身の多発性骨融解像をともなう急性巨核芽球性白血病の 1 例, 小児がん **41**(3), 746, 2004.(第20回日本小児がん学会総会・第46回日本小児血液学会総会(同時開催), 京都市) (1)国立成育医療センター
11. 高場恵美⁽¹⁾, 松岡健太郎⁽²⁾, 宮内潤: 一過性骨髄増殖症と先天性白血病の鑑別が困難であったダウン症児の 1 例, 第 24 回日本小児病理研究会抄録集, 11, 2004.(第 24 回日本小児病理研究会, 横浜市) (1)都立豊島病院, (2)国立成育医療センター
12. 渡辺稔彦⁽¹⁾, 中野美和子⁽¹⁾, 遠藤昌夫⁽¹⁾, 工藤京子⁽¹⁾, 佐藤清二⁽¹⁾, 赤塚誠哉⁽¹⁾, 宮内潤: 気管支原発線維性組織球腫の 1 例, 第 15 回日本小児呼吸器外科研究会抄録集, 40, 2004.(第 15 回日本小児呼吸器外科研究会, 神戸市) (1)さいたま市立病院
13. 平本 準⁽¹⁾, 師田信人⁽¹⁾, 三島 牧⁽¹⁾, 埜中正博⁽²⁾, 山田淳二⁽¹⁾, 松岡健太郎⁽¹⁾, 宮内潤: 脊髄脂肪腫の臨床病理学的検討, 第 32 回日本小児神経外科学会抄録集, 2004.(第 32 回日本小児神経外科学会, さいたま市) (1)国立成育医療センター,(2)国立精神・神経センター
14. 稲富 淳⁽¹⁾, 藤丸季可⁽¹⁾, 鈴木輝明⁽¹⁾, 飯島一誠⁽¹⁾, 松岡健太郎⁽¹⁾, 宮内潤, 北村正幸⁽¹⁾, 関口昭彦⁽¹⁾, 百々秀心⁽¹⁾, 石澤 瞭⁽¹⁾: チアノーゼ性腎症の発症及び重症化メカニズムに関する臨床病理学的検討, 第 39 回日本腎臓病学会抄録集, 2004.(第 39 回日本腎臓病学会, 熊本市) (1)国立成育医療センター
15. 中嶋 顕⁽¹⁾, 村岡 渡⁽¹⁾, 高森康次⁽¹⁾, 永井哲夫⁽¹⁾, 中川種昭⁽¹⁾, 古屋 善章⁽²⁾, 岡本真一郎⁽²⁾, 田中陽一, 小澤靖弘⁽³⁾, 山根源之⁽³⁾: 顎骨病変を伴った Erdheim-Chester disease の 1 例, 日口腔科会誌 **54**(1), 98, 2005.(第 58 回日本口腔科学会総会, 横浜市) (1)慶大・医・歯口外,(2)慶大・医・内科,(3)市病・オーラルメディスン
16. 山田 学⁽¹⁾, 谷郷 香⁽¹⁾, 木村 彩⁽¹⁾, 柴 秀行⁽¹⁾, 岡田 豊⁽¹⁾, 中川 種昭⁽¹⁾, 朝波 惣一郎⁽¹⁾, 田中陽一: 悪性リンパ腫を疑った結核性頸部リンパ節炎の 1 例, 日口腔科会誌 **54**(1), 140, 2005.(第 58 回日本口腔科学会総会・学術大会, 横浜市) (1)慶大・医・歯口外
17. 佐藤一道⁽¹⁾, 田中陽一, 岡崎雄一郎⁽¹⁾, 森本光明⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 宜保一夫, 福田雅美, 荒井義雄, 宮内潤: 壊死性唾液腺化生の 2 例, 日臨細胞会誌 **44**(Suppl.1), 230, 2005.(第 46 回日本臨床細胞学会春期大会, 福岡市) (1)市病・オーラルメディスン
18. 富永英一郎⁽¹⁾, 北岡芳久⁽¹⁾, 高松 潔⁽¹⁾, 福田雅美, 宜保一夫, 田中陽一, 宮内潤: 当院における子宮腔内細胞診疑陽性・陽性症例の検討, 日臨細胞会誌 **44** (Suppl.1), 219, 2005.(第 46 回日本臨床細胞学会総会春期大会, 福岡市) (1)市病・産婦人科

19. 有馬誠亮⁽¹⁾, 谷郷 香⁽¹⁾, 金納理絵⁽¹⁾, 木村美邦⁽¹⁾, 木村 彩⁽¹⁾, 前田 亮⁽¹⁾, 岡田 豊⁽¹⁾, 中川 種昭⁽¹⁾, 朝波 惣一郎⁽¹⁾, 田中陽一 : 下唇に発生した腺房細胞癌の1例, 日口腔腫瘍会誌 **16**(3), 144, 2005.(第22回日本高校腫瘍学会総会, 金沢市) (1)慶大・医・歯口外